針原西遺跡発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年3月

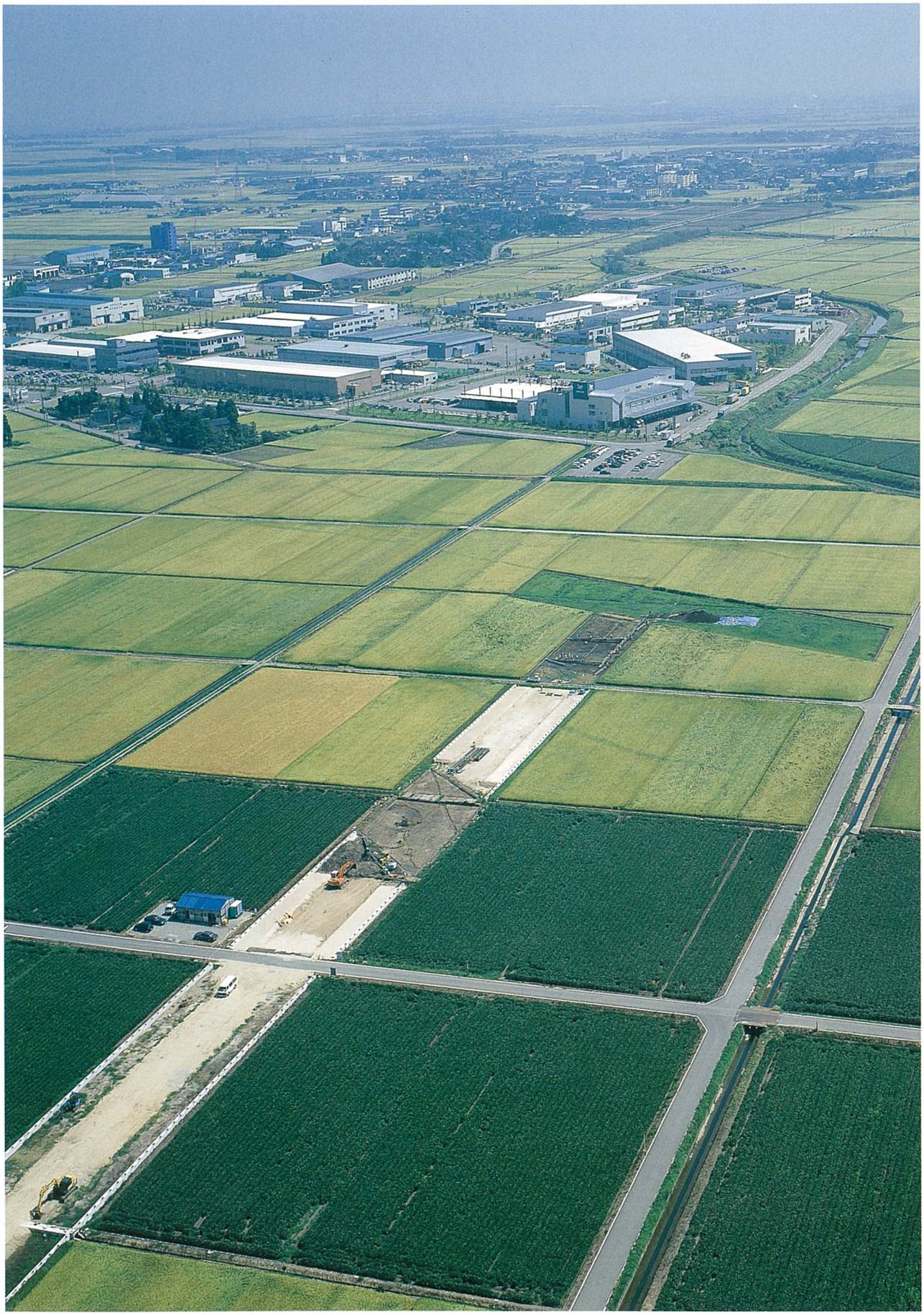
富山県小杉町教育委員会

針原西遺跡発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年3月

富山県小杉町教育委員会



針原西遺跡俯瞰（南西から）

巻頭図版 2

縄文時代の川跡出土遺物（石製品）

縄文時代の川跡出土遺物（土器片錘・土製円盤）

巻頭図版 4

縄文時代の木製品（東区　川跡出土）　1：短弓状木製品　2：掘棒（1/10）　3：男根状木製品（1/10）

例　　言

1．本書は富山県射水郡小杉町黒河地内に所在する針原西遺跡の発掘調査概要である。

2．調査は、町道東老田高岡線道路整備事業に先立ち、小杉町都市建設課の依頼を受け小杉町教育委員会が実施したものである。

3．調査期間及び面積は次のとおりである。

試掘調査　平成12（2000）年２月21日～２月25日（延べ５日間）　発掘面積1,178㎡（対象面積　14,000㎡）

本 調 査　平成12（2000）年７月17日～12月22日（延べ92日間）　発掘面積2,000㎡

遺物整理及び報告書作成

平成13（2001）年１月４日～平成14（2002）年３月31日

4．調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、課長補佐　高橋　登が調査事務を担当し、平成13年度は生涯学習課課長　御後庄司が、14年度は課長　萩野恭一が総括した。また調査は主任　原田義範が担当した。

5．調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導をいただいた。また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。（敬称略、五十音順）

上野　章・酒井重洋・田中　明・星井正弘・堀井泰樹・山内賢一・黒河地区安全対策協議会

6．本書掲載の遺物写真は、牛嶋　茂氏（奈良文化財研究所）が撮影した写真を使用した。

7．発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）

［現地調査］大杉正夫・酒井すず子・酒井義雄・高橋八智子・土田ユキ子・西野浪子・久野静枝・三上正夫
村井睦子・安田久実代・山口チズ子

［整理作業］金瀬ますみ・吉島正喜・開　一美・堀埜実津子・安田久実代・吉沢泰子

8．調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。

針原西遺跡　：HWW－Ⅰ

凡　　例

1．本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海抜高である。

2．調査区の座標は次のとおりである。

〔東区〕X14Y10＝X78545.816 Y－4205.319　X14Y40＝X78537.739 Y－4264.773

X６Y15＝X78528.615 Y－4213.074　X６Y40＝X78521.885 Y－4262.619

〔西区〕X５Y30＝X78504.377 Y－4376.631　X６Y10＝X78511.796 Y－4337.274

X15Y５＝X78530.988 Y－4329.814　X14Y25＝X78523.570 Y－4369.171

3．遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。

SD：溝、SK：土坑、SX：不明遺構

4．遺構図の縮尺はSDを１/80、SK・SXは１/40を基本にした。

5．出土遺物実測図の縮尺は土器の１/４を基本とし、縮尺の異なる出土遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。また遺物図版の縮尺は１/３を基本にし、異なる場合は別に表記した。

6．遺物実測図中の土器などの表現は次のとおりとした。

灰釉　　鉄釉　　石器（断面）　　須恵器・珠洲（断面）

7．土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編　1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社の表記を用い、土色の測定には土色計（第一合成社製　SRC－１）を使用した。

目　　次

Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 3
Ⅲ　調査の概要 …… 5
Ⅳ　針原西遺跡出土縄文土器群について …… 57
Ⅴ　針原西遺跡における古環境について …… 79

挿図目次

第１図　周辺の主な遺跡 …… 2
第２図　包蔵地の範囲と試掘調査位置 …… 4
第３図　試掘トレンチ配置と発掘調査区 …… 4
第４図　試掘調査の出土遺物 …… 5
第５図　遺構配置図（西区） …… 6
第６図　SD01（西区） …… 7
第７図　SD02・03，SX04（西区） …… 9
第８図　SD01・包含層出土遺物（西区） …… 11
第９図　遺構配置図（東区） …… 13
第10図　SD01（東区） …… 15
第11図　SD02（東区） …… 17
第12図　SD03～06・08，SK07，SX08（東区） …… 18
第13図　グリッド断面図（東区） …… 19
第14図　SX07・09・10（東区） …… 21
第15図　SX12・15・16・20～22・24・25・28～35・41～43，SK36，SD48（東区） …… 22
第16図　川跡出土遺物（東区） …… 23
第17図　川跡出土遺物（東区） …… 24
第18図　川跡出土遺物（東区） …… 25
第19図　SD02・04，包含層（１～３層下）出土遺物（東区） …… 26
第20図　川跡３層・３層下出土遺物（東区） …… 27
第21図　川跡４層出土遺物（東区） …… 28
第22図　川跡４層出土遺物（東区） …… 29
第23図　川跡４層・４層下出土遺物（東区） …… 30
第24図　川跡４層・４層以下出土遺物（東区） …… 31

第25図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……32
第26図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……33
第27図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……34
第28図　川跡４層・４層下と５層以下出土遺物（東区）……35
第29図　川跡５層出土遺物（東区）……36
第30図　川跡５層・５層下出土遺物（東区）……37
第31図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……38
第32図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……39
第33図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……40
第34図　川跡６層出土遺物（東区）……41
第35図　川跡６層・６層下出土遺物（東区）……42
第36図　川跡６層と７層出土遺物（東区）……43
第37図　川跡３～７層出土遺物（東区）……44
第38図　川跡３～７層出土遺物（東区）……45
第39図　SX07 出土遺物（東区）……46
第40図　SX09 出土遺物（東区）……47
第41図　SX09 出土遺物（東区）……48
第42図　SX09 出土遺物（東区）……49
第43図　SX09・10 出土遺物（東区）……50
第44図　川跡出土遺物（東区）……51
第45図　川跡出土遺物（東区）……52
第46図　川跡出土遺物（東区）……53
第47図　川跡，SX08・09 出土遺物（東区）……54
第48図　川跡出土遺物（東区）……55
第49図　縄文時代の出土遺物……60

表目次

第１表　針原西遺跡の主な周辺遺跡 …… 3
第２表　出土遺物観察表 …… 61～77

写真図版目次

巻頭図版１　針原西遺跡俯瞰（南西から）
巻頭図版２　縄文時代の川跡出土遺物（石製品）
巻頭図版３　縄文時代の川跡出土遺物（土器片錘・土製円盤）
巻頭図版４　縄文時代の木製品（東区　川跡出土）
１：短弓状木製品（1/３）　２：掘棒（1/10）　３：男根状木製品（1/10）

図版１　遺跡遠景
図版２　試掘調査
図版３　西区
図版４　東区：上層
図版５～８　東区：下層
図版９～24　出土遺物

Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡

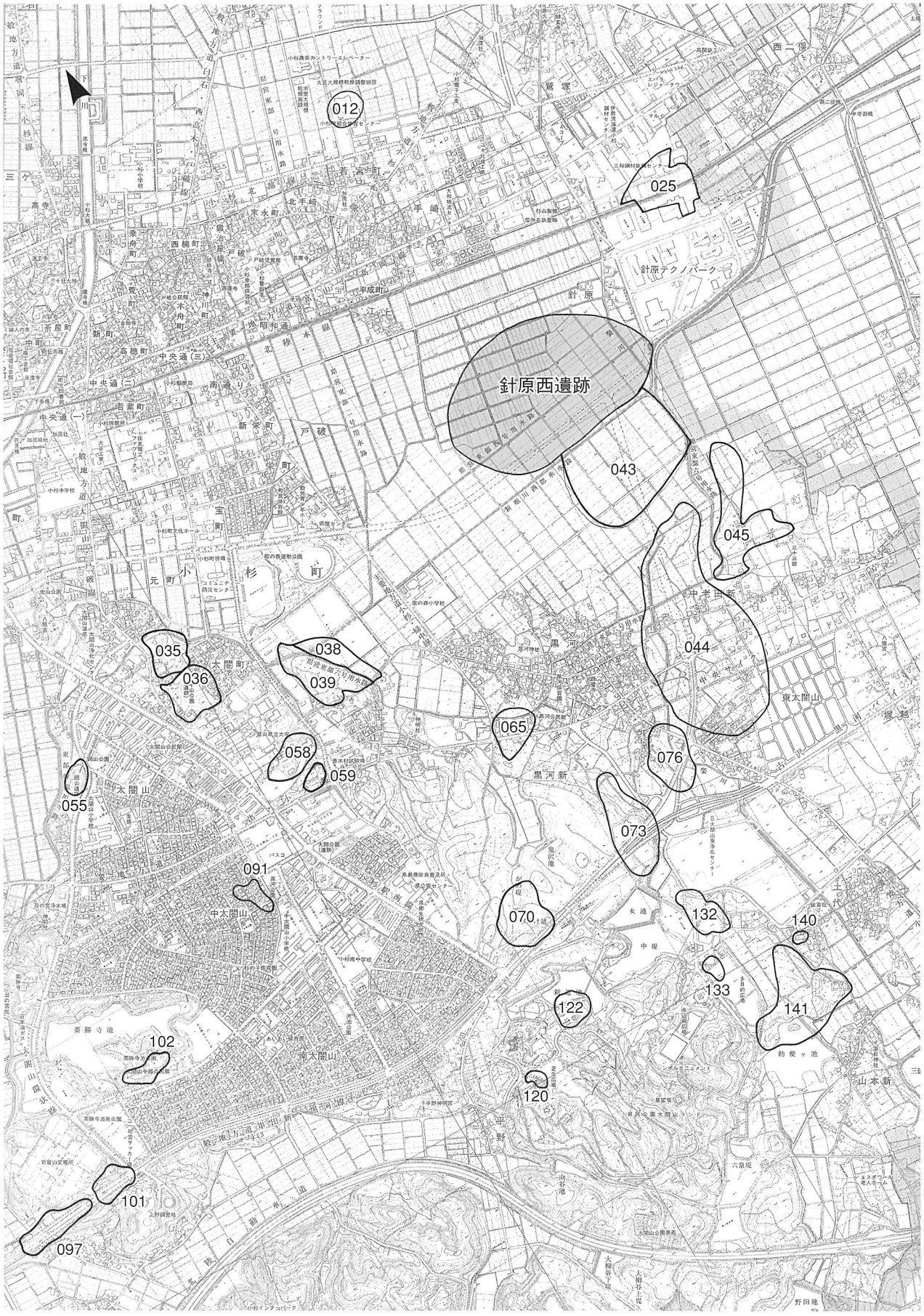
富山県は北に日本海、南に北アルプス・立山連峰に囲まれている。急峻な北アルプスに端を発する黒部川・片貝川・早月川・常願寺川・神通川・庄川・小矢部川の七大河川が扇状地・自然堤防帯・潟埋積平野を形成し、富山平野を成す。

この富山平野に対し、常願寺川と神通川により形成された、もう一つの富山平野が富山県のほぼ中央に位置し、その西に射水平野が位置する。本調査区が所在する富山県射水郡小杉町は、この射水平野と標高約10ｍほどの射水丘陵に位置する。本調査区は、この平野部と丘陵部のちょうど境目辺りに位置する。

今回は本遺跡周辺の遺跡として、1990年に富山考古学会縄文部会がまとめた「射水丘陵の縄文時代遺跡」を基に縄文時代の遺物が確認されている26遺跡をあげた。26遺跡の内訳を見ると、丘陵部に展開する遺跡は中山中遺跡や囲山遺跡、南太閤山Ⅰ遺跡などといった20遺跡が確認されている。これに対し平野部に展開する遺跡は、戸破若宮遺跡、黒河尺目遺跡など、本遺跡を入れて６遺跡が確認されている。丘陵部に展開する遺跡と平野部に展開する遺跡を時期別に比較すると、丘陵部においては、南太閤山Ⅰ遺跡の早期をはじめとし晩期後半まで、万遍なく遺物が出土している。一方、平野部においては、本遺跡と黒河尺目遺跡で前期前半の遺物が確認されているが、量的には少なく、中期以降が中心となる。

この分布状況の違いについて、まず、遺跡数の違いは開発による調査数が原因の一つとしてあげられる。これは、早い時期に太閤山を中心とした地域の開発事業が進んだためと考えられる。次に、時期の違いについては、約6,000年前の「縄文海進」による海水面の上下が一つの要因として考えられる。縄文海進時において、本遺跡が位置する射水平野部は大半が海面下、もしくは波打ち際となり、また、河川河口部分に所在する本遺跡などは、湿地帯であったと考えられることから、生活環境としては劣悪な条件下となる。

このため、縄文時代早期後半から前期前半にかけての生活拠点は平野部よりも若干高めの丘陵地域に設置され、本遺跡をはじめとした平野部の遺跡は、これらの生活拠点のキャンプ・サイトとしての性格が強いものと考えられる。縄文海進の最大ピークは縄文時代前期中葉から後葉にかけてであり、このときに最も射水平野に海面が入り込んでいたと見られる。その後、中期にかけて徐々に海面は後退していき、中期中葉ほどになると、一時期、現海水面よりも低い水準を示している。このことは、平野部に展開する遺跡の出土状況でも明らかで、本遺跡や黒河尺目遺跡のように、前期前半の遺物は出土してくるのに対し、前期中葉期、型式で蜆ヶ森式から福浦上層式期の土器群がほとんど見られない。その一方で、中期の新保式古段階からまた土器群が見られてくるようになるということからも、遺跡形成の過程が理解できるかと考えられる。



第１図　周辺の主な遺跡（1：20,000）

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	備考
012	戸破若宮遺跡	戸破字若宮	散布地	縄文・弥・奈・平・中・近	平成３年発掘調査
025	針原東遺跡	戸破字針原、富山市	散布地	縄・弥・奈・平・中	平成2・3・4年発掘調査
035	中山中遺跡	黒河	散布地	旧石・縄文・弥・古墳・奈	昭和56・平元年試掘調査、平2年発掘調査
036	中山南遺跡	黒河	集落	縄文・弥生	昭和50年県指定史跡、昭38・43年発掘調査
038	三谷遺跡	黒河新	散布地	旧石・弥・古墳・奈・中世	昭和63年発掘調査
039	一ッ山古墳群	黒河新	墓・古墳	弥生・古墳・奈良	昭和63年発掘調査
043	黒河・中老田遺跡	黒河、富山市	散布地	縄文・奈良・平安・中世	平成13年発掘調査
044	黒河尺目遺跡	黒河字尺目	集落	旧石・縄・奈・平・中・近	平成３年発掘調査
045	塚越貝坪遺跡	中老田新・塚越字貝坪	散布地・製鉄	縄文(中)・平・中	昭和62・63・平成２年一部試掘調査
055	囲山遺跡	太閤山八丁目	散布地・墓	縄文(前)・弥生(後)	昭和44年発掘調査
058	太閤山遺跡	黒河新字大開	散布地	縄文(中期)	
059	大開遺跡	黒河新字大開	散布地	縄文(中期)	昭和48年発掘調査
065	黒河竹山遺跡	黒河	散布地	縄文・奈良・平安	昭和62・63・平成３年一部試掘調査
070	高山遺跡	黒河字高山	散布地・製鉄	旧石器・平安	昭和54年発掘調査
073	東山Ⅱ遺跡	黒河字東山	散布地・製鉄	縄文・古墳・奈良	昭54・57年発掘調査、平2・3年試掘調査
076	表野遺跡	黒河新字表野	集落・製鉄	旧石器・縄文・奈良	昭和54年発掘調査、平成３年試掘調査
091	十三塚	中太閤山	その他	縄文(中期)・近世	昭和45年発掘調査
097	南太閤山Ⅰ遺跡	南太閤山19丁目	集落・墓	縄・弥・古墳・奈・平・近	昭和57～60年発掘調査
101	南太閤山Ⅱ遺跡	南太閤山	製鉄	縄・弥・古・奈・平	昭和55～58年発掘調査
102	薬勝寺池南遺跡	中太閤山	散布地	縄文	昭和48年一部発掘調査
120	太閤山ランド内№15遺跡	黒河	散布地・製鉄	縄文・古代	
122	新造池Ａ遺跡	黒河	散布地・集落	旧石器・縄文(中)・奈良	昭56年試掘調査、昭57年発掘調査
132	土代Ａ遺跡	黒河(土代字堀田ノ高)	散布地・製鉄	旧石・縄文・奈・平	昭和56年試掘調査
133	石太郎Ａ遺跡	黒河(土代字石太郎)	散布地	旧石器・縄文	昭和56年試掘調査
140	土代遺跡	山本新(土代)	散布地	縄文	昭和55年発掘調査
141	太閤山ランド内№26遺跡	山本新(土代)	散布地・製鉄	旧石・縄文・奈良・平安	

第１表　針原西遺跡の主な周辺遺跡

Ⅱ　調査の経緯

１調査に至るまで

針原西遺跡周辺の遺跡は、東側に隣接する針原東遺跡や西二俣遺跡、南側に位置する黒河・中老田遺跡が知られていた。当遺跡は、地元中学生が昭和63年７～８月にかけて水田の畦や畑の踏査を行い、弥生時代の土器や奈良時代の須恵器・土師器などを採集し、遺跡の存在が明らかになったものである。この時の踏査で針原東遺跡や西二俣遺跡の存在も確認されている[中島 1988]。

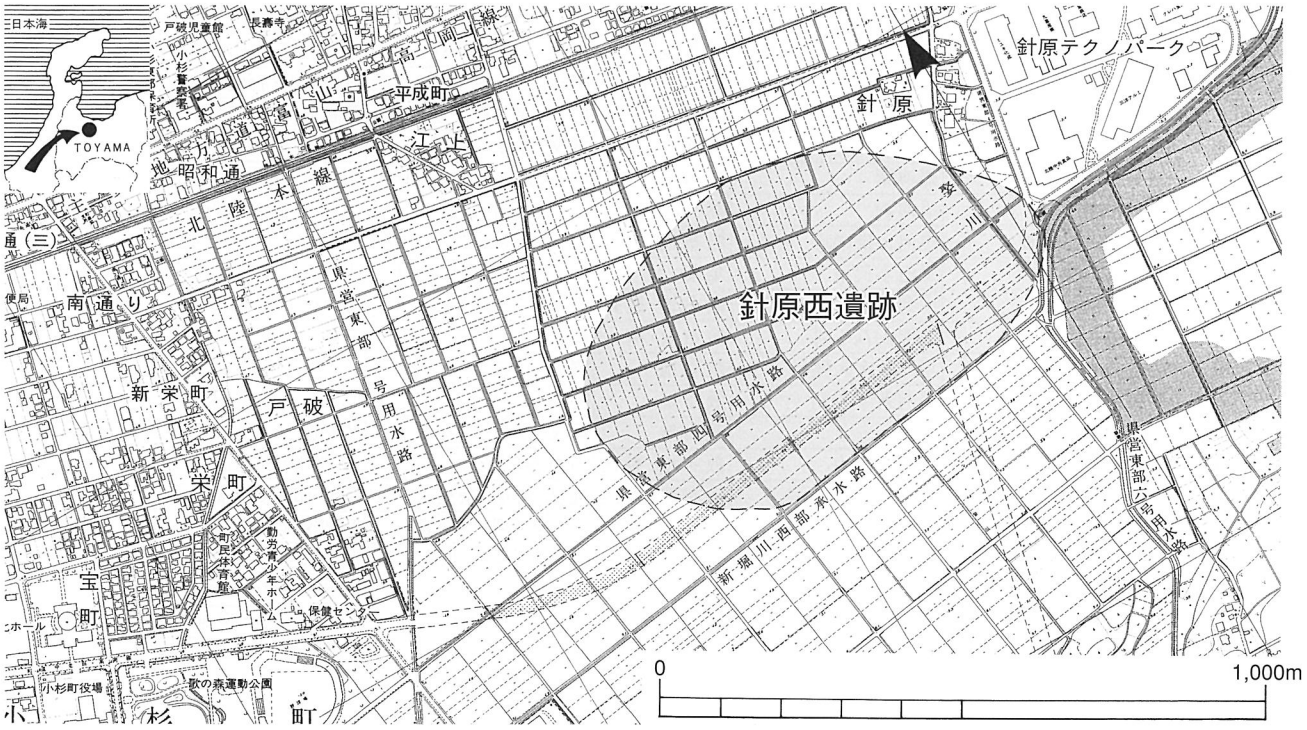
町道針原テクノパーク線道路整備事業は、昭和41年に都市計画決定された町道東老田高岡線道路整備事業（平成９年変更）が進むなか、町道177号線の交通量緩和を目的とし同路線の支線的な役割を担う道路として平成10年４月に計画されている。こうした経過の中、町教委にこの２路線の施工実施計画が示された。平成11年９月に町都市建設課と路線内の遺跡の取扱いについて協議したところ、秋の収穫後に周知の針原西遺跡を含む計画路線内の踏査を実施し、その結果を踏まえ調整を図っていくこととなった。

２分布調査（平成11年度）

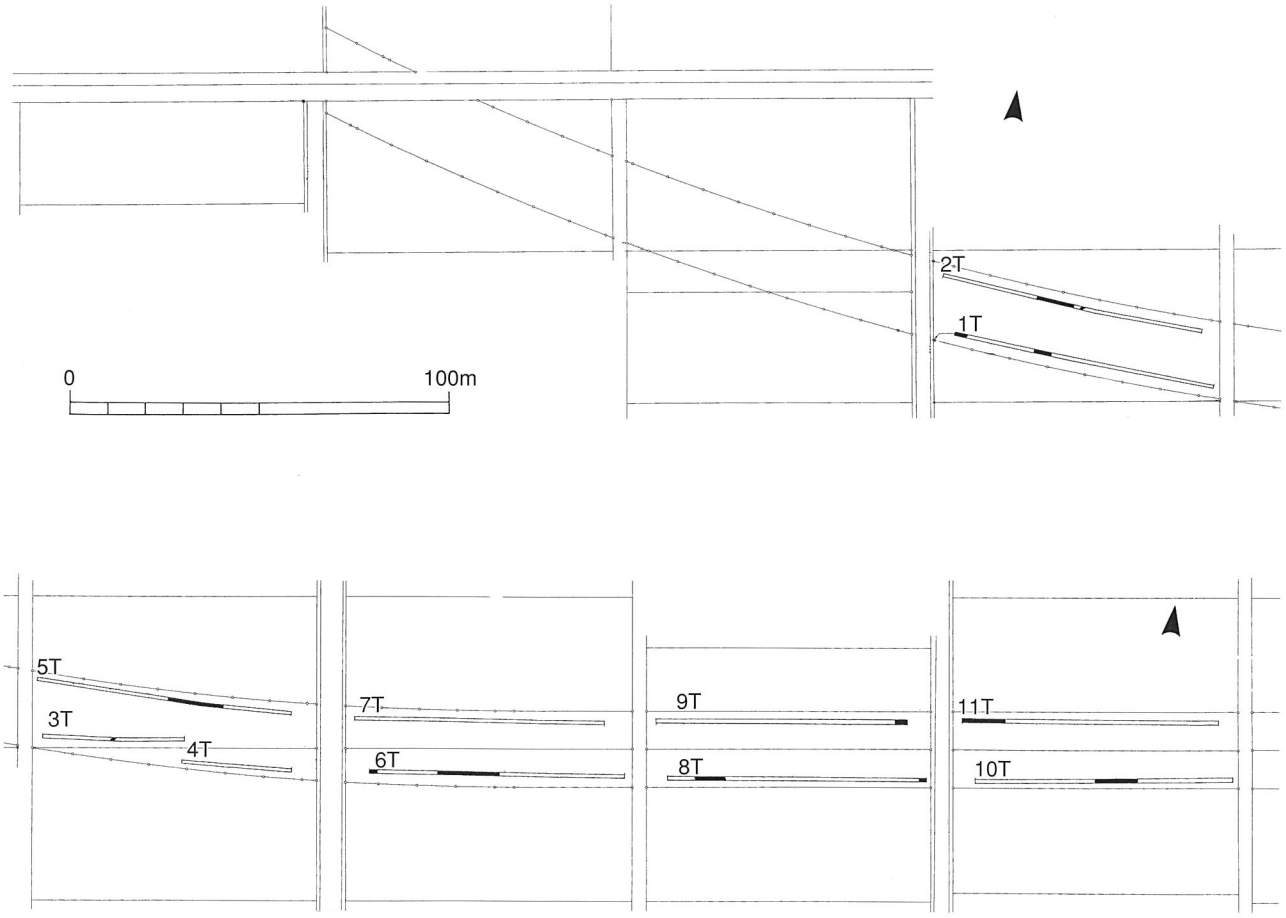
分布調査は10月５日に町教委が主体となり、町道東老田高岡線計画路線内全線を対象として実施し、周知の針原西遺跡を越える範囲で、弥生時代から近世に至る遺物の散布が確認された。この調査結果に基づき、遺物の散布が見られなかった計画路線東西端を除く路線内で試掘調査を実施することとなった。

３第１次試掘調査（平成11年度）

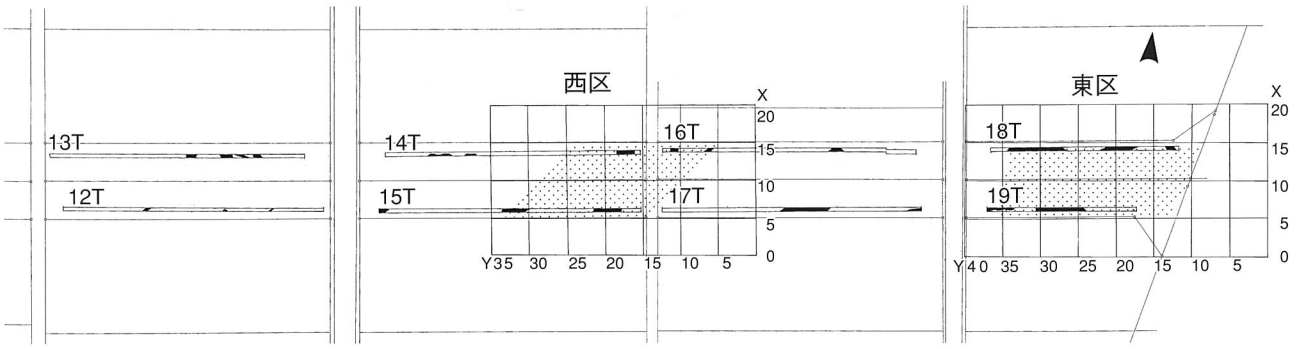
平成12年２月21日から２月25日まで町道東老田高岡線計画路線内の700ｍ区間で、西から東へと道路敷に平行する試掘溝を19本設定し行った。縄文時代から近世に至る遺物と小河川や溝状遺構などが確認でき、遺物・遺構にまとまりの見られた２地区2,000㎡で本調査が必要となった。



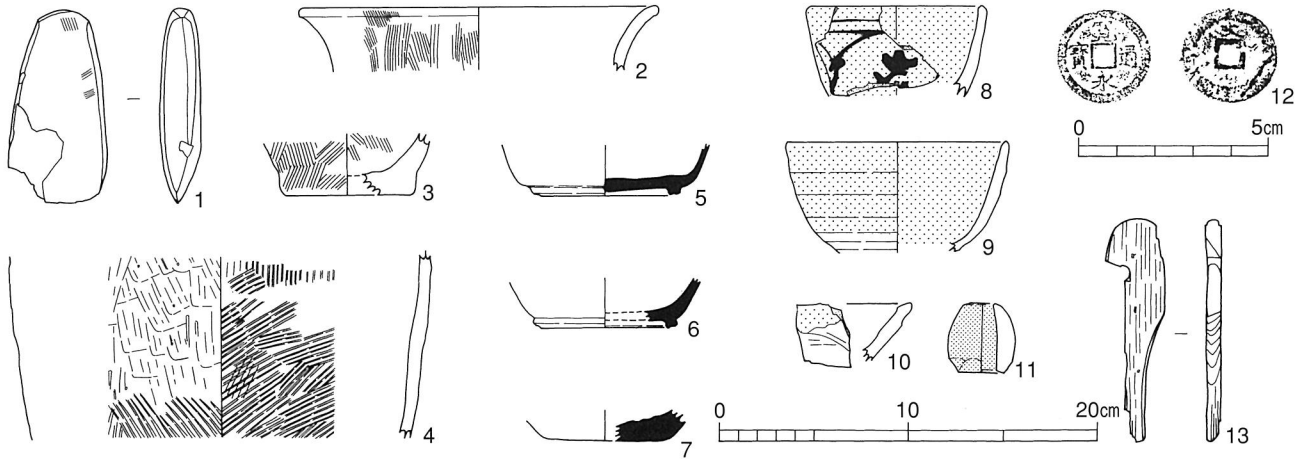
第２図　包蔵地の範囲と試掘調査位置



第３図　試掘トレンチ配置と発掘調査区



第３図　試掘トレンチ配置と発掘調査区



第４図　試掘調査の出土遺物

Ⅲ　調査の概要

１層序

調査区の基本層序は概ね１～５層に分層される。上から１層は水田耕作土、２層は黒褐色（2.5Y3/2）、３層は暗灰色（N3/0）で共に粘性やや強の遺物包含層、４層はオリーブ黒色（5Y3/1）で植物遺体を含む粘性強のピート層、５層は暗灰黄色（2.5Y4/2）で粘性やや弱・シルトの地山である。

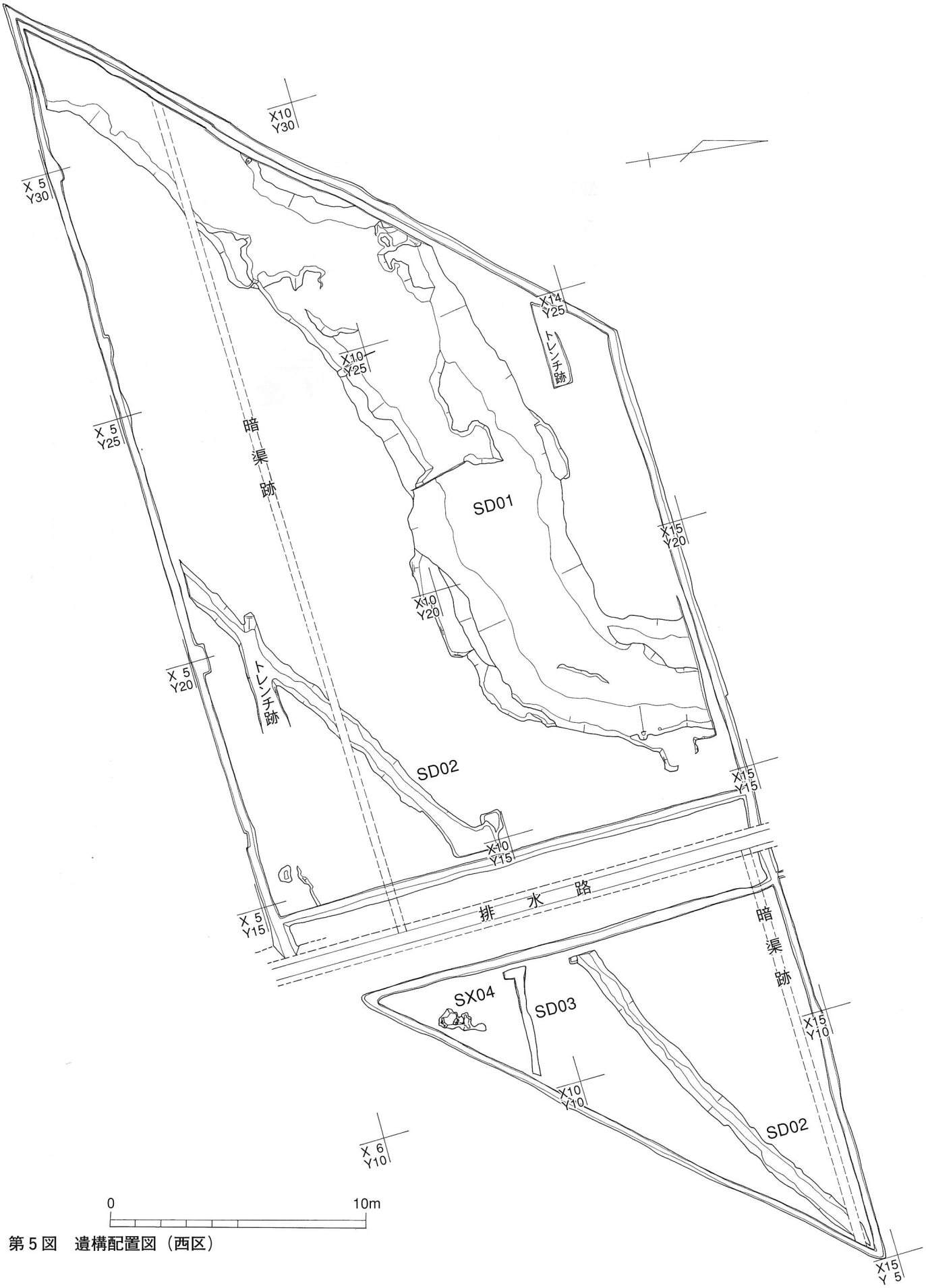
２遺構と遺物（西区）

SD０１［上層］（第５～８図、図版３）

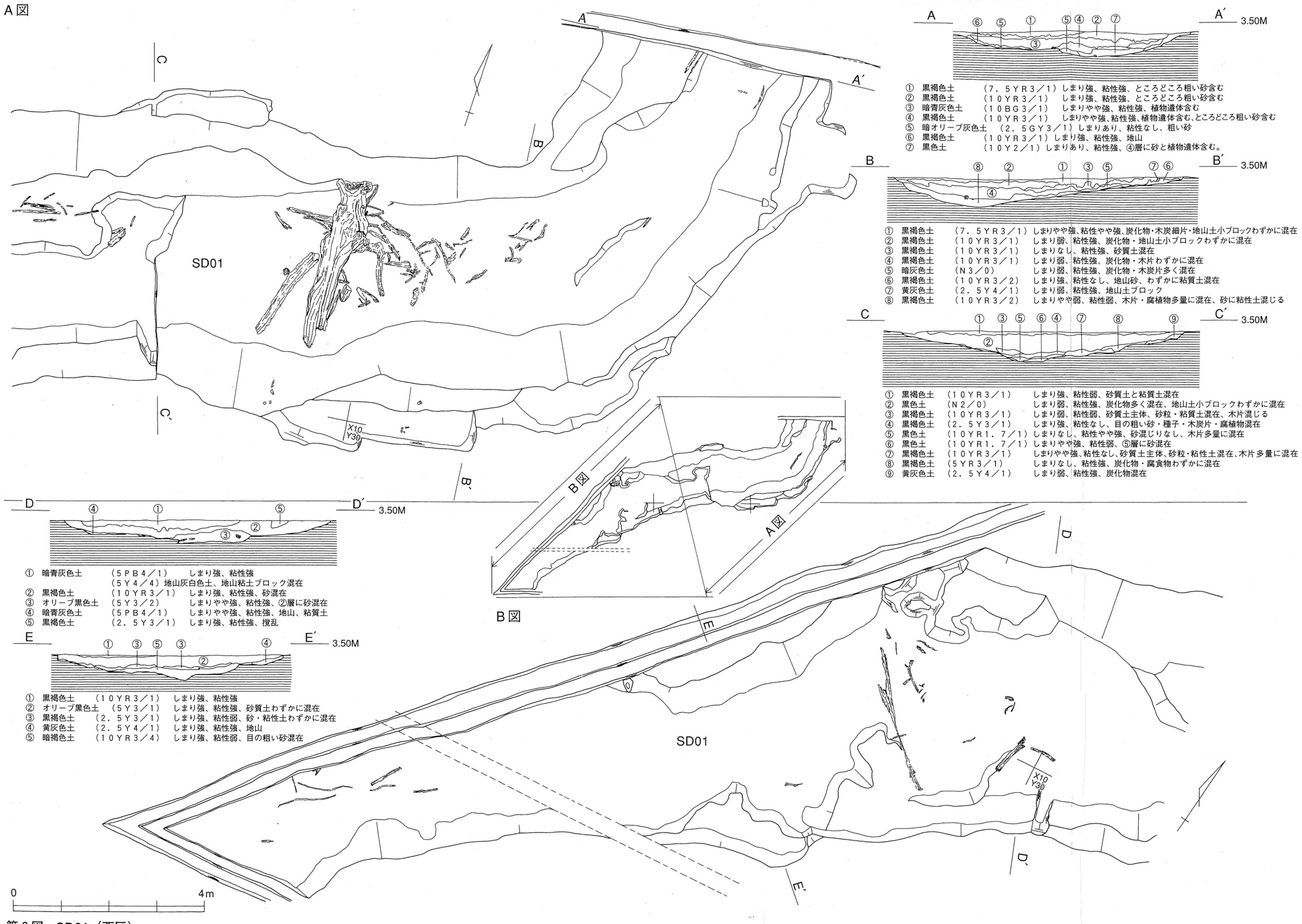
調査区の西端から東西方向に蛇行しながら流れ、途中で北側へ向きを変え、北端は調査区外へのびる溝である。全長約30ｍを検出し、幅4.6ｍ～6.6ｍ、深さは最深で約60㎝を測る。埋土は粘性の強い黒褐色土が主体的に堆積し、粗砂・炭化物・植物遺体等が混在する。遺物は土師器・須恵器・越中瀬戸・棒状木製品が出土しているが、溝の帰属時期を特定するものではないと考える。

SD０２［上層］（第５・７図、図版３）

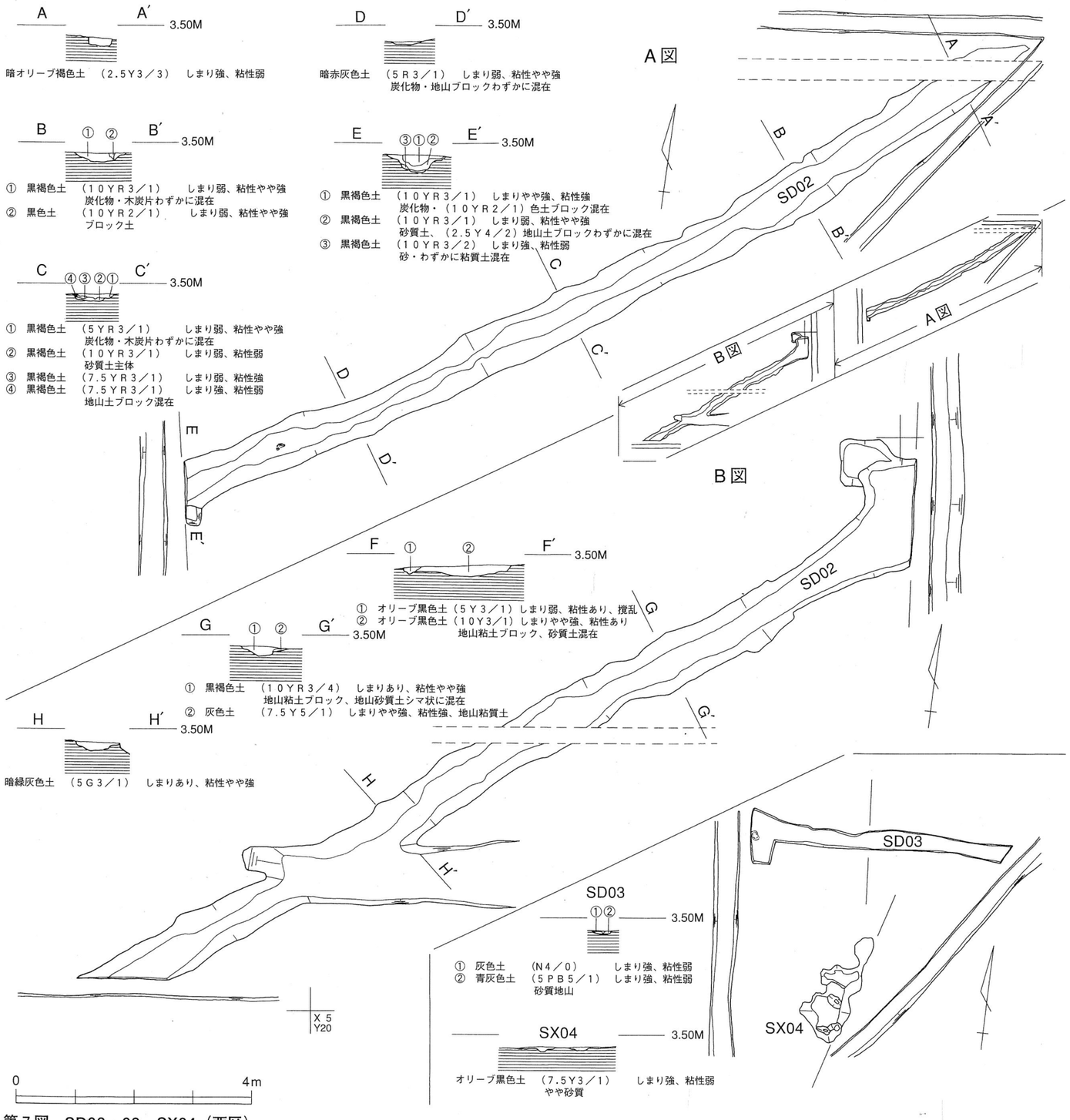
調査区南端から北東端へ向けて直線的に流れる溝である。両端とも調査区外へのび、途中排水路で分断されるが、全長約31ｍを検出した。幅0.6ｍ～1.0ｍ、深さは約16㎝で、粘性がやや強い黒褐色土が堆積している。遺物の出土は無い。


X10
Y30
X 5
Y30
X14
Y25
トレンチ跡
X10
Y25
X 5
Y25
暗渠跡
SD01
X15
Y20
X10
Y20
X 5
Y20
トレンチ跡
SD02
X15
Y15
X10
Y15
排水路
X 5
Y15
暗渠跡
SX04
SD03
X15
Y10
X10
Y10
SD02
X 6
Y10
X15
Y 5
0
10m

第５図　遺構配置図（西区）

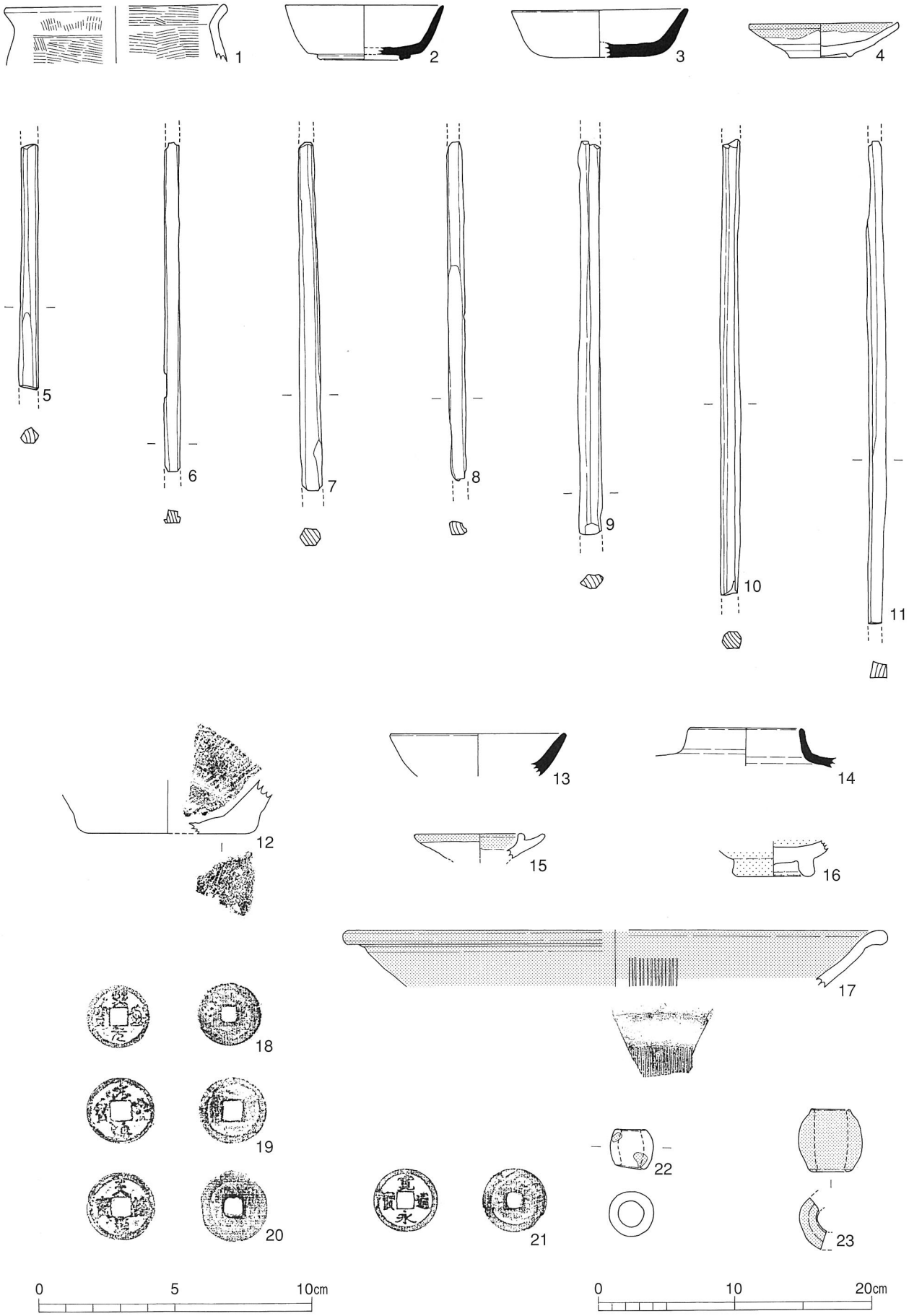

A図
SD01
X10
Y30
B図
A図
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
3.50M
① 黒褐色土 （7．5ＹＲ3／1）しまり強、粘性強、ところどころ粗い砂含む
② 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり強、粘性強、ところどころ粗い砂含む
③ 暗青灰色土 （10ＢＧ3／1） しまりやや強、粘性強、植物遺体含む
④ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまりやや強、粘性強、植物遺体含む、ところどころ粗い砂含む
⑤ 暗オリーブ灰色土 （2．5ＧＹ3／1）しまりあり、粘性なし、粗い砂
⑥ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1）しまり強、粘性強、地山
⑦ 黒色土 （10Ｙ2／1）しまりあり、粘性強、④層に砂と植物遺体含む。
① 黒褐色土 （7．5ＹＲ3／1）しまりやや強、粘性やや強、炭化物・木炭細片・地山土小ブロックわずかに混在
② 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり弱、粘性強、炭化物・地山土小ブロックわずかに混在
③ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまりなし、粘性強、砂質土混在
④ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり弱、粘性強、炭化物・木片わずかに混在
⑤ 暗灰色土 （N3／0） しまり弱、粘性強、炭化物・木炭片多く混在
⑥ 黒褐色土 （10ＹＲ3／2） しまり強、粘性なし、地山砂、わずかに粘質土混在
⑦ 黄灰色土 （2．5Ｙ4／1） しまり弱、粘性強、地山土ブロック
⑧ 黒褐色土 （10ＹＲ3／2） しまりやや弱、粘性弱、木片・腐植物多量に混在、砂に粘性土混じる
① 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり強、粘性弱、砂質土と粘質土混在
② 黒色土 （N2／0） しまり弱、粘性強、炭化物多く混在、地山土小ブロックわずかに混在
③ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり弱、粘性弱、砂質土主体、砂粒・粘質土混在、木片混じる
④ 黒褐色土 （2．5Ｙ3／1） しまり強、粘性なし、目の粗い砂・種子・木炭片・腐植物混在
⑤ 黒色土 （10ＹＲ1．7／1）しまりなし、粘性やや強、砂混じりなし、木片多量に混在
⑥ 黒色土 （10ＹＲ1．7／1）しまりやや強、粘性弱、⑤層に砂混在
⑦ 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまりやや強、粘性なし、砂質土主体、砂粒・粘性土混在、木片多量に混在
⑧ 黒褐色土 （5ＹＲ3／1） しまりなし、粘性強、炭化物・腐食物わずかに混在
⑨ 黄灰色土 （2．5Ｙ4／1） しまり弱、粘性強、炭化物混在
① 暗青灰色土 （5ＰＢ4／1） しまり強、粘性強
（5Ｙ4／4）地山灰白色土、地山粘土ブロック混在
② 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり強、粘性強、砂混在
③ オリーブ黒色土 （5Ｙ3／2） しまりやや強、粘性強、②層に砂混在
④ 暗青灰色土 （5ＰＢ4／1） しまりやや強、粘性強、地山、粘質土
⑤ 黒褐色土 （2．5Ｙ3／1） しまり強、粘性強、撹乱
① 黒褐色土 （10ＹＲ3／1） しまり強、粘性強
② オリーブ黒色土 （5Ｙ3／1） しまり強、粘性強、砂質土わずかに混在
③ 黒褐色土 （2．5Ｙ3／1） しまり強、粘性弱、砂・粘性土わずかに混在
④ 黄灰色土 （2．5Ｙ4／1） しまり強、粘性強、地山
⑤ 暗褐色土 （10ＹＲ3／4） しまり強、粘性弱、目の粗い砂混在
0
4m

第６図　SD01（西区）



第７図　SD02・03，SX04（西区）

SD01（1～11）



第８図　SD01・包含層出土遺物（西区）

2 遺構と遺物 （東区）

SD０１ ［上層］（第９・10図、図版４・24）

調査区の西北端から北東端へ東西方向に蛇行しながら流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長約53ｍを検出し、幅3.6ｍ～5.2ｍ、深さは最深で約1.1ｍを測る。埋土は粘性のやや強い黒褐色土が主体的に堆積し、砂・炭化物・植物遺体（自然流木・種子）等が混在する。遺物は縄文土器が出土しているが、下層遺構からの流れ込みであり、溝の帰属時期を決定するものではないと考える。この溝の位置・規模・土層断面・埋土状況等から推察すると、西区上層のＳＤ01の続きであると考えられる。

SD０２ ［上層］（第９・11・19図、図版４）

調査区の西南端から東へ向けて直線的に流れる溝である。全長約44ｍを検出、西端は調査区外へのびる。幅0.5ｍ～1.9ｍ、断面は逆台形状を呈し、埋土は粘性の強い黒褐色土が堆積している。出土遺物は近世陶器・田下駄・石錘である。帰属時期の特定には至らないが、形状・埋土状況から西区上層のＳＤ02と同時期と考える。

川跡 ［下層］（第９・13・16～18・20～38・44～48図、図版５～23）

調査区の西北端から東端へ東西方向に流れ、両端とも調査区外へのびる縄文時代の川跡である。全長約46ｍを検出し、幅16ｍ、深さは最深で約1.8ｍを測る。埋土は粘性の強い黒褐色土や暗青灰色土が堆積し、多量の縄文土器と共に砂・炭化物・植物遺体・貝殻等が混在する。遺物は縄文土器・土製品・石製品・木製品が出土。第31図403は斜め方向の平行条痕文、その間に刻みを施す早期末から前期初頭の佐波・極楽寺式。第33図428は底部に刺突文を施す前期中葉の朝日Ｃ式。第20図114は貼付隆帯及び半隆起線文、斜縄文を施す中期前葉の新保式。第21図148は多条半隆起線文による渦巻き文を施す中期中葉の古府式。第24図237は４単位の山形口縁や胴部に葉脈状文を施す中期後葉の串田新式。第40図619は口縁部から頸部にかけて平行沈線文及び蛇行沈線文を施す中期後葉の岩峅野式。第30図376は後期末葉の八日市新保式。帰属時期で考えると早期末から後期末葉までの時代幅にあたる。第30図387は板状土偶の脚部か。第21図135は頁岩のナイフ形石器。第45図698は長さ125㎝、直径約15㎝を測る男根形木製品で、突端部に加工痕を残す祭祀具と考えられる。樹種はクヌギ。祭祀用の男根は石棒が多く、木製品は全国的にも珍しく富山県内初出土である。第48図716（オニグルミ）の貫穴に717（トネリコ属）がはめ込まれた状態で出土、つまり樹種の異なる木を組み合わせていたことから、建築部材と考える。

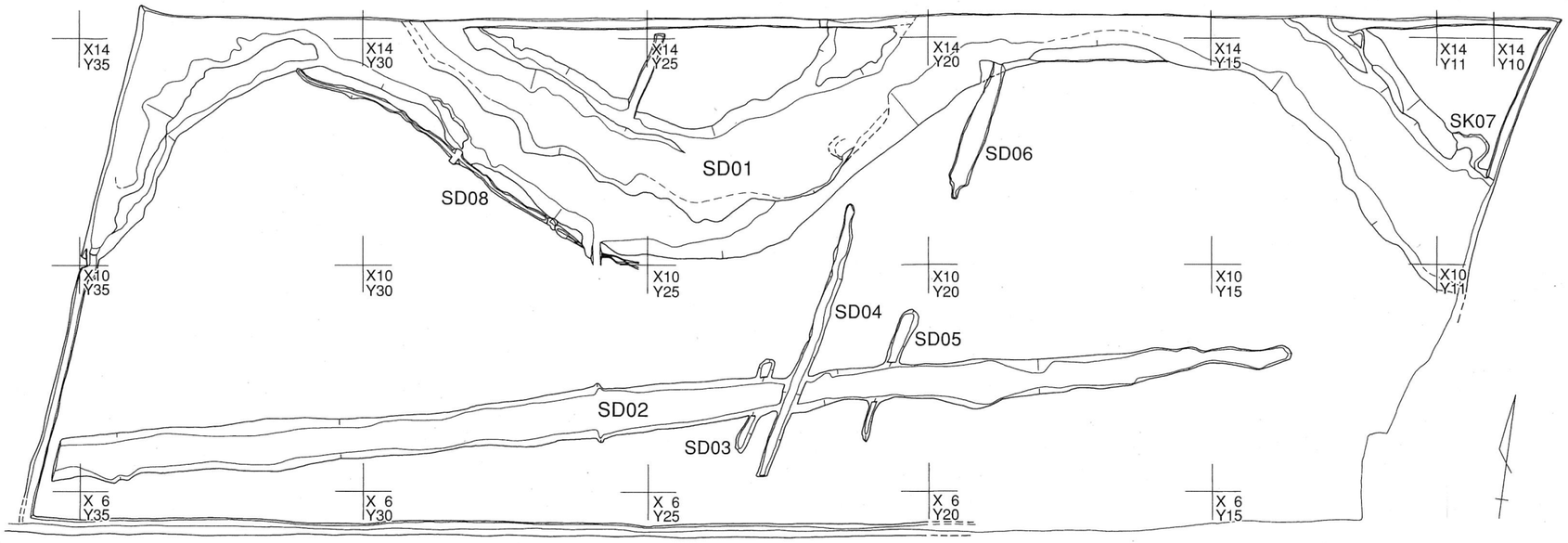
ＳＸ０７ ［下層］（第９・14・39図、図版６～23）

調査区中央部、縄文時代の川跡の中に位置し、流れの方向に並行して一段深く、長軸約９ｍ、短軸約3.6ｍ規模の長楕円形土坑になっている。埋土は粘性の強い暗青灰色土が堆積し、縄文土器を包含する。第39図583～587は胴部周辺まで縄文を施し、底辺に網代圧痕が残る後期の底部である。

ＳＸ０９ ［下層］（第９・14・40～43図、図版６～23）

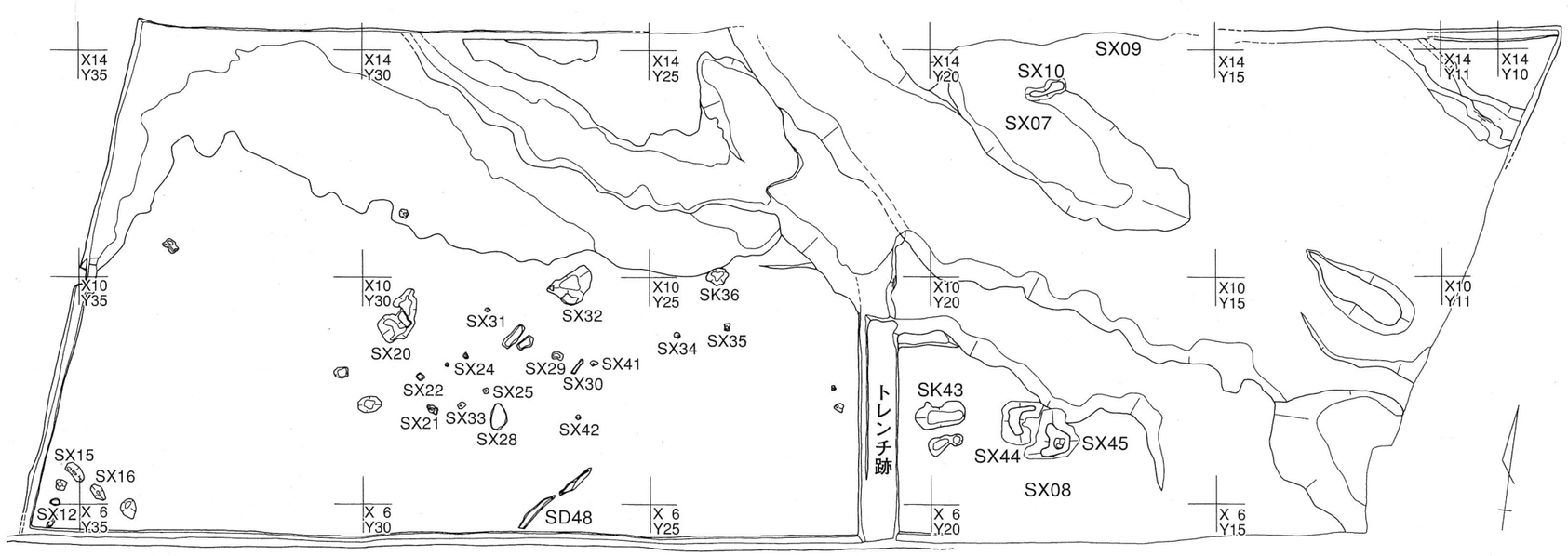
縄文時代の川跡の中、ＳＸ07東側の調査区北壁際に、砂と多量の植物遺体及びヤマトシジミの貝殻が暗青灰色土に混在して堆積する。ヤマトシジミは河口付近の汽水域に棲むことから、この川跡周辺は海水の影響を受け、汽水域になる時もあったと考えられる。遺物は縄文土器・磨製石斧・石錘・土器片錘が出土している。第40図605・第42図659はＣ字形爪形文を施す北白川下層式で、第40図620は頸部の半隆起線文の両脇に三角刺突文、胴部に縦位の多条半隆起線文及び蛇行沈線文を施す気屋式、帰属時期で考えると前期後半から後期前半までの時代幅にあたる。

上層遺構配置図

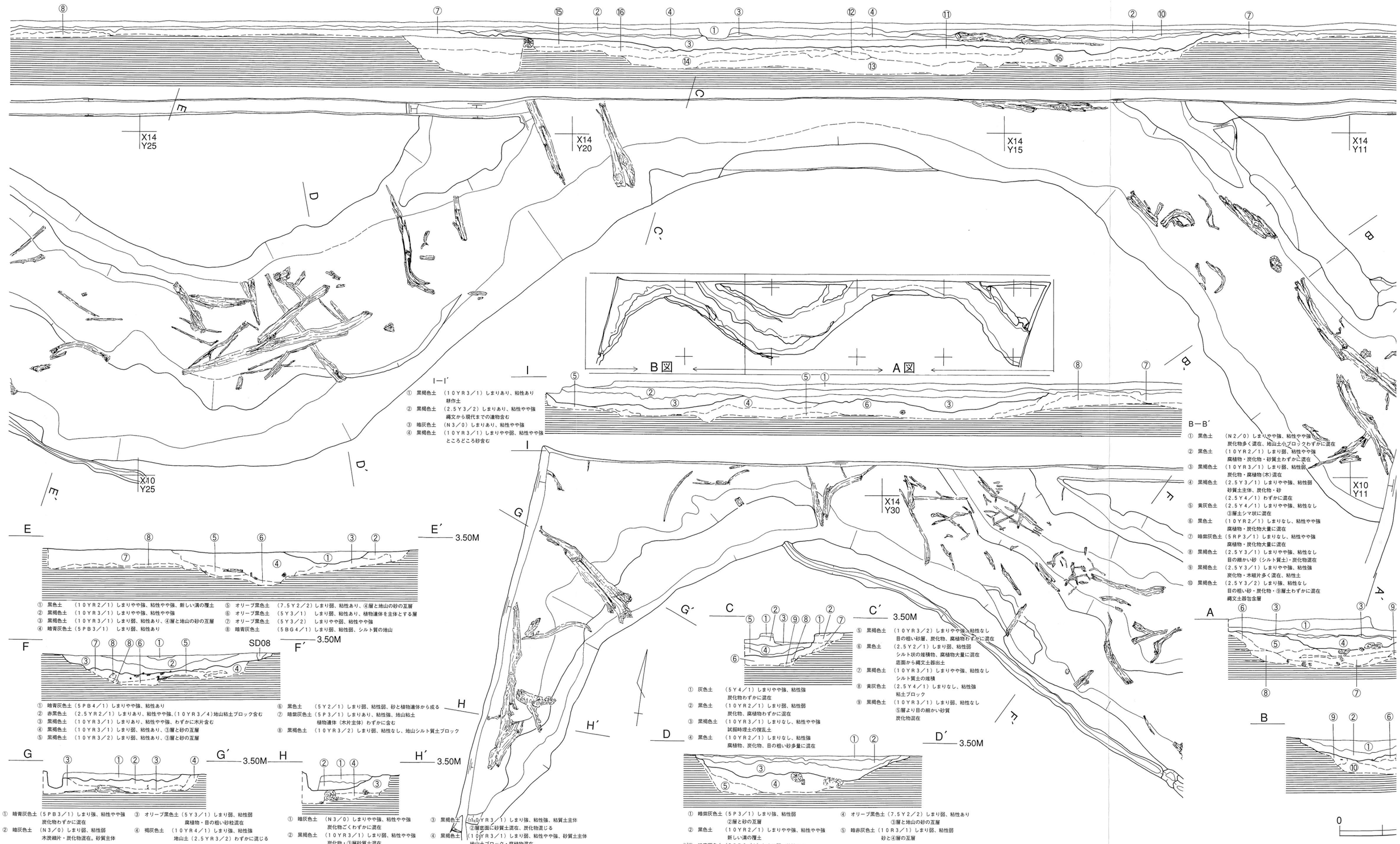


0　　10m

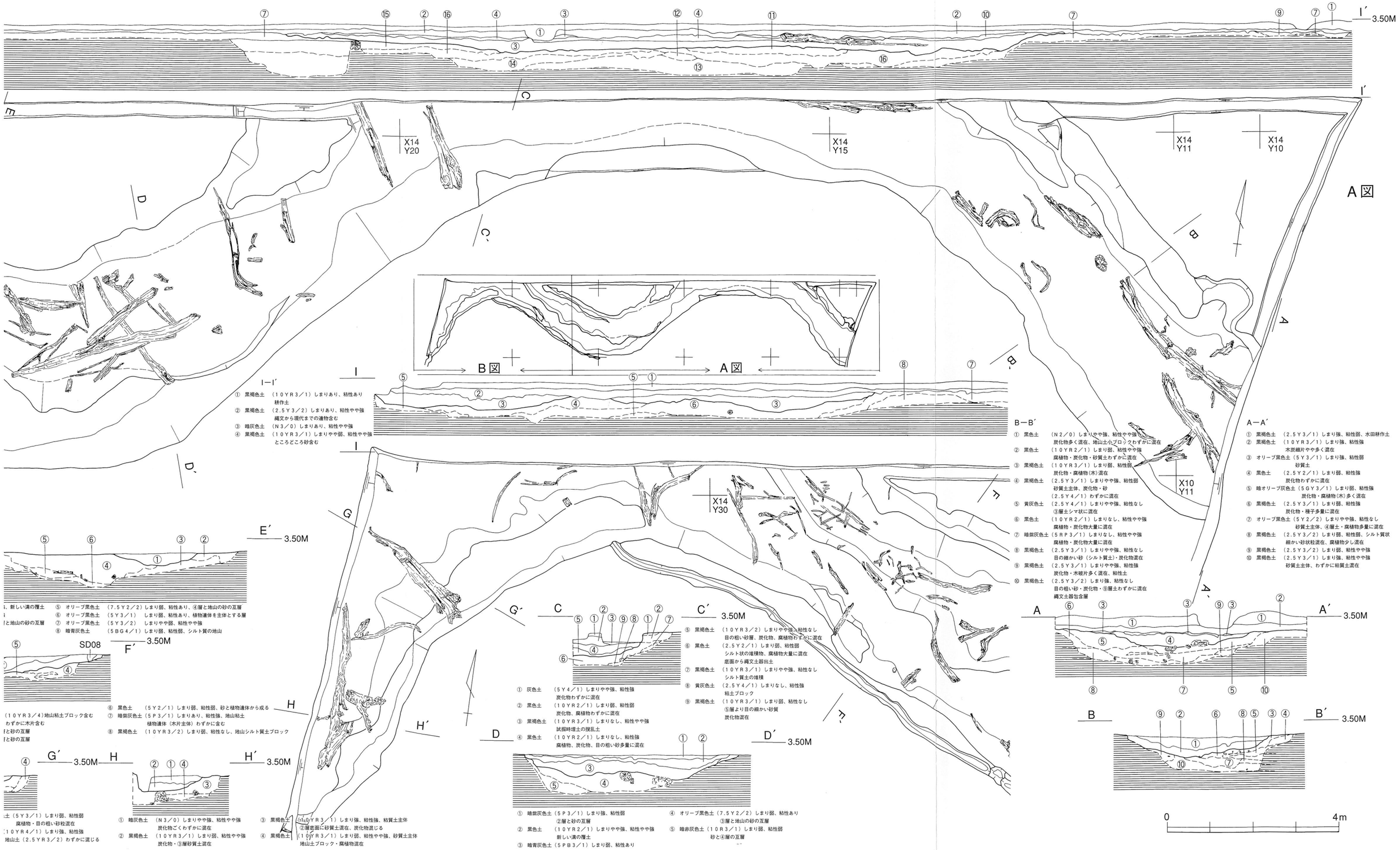
下層遺構配置図



第９図　遺構配置図（東区）


X14 Y25
X14 Y20
X14 Y15
X14 Y11
X10 Y25
X10 Y11
X14 Y30
B図
A図
I—I′
① 黒褐色土 （10YR3／1）しまりあり、粘性あり 耕作土
② 黒褐色土 （2.5Y3／2）しまりあり、粘性やや強 縄文から現代までの遺物含む
③ 暗灰色土 （N3／0）しまりあり、粘性やや強
④ 黒褐色土 （10YR3／1）しまりやや弱、粘性やや強 ところどころ砂含む
B—B′
① 黒色土 （N2／0）しまりやや強、粘性やや強 炭化物多く混在、地山土小ブロックわずかに混在
② 黒色土 （10YR2／1）しまり弱、粘性やや強 腐植物・炭化物・砂質土わずかに混在
③ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性弱 炭化物・腐植物(木)混在
④ 黒褐色土 （2.5Y3／1）しまりやや強、粘性弱 砂質土主体、炭化物・砂 （2.5Y4／1）わずかに混在
⑤ 黄灰色土 （2.5Y4／1）しまりやや強、粘性なし ③層土シマ状に混在
⑥ 黒色土 （10YR2／1）しまりなし、粘性やや強 腐植物・炭化物大量に混在
⑦ 暗紫灰色土 （5RP3／1）しまりなし、粘性やや強 腐植物・炭化物大量に混在
⑧ 黒褐色土 （2.5Y3／1）しまりやや強、粘性なし 目の細かい砂（シルト質土）・炭化物混在
⑨ 黒褐色土 （2.5Y3／1）しまりやや強、粘性強 炭化物・木破片多く混在、粘性土
⑩ 黒褐色土 （2.5Y3／2）しまり強、粘性なし 目の粗い砂・炭化物・⑨層土わずかに混在 縄文土器包含層
E
① 黒色土 （10YR2／1）しまりやや強、粘性やや強、新しい溝の覆土
② 黒褐色土 （10YR3／1）しまりやや強、粘性やや強
③ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性あり、④層と地山の砂の互層
④ 暗青灰色土 （5PB3／1） しまり弱、粘性あり
⑤ オリーブ黒色土 （7.5Y2／2）しまり弱、粘性あり、④層と地山の砂の互層
⑥ オリーブ黒色土 （5Y3／1） しまり弱、粘性あり、植物遺体を主体とする層
⑦ オリーブ黒色土 （5Y3／2） しまりやや弱、粘性やや強
⑧ 暗青灰色土 （5BG4／1）しまり弱、粘性弱、シルト質の地山
E′ 3.50M
F
① 暗青灰色土（5PB4／1）しまりやや強、粘性あり
② 赤黒色土 （2.5YR2／1）しまりあり、粘性やや強、（10YR3／4）地山粘土ブロック含む
③ 黒褐色土 （10YR3／1）しまりあり、粘性やや強、わずかに木片含む
④ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性あり、③層と砂の互層
⑤ 黒褐色土 （10YR3／2）しまり弱、粘性あり、③層と砂の互層
SD08
F′ 3.50M
⑥ 黒色土 （5Y2／1）しまり弱、粘性弱、砂と植物遺体から成る
⑦ 暗紫灰色土（5P3／1）しまりあり、粘性強、地山粘土 植物遺体（木片主体）わずかに含む
⑧ 黒褐色土 （10YR3／2）しまり弱、粘性なし、地山シルト質土ブロック
G
① 暗青灰色土（5PB3／1）しまり強、粘性やや強 炭化物わずかに混在
② 暗灰色土 （N3／0）しまり弱、粘性弱 木炭細片・炭化物混在。砂質主体
③ オリーブ黒色土（5Y3／1）しまり弱、粘性弱 腐植物・目の粗い砂粒混在
④ 褐灰色土 （10YR4／1）しまり強、粘性強 地山土（2.5YR3／2）わずかに混じる
G′ 3.50M
H
① 暗灰色土 （N3／0）しまりやや強、粘性やや強 炭化物ごくわずかに混在
② 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性やや強 炭化物・③層砂質土混在
③ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり強、粘性強、粘質土主体 ②層底面に砂質土混在、炭化物混じる
④ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性やや強、砂質土主体 地山土ブロック・腐植物混在
H′ 3.50M
C
① 灰色土 （5Y4／1）しまりやや強、粘性強 炭化物わずかに混在
② 黒色土 （10YR2／1）しまり弱、粘性弱 炭化物、腐植物わずかに混在
③ 黒褐色土 （10YR3／1）しまりなし、粘性やや強 試掘時埋土の撹乱土
④ 黒色土 （10YR2／1）しまりなし、粘性強 腐植物、炭化物、目の粗い砂多量に混在
C′ 3.50M
⑤ 黒褐色土 （10YR3／2）しまりやや強、粘性なし 目の粗い砂層、炭化物、腐植物わずかに混在
⑥ 黒色土 （2.5Y2／1）しまり弱、粘性弱 シルト状の堆積物、腐植物大量に混在 底面から縄文土器出土
⑦ 黒褐色土 （10YR3／1）しまりやや強、粘性なし シルト質土の堆積
⑧ 黄灰色土 （2.5Y4／1）しまりなし、粘性強 粘土ブロック
⑨ 黒褐色土 （10YR3／1）しまり弱、粘性なし ⑤層より目の細かい砂質 炭化物混在
D
① 暗紫灰色土（5P3／1）しまり強、粘性弱 ②層と砂の互層
② 黒色土 （10YR2／1）しまりやや強、粘性やや強 新しい溝の覆土
③ 暗青灰色土（5PB3／1）しまり弱、粘性あり
④ オリーブ黒色土（7.5Y2／2）しまり弱、粘性あり ③層と地山の砂の互層
⑤ 暗赤灰色土（10R3／1）しまり弱、粘性弱 砂と④層の互層
D′ 3.50M
A
B
0

第10図　SD01（東区）



I—I′

① 黒褐色土　（10YR3／1）しまりあり、粘性あり
耕作土
② 黒褐色土　（2.5Y3／2）しまりあり、粘性やや強
縄文から現代までの遺物含む
③ 暗灰色土　（N3／0）しまりあり、粘性やや強
④ 黒褐色土　（10YR3／1）しまりやや弱、粘性やや強
ところどころ砂含む

B—B′

① 黒色土　（N2／0）しまりやや強、粘性やや強
炭化物多く混在、地山土小ブロックわずかに混在
② 黒色土　（10YR2／1）しまり弱、粘性やや強
腐植物・炭化物・砂質土わずかに混在
③ 黒褐色土　（10YR3／1）しまり弱、粘性弱
炭化物・腐植物(木)混在
④ 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまりやや強、粘性弱
砂質土主体、炭化物・砂
⑤ 黄灰色土　（2.5Y4／1）わずかに混在
（2.5Y4／1）しまりやや強、粘性なし
③層土シマ状に混在
⑥ 黒色土　（10YR2／1）しまりなし、粘性やや強
腐植物・炭化物大量に混在
⑦ 暗紫灰色土　（5RP3／1）しまりなし、粘性やや強
腐植物・炭化物大量に混在
⑧ 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまりやや強、粘性なし
目の細かい砂（シルト質土）・炭化物混在
⑨ 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまりやや強、粘性強
炭化物・木破片多く混在、粘性土
⑩ 黒褐色土　（2.5Y3／2）しまり強、粘性なし
目の粗い砂・炭化物・⑨層土わずかに混在
縄文土器包含層

A—A′

① 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまり強、粘性弱、水田耕作土
② 黒褐色土　（10YR3／1）しまり強、粘性強
木炭細片やや多く混在
③ オリーブ黒色土（5Y3／1）しまり強、粘性弱
砂質土
④ 黒色土　（2.5Y2／1）しまり弱、粘性強
炭化物わずかに混在
⑤ 暗オリーブ灰色土（5GY3／1）しまり弱、粘性強
炭化物・腐植物(木)多く混在
⑥ 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまり弱、粘性強
炭化物・種子多量に混在
⑦ オリーブ黒色土（5Y2／2）しまりやや強、粘性なし
砂質土主体、④層土・腐植物多量に混在
⑧ 黒褐色土　（2.5Y3／2）しまり弱、粘性弱、シルト質状
細かい砂状粒混在、腐植物少し混在
⑨ 黒褐色土　（2.5Y3／2）しまり弱、粘性やや強
⑩ 黒褐色土　（2.5Y3／1）しまり強、粘性やや強
砂質土主体、わずかに粘質土混在

E′　3.50M

⑤ オリーブ黒色土　（7.5Y2／2）しまり弱、粘性あり、④層と地山の砂の互層
⑥ オリーブ黒色土　（5Y3／1）　しまり弱、粘性あり、植物遺体を主体とする層
⑦ オリーブ黒色土　（5Y3／2）　しまりやや弱、粘性やや強
⑧ 暗青灰色土　（5BG4／1）しまり弱、粘性弱、シルト質の地山

F′　3.50M

⑥ 黒色土　（5Y2／1）しまり弱、粘性弱、砂と植物遺体から成る
⑦ 暗紫灰色土（5P3／1）しまりあり、粘性強、地山粘土
植物遺体（木片主体）わずかに含む
⑧ 黒褐色土　（10YR3／2）しまり弱、粘性なし、地山シルト質土ブロック

G′　3.50M

H　H′　3.50M

① 暗灰色土　（N3／0）しまりやや強、粘性やや強
炭化物ごくわずかに混在
② 黒褐色土　（10YR3／1）しまり弱、粘性やや強
炭化物・③層砂質土混在
③ 黒褐色土　（±10YR3／1）しまり強、粘性強、粘質土主体
②層底面に砂質土混在、炭化物混じる
④ 黒褐色土　（10YR3／1）しまり弱、粘性やや強、砂質土主体
地山土ブロック・腐植物混在

C　C′　3.50M

① 灰色土　（5Y4／1）しまりやや強、粘性強
炭化物わずかに混在
② 黒色土　（10YR2／1）しまり弱、粘性弱
炭化物、腐植物わずかに混在
③ 黒褐色土　（10YR3／1）しまりなし、粘性やや強
試掘時埋土の撹乱土
④ 黒色土　（10YR2／1）しまりなし、粘性強
腐植物、炭化物、目の粗い砂多量に混在
⑤ 黒褐色土　（10YR3／2）しまりやや強、粘性なし
目の粗い砂層、炭化物、腐植物わずかに混在
⑥ 黒色土　（2.5Y2／1）しまり弱、粘性弱
シルト状の堆積物、腐植物大量に混在
底面から縄文土器出土
⑦ 黒褐色土　（10YR3／1）しまりやや強、粘性なし
シルト質土の堆積
⑧ 黄灰色土　（2.5Y4／1）しまりなし、粘性強
粘土ブロック
⑨ 黒褐色土　（10YR3／1）しまり弱、粘性なし
⑤層より目の細かい砂質
炭化物混在

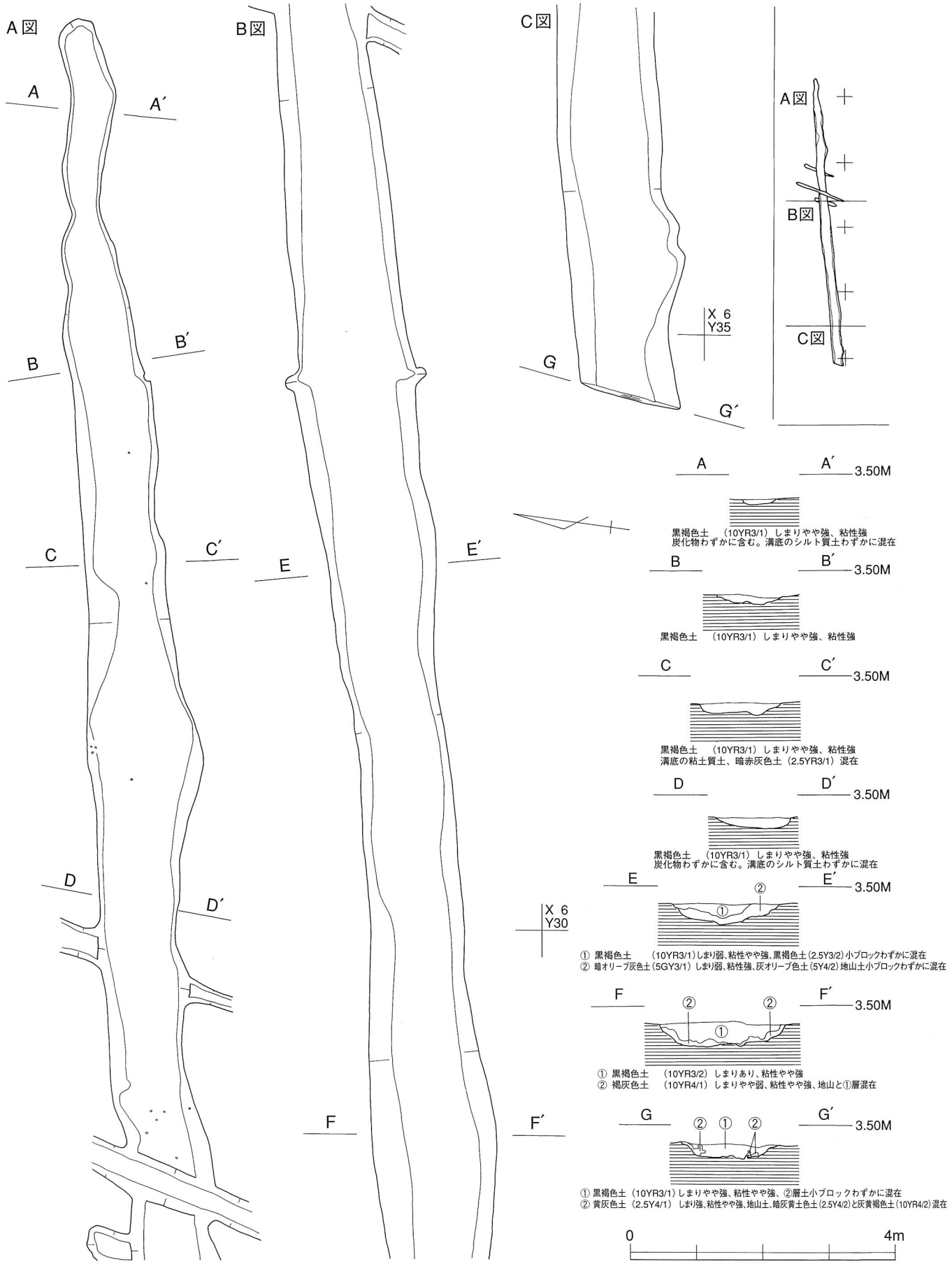
D　D′　3.50M

① 暗紫灰色土（5P3／1）しまり強、粘性弱
②層と砂の互層
② 黒色土　（10YR2／1）しまりやや強、粘性やや強
新しい溝の覆土
③ 暗青灰色土（5PB3／1）しまり弱、粘性あり
④ オリーブ黒色土（7.5Y2／2）しまり弱、粘性あり
③層と地山の砂の互層
⑤ 暗赤灰色土（10R3／1）しまり弱、粘性弱
砂と④層の互層

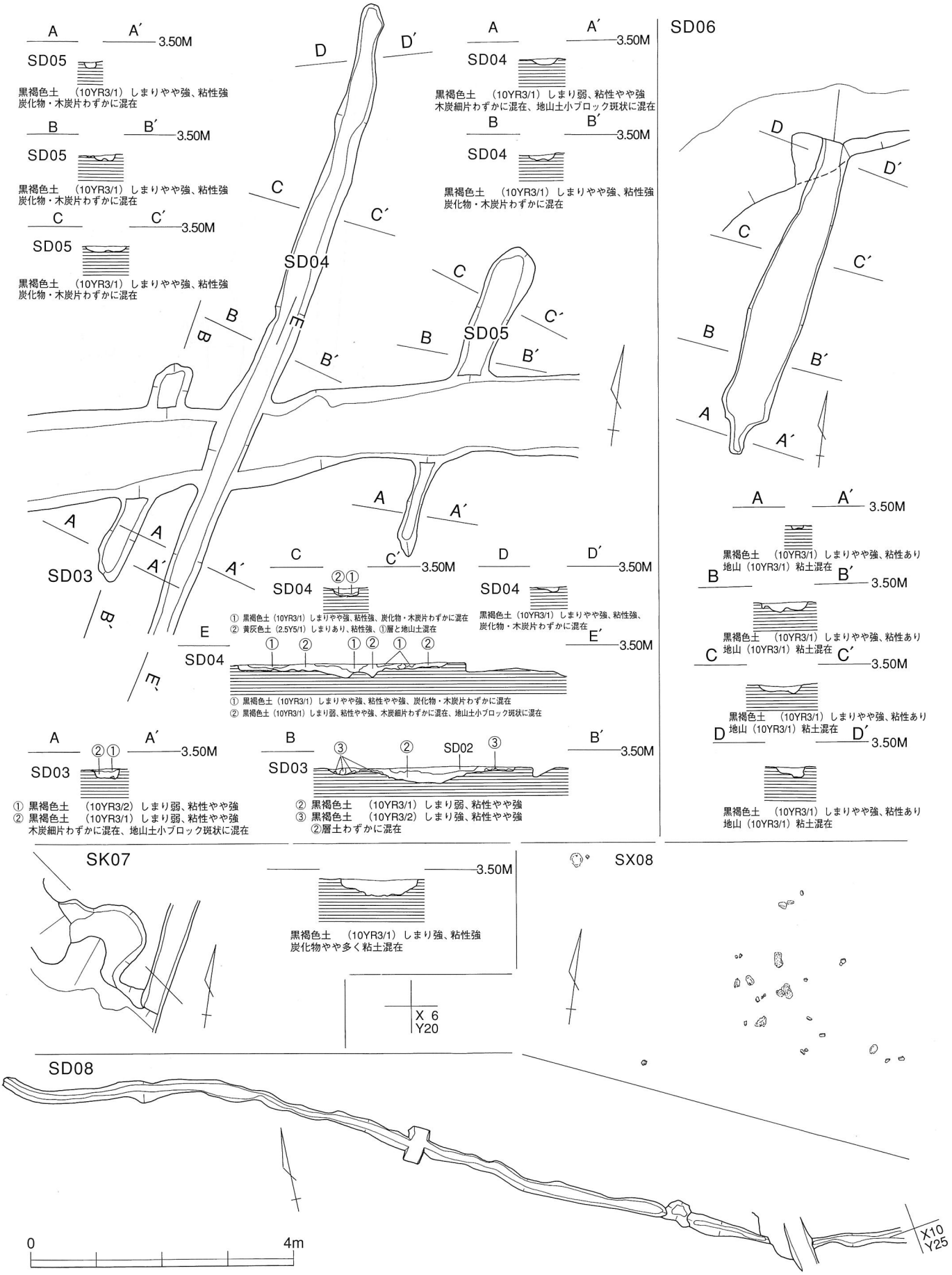
A　A′　3.50M

B　B′　3.50M

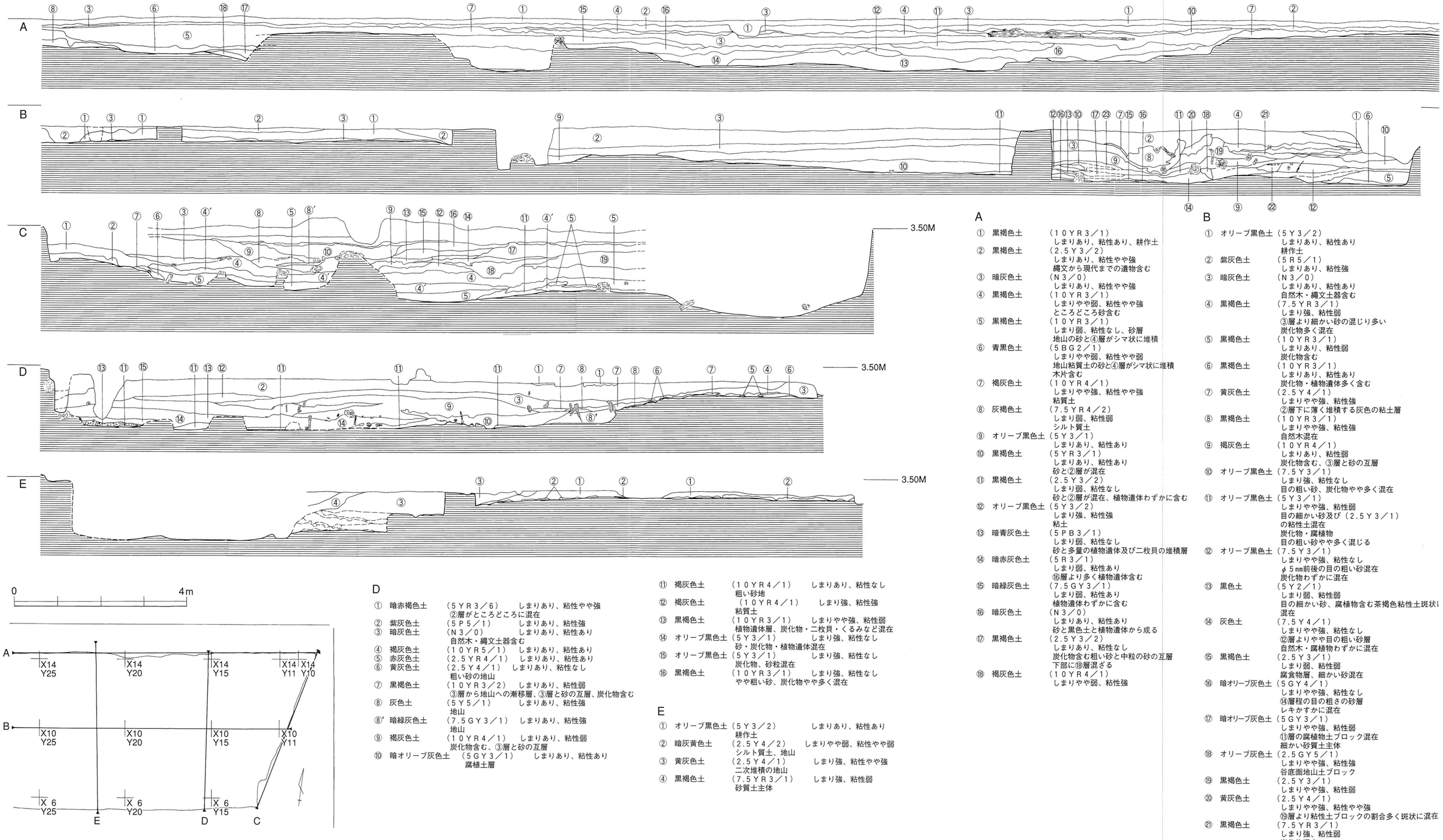
0　4m


A図
B図
C図
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
X 6
Y35
X 6
Y30
A図
B図
C図
A
A′
3.50M
黒褐色土　(10YR3/1) しまりやや強、粘性強
炭化物わずかに含む。溝底のシルト質土わずかに混在
B
B′
3.50M
黒褐色土　(10YR3/1) しまりやや強、粘性強
C
C′
3.50M
黒褐色土　(10YR3/1) しまりやや強、粘性強
溝底の粘土質土、暗赤灰色土 (2.5YR3/1) 混在
D
D′
3.50M
黒褐色土　(10YR3/1) しまりやや強、粘性強
炭化物わずかに含む。溝底のシルト質土わずかに混在
E
E′
3.50M
① 黒褐色土　(10YR3/1) しまり弱、粘性やや強、黒褐色土 (2.5Y3/2) 小ブロックわずかに混在
② 暗オリーブ灰色土 (5GY3/1) しまり弱、粘性強、灰オリーブ色土 (5Y4/2) 地山土小ブロックわずかに混在
F
F′
3.50M
① 黒褐色土　(10YR3/2) しまりあり、粘性やや強
② 褐灰色土　(10YR4/1) しまりやや弱、粘性やや強、地山と①層混在
G
G′
3.50M
① 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性やや強、②層土小ブロックわずかに混在
② 黄灰色土 (2.5Y4/1) しまり強、粘性やや強、地山土、暗灰黄土色土 (2.5Y4/2) と灰黄褐色土 (10YR4/2) 混在
0
4m

第11図　SD02（東区）



第12図 SD03～06・08，SK07，SX08（東区）



第13図　グリッド断面図（東区）

A

① 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまりあり、粘性あり、耕作土

② 黒褐色土　（２.５Ｙ３／２）
しまりあり、粘性やや強
縄文から現代までの遺物含む

③ 暗灰色土　（Ｎ３／０）
しまりあり、粘性やや強

④ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまりやや弱、粘性やや強
ところどころ砂含む

⑤ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまり弱、粘性なし、砂層
地山の砂と④層がシマ状に堆積

⑥ 青黒色土　（５ＢＧ２／１）
しまりやや弱、粘性やや弱
地山粘質土の砂と④層がシマ状に堆積
木片含む

⑦ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）
しまりやや強、粘性やや強
粘質土

⑧ 灰褐色土　（７.５ＹＲ４／２）
しまり弱、粘性弱
シルト質土

⑨ オリーブ黒色土（５Ｙ３／１）
しまりあり、粘性あり

⑩ 黒褐色土　（５ＹＲ３／１）
しまりあり、粘性あり
砂と②層が混在

⑪ 黒褐色土　（２.５Ｙ３／２）
しまり弱、粘性なし
砂と②層が混在、植物遺体わずかに含む

⑫ オリーブ黒色土（５Ｙ３／２）
しまり強、粘性強
粘土

⑬ 暗青灰色土　（５ＰＢ３／１）
しまり弱、粘性なし
砂と多量の植物遺体及び二枚貝の堆積層

⑭ 暗赤灰色土　（５Ｒ３／１）
しまり弱、粘性あり
⑯層より多く植物遺体含む

⑮ 暗緑灰色土　（７.５ＧＹ３／１）
しまり弱、粘性あり
植物遺体わずかに含む

⑯ 暗灰色土　（Ｎ３／０）
しまりあり、粘性あり
砂と黒色土と植物遺体から成る

⑰ 黒褐色土　（２.５Ｙ３／２）
しまりあり、粘性なし
炭化物含む粗い砂と中粒の砂の互層
下部に⑱層混ざる

⑱ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）
しまりやや弱、粘性強

B

① オリーブ黒色土（５Ｙ３／２）
しまりあり、粘性あり
耕作土

② 紫灰色土　（５Ｒ５／１）
しまりあり、粘性強

③ 暗灰色土　（Ｎ３／０）
しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む

④ 黒褐色土　（７.５ＹＲ３／１）
しまり強、粘性弱
③層より細かい砂の混じり多い
炭化物多く混在

⑤ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む

⑥ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまりあり、粘性あり
炭化物・植物遺体多く含む

⑦ 黄灰色土　（２.５Ｙ４／１）
しまりやや強、粘性強
②層下に薄く堆積する灰色の粘土層

⑧ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまりやや強、粘性強
自然木混在

⑨ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層

⑩ オリーブ黒色土（７.５Ｙ３／１）
しまり強、粘性なし
目の粗い砂、炭化物やや多く混在

⑪ オリーブ黒色土（５Ｙ３／１）
しまりやや強、粘性弱
目の細かい砂及び（２.５Ｙ３／１）の粘性土混在
炭化物・腐植物
目の粗い砂やや多く混じる

⑫ オリーブ黒色土（７.５Ｙ３／１）
しまりやや強、粘性なし
φ５mm前後の目の粗い砂混在
炭化物わずかに混在

⑬ 黒色土　（５Ｙ２／１）
しまり弱、粘性弱
目の細かい砂、腐植物含む茶褐色粘性土斑状に混在

⑭ 灰色土　（７.５Ｙ４／１）
しまりやや強、粘性なし
⑫層よりやや目の粗い砂層
自然木・腐植物わずかに混在

⑮ 黒褐色土　（２.５Ｙ３／１）
しまり弱、粘性弱
腐食物層、細かい砂混在

⑯ 暗オリーブ灰色土（５ＧＹ４／１）
しまりやや強、粘性なし
⑭層程の目の粗さの砂層
レキかすかに混在

⑰ 暗オリーブ灰色土（５ＧＹ３／１）
しまりやや強、粘性弱
⑪層の腐植物土ブロック混在
細かい砂質土主体

⑱ オリーブ灰色土（２.５ＧＹ５／１）
しまりやや強、粘性強
谷底面地山土ブロック

⑲ 黒褐色土　（２.５Ｙ３／１）
しまりやや強、粘性弱

⑳ 黄灰色土　（２.５Ｙ４／１）
しまりやや強、粘性やや強
⑲層より粘性土ブロックの割合多く斑状に混在

㉑ 黒褐色土　（７.５ＹＲ３／１）
しまり強、粘性弱
炭化物混在

㉒ 黒褐色土　（２.５Ｙ３／１）
しまり強、粘性なし
⑩層下部の目の粗い砂に（１０ＹＲ３／１）の
土混在

㉓ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）
しまり弱、粘性弱
腐植物・自然木片・炭化物やや多く混じる。
植物土層

D

① 暗赤褐色土　（５ＹＲ３／６）　しまりあり、粘性やや強
②層がところどころに混在

② 紫灰色土　（５Ｐ５／１）　しまりあり、粘性強

③ 暗灰色土　（Ｎ３／０）　しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む

④ 褐灰色土　（１０ＹＲ５／１）　しまりあり、粘性あり

⑤ 赤灰色土　（２.５ＹＲ４／１）　しまりあり、粘性あり

⑥ 黄灰色土　（２.５Ｙ４／１）　しまりあり、粘性なし
粗い砂の地山

⑦ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／２）　しまりあり、粘性弱
③層から地山への漸移層、③層と砂の互層、炭化物含む

⑧ 灰色土　（５Ｙ５／１）　しまりあり、粘性強
地山

⑧' 暗緑灰色土　（７.５ＧＹ３／１）　しまりあり、粘性強
地山

⑨ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）　しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層

⑩ 暗オリーブ灰色土　（５ＧＹ３／１）　しまりあり、粘性あり
腐植土層

⑪ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）　しまりあり、粘性なし
粗い砂地

⑫ 褐灰色土　（１０ＹＲ４／１）　しまり強、粘性強
粘質土

⑬ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）　しまりやや強、粘性弱
植物遺体層、炭化物・二枚貝・くるみなど混在

⑭ オリーブ黒色土（５Ｙ３／１）　しまり強、粘性なし
砂・炭化物・植物遺体混在

⑮ オリーブ黒色土（５Ｙ３／１）　しまり強、粘性なし
炭化物、砂粒混在

⑯ 黒褐色土　（１０ＹＲ３／１）　しまり強、粘性なし
やや粗い砂、炭化物やや多く混在

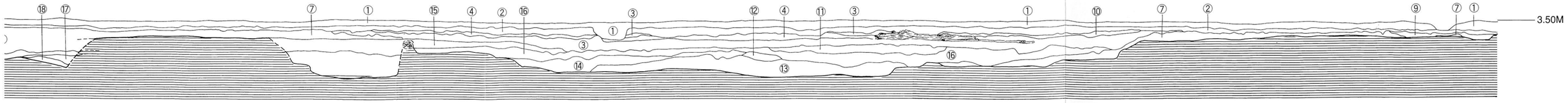
E

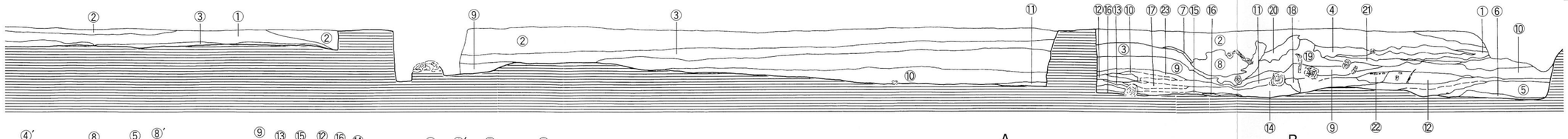
① オリーブ黒色土（５Ｙ３／２）　しまりあり、粘性あり
耕作土

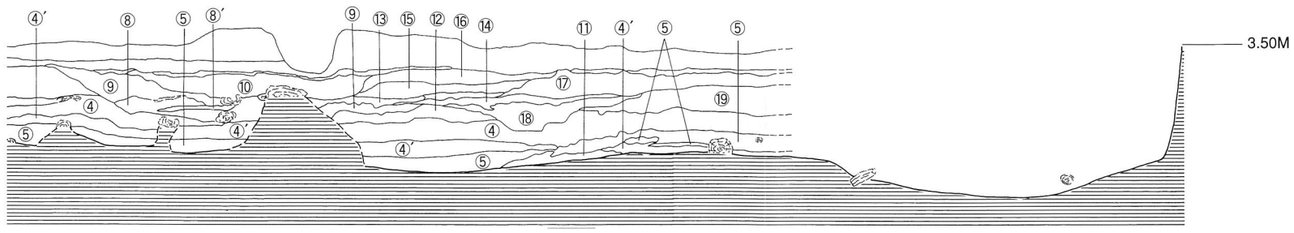
② 暗灰黄色土　（２.５Ｙ４／２）　しまりやや弱、粘性やや弱
シルト質土、地山

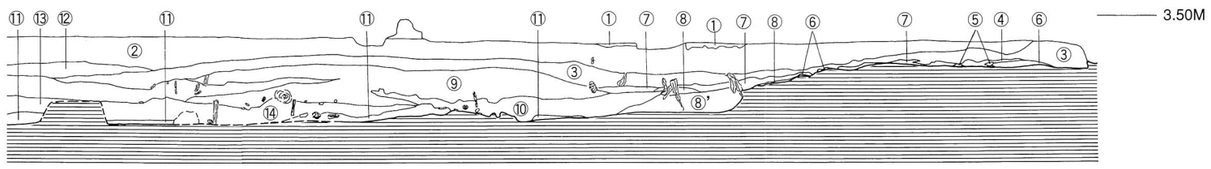
③ 黄灰色土　（２.５Ｙ４／１）　しまり強、粘性やや強
二次堆積の地山

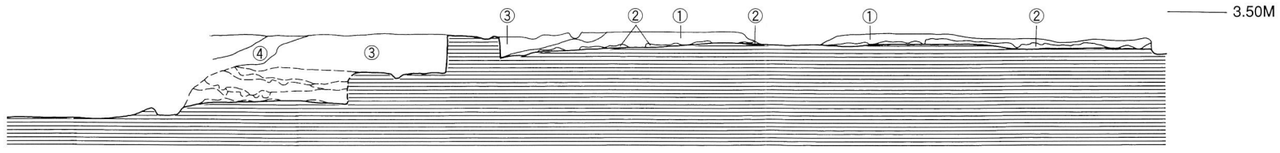
④ 黒褐色土　（７.５ＹＲ３／１）　しまり強、粘性弱
砂質土主体



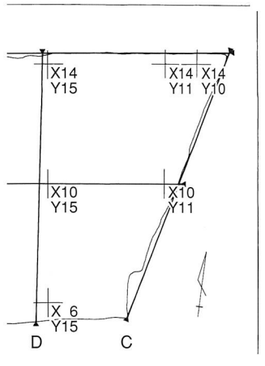








n



A

① 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性あり、耕作土
② 黒褐色土 （2.5Y3／2）
しまりあり、粘性やや強
縄文から現代までの遺物含む
③ 暗灰色土 （N3／0）
しまりあり、粘性やや強
④ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりやや弱、粘性やや強
ところどころ砂含む
⑤ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまり弱、粘性なし、砂層
地山の砂と④層がシマ状に堆積
⑥ 青黒色土 （5BG2／1）
しまりやや弱、粘性やや弱
地山粘質土の砂と④層がシマ状に堆積
木片含む
⑦ 褐灰色土 （10YR4／1）
しまりやや強、粘性やや強
粘質土
⑧ 灰褐色土 （7.5YR4／2）
しまり弱、粘性弱
シルト質土
⑨ オリーブ黒色土 （5Y3／1）
しまりあり、粘性あり
⑩ 黒褐色土 （5YR3／1）
しまりあり、粘性あり
砂と②層が混在
⑪ 黒褐色土 （2.5Y3／2）
しまり弱、粘性なし
砂と②層が混在、植物遺体わずかに含む
⑫ オリーブ黒色土 （5Y3／2）
しまり強、粘性強
粘土
⑬ 暗青灰色土 （5PB3／1）
しまり弱、粘性なし
砂と多量の植物遺体及び二枚貝の堆積層
⑭ 暗赤灰色土 （5R3／1）
しまり弱、粘性あり
⑯層より多く植物遺体含む
⑮ 暗緑灰色土 （7.5GY3／1）
しまり弱、粘性あり
植物遺体わずかに含む
⑯ 暗灰色土 （N3／0）
しまりあり、粘性あり
砂と黒色土と植物遺体から成る
⑰ 黒褐色土 （2.5Y3／2）
しまりあり、粘性なし
炭化物含む粗い砂と中粒の砂の互層
下部に⑱層混ざる
⑱ 褐灰色土 （10YR4／1）
しまりやや弱、粘性強

B

① オリーブ黒色土 （5Y3／2）
しまりあり、粘性あり
耕作土
② 紫灰色土 （5R5／1）
しまりあり、粘性強
③ 暗灰色土 （N3／0）
しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 黒褐色土 （7.5YR3／1）
しまり強、粘性弱
③層より細かい砂の混じり多い
炭化物多く混在
⑤ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む
⑥ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性あり
炭化物・植物遺体多く含む
⑦ 黄灰色土 （2.5Y4／1）
しまりやや強、粘性強
②層下に薄く堆積する灰色の粘土層
⑧ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりやや強、粘性強
自然木混在
⑨ 褐灰色土 （10YR4／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層
⑩ オリーブ黒色土 （7.5Y3／1）
しまり強、粘性なし
目の粗い砂、炭化物やや多く混在
⑪ オリーブ黒色土 （5Y3／1）
しまりやや強、粘性弱
目の細かい砂及び（2.5Y3／1）
の粘性土混在
炭化物・腐植物
目の粗い砂やや多く混じる
⑫ オリーブ黒色土 （7.5Y3／1）
しまりやや強、粘性なし
φ5mm前後の目の粗い砂混在
炭化物わずかに混在
⑬ 黒色土 （5Y2／1）
しまり弱、粘性弱
目の細かい砂、腐植物含む茶褐色粘性土斑状に混在
⑭ 灰色土 （7.5Y4／1）
しまりやや強、粘性なし
⑫層よりやや目の粗い砂層
自然木・腐植物わずかに混在
⑮ 黒褐色土 （2.5Y3／1）
しまり弱、粘性弱
腐食物層、細かい砂混在
⑯ 暗オリーブ灰色土 （5GY4／1）
しまりやや強、粘性なし
⑭層程の目の粗さの砂層
レキかすかに混在
⑰ 暗オリーブ灰色土 （5GY3／1）
しまりやや強、粘性弱
⑪層の腐植物土ブロック混在
細かい砂質土主体
⑱ オリーブ灰色土 （2.5GY5／1）
しまりやや強、粘性強
谷底面地山土ブロック
⑲ 黒褐色土 （2.5Y3／1）
しまりやや強、粘性弱
⑳ 黄灰色土 （2.5Y4／1）
しまりやや強、粘性やや強
⑲層より粘性土ブロックの割合多く斑状に混在
㉑ 黒褐色土 （7.5YR3／1）
しまり強、粘性弱
炭化物混在
㉒ 黒褐色土 （2.5Y3／1）
しまり強、粘性なし
⑩層下部の目の粗い砂に（10YR3／1）色土混在
㉓ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまり弱、粘性弱
腐植物・自然木片・炭化物やや多く混じる。腐植物土層

C

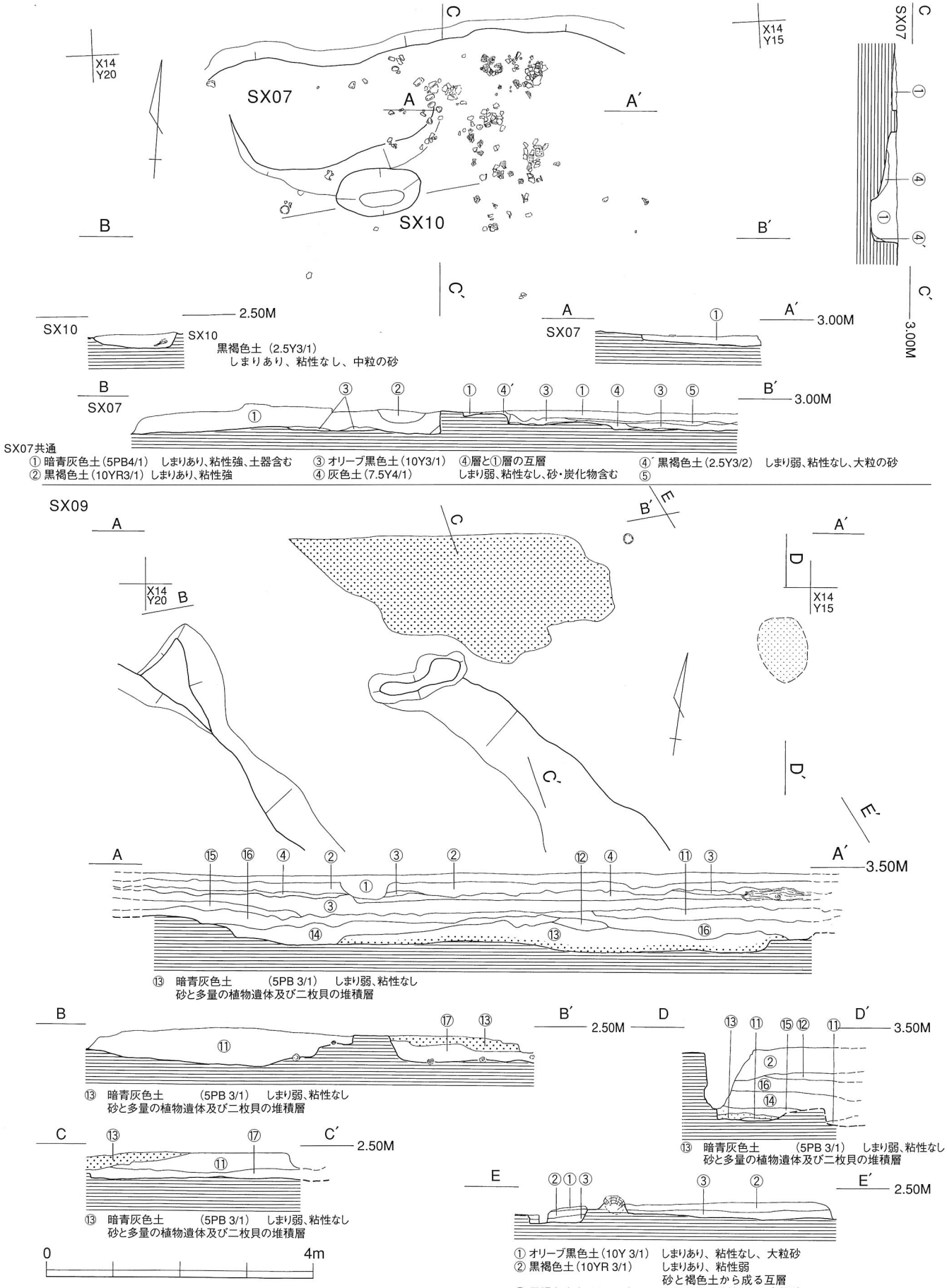
① 褐灰色土 （7.5YR4／1）
しまりあり、粘性強
② 褐灰色土 （2.5YR4／1）
しまりやや弱、粘性あり
ややシルト質
③ 黒褐色土 （7.5YR3／1）
しまりあり、粘性あり
植物遺体（木枝）含む
④ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む
③層と中・大粒の砂の互層
④’ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む
④層より大粒の砂多く含む
⑤ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性あり
炭化物含む
植物遺体多く含む
⑥ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりやや弱、粘性強
地山、粘土
⑦ 黄灰色土 （2.5Y5／1）
しまりやや弱、粘性強
地山、粘土
⑧ 黒色土 （N2／0）
しまりやや弱、粘性やや弱
ピート層
⑧’ 黒色土 （N2／0）
しまりあり、粘性なし
⑧層に含まれる大粒の砂層
⑨ 黒色土 （5Y2／1）
しまり弱、粘性やや強
炭化物含む
⑩ 青黒色土 （5B1.7／1）
しまりあり、粘性あり
SD01の下層部
⑪ 黒褐色土 （2.5Y3／1）
しまりやや強、粘性なし
大粒砂と植物遺体から成る
男根形木製品出土層
⑫ 黒色土 （2.5Y2／1）
しまりやや弱、粘性あり
⑬ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性やや弱
炭化物含む
⑭ 黄灰色土 （2.5Y4／1）
しまりやや弱、粘性強
⑮ 黒褐色土 （10YR3／1）
しまりあり、粘性強
⑯ 黒褐色土 （2.5Y3／1）
しまりやや強、粘性やや弱
⑰ 褐灰色土 （5YR4／1）
しまりあり、粘性強
⑱ 褐灰色土 （10YR4／1）
しまりあり、粘性やや強
⑲ 暗褐色土 （10YR3／4）
しまりあり、粘性強

D

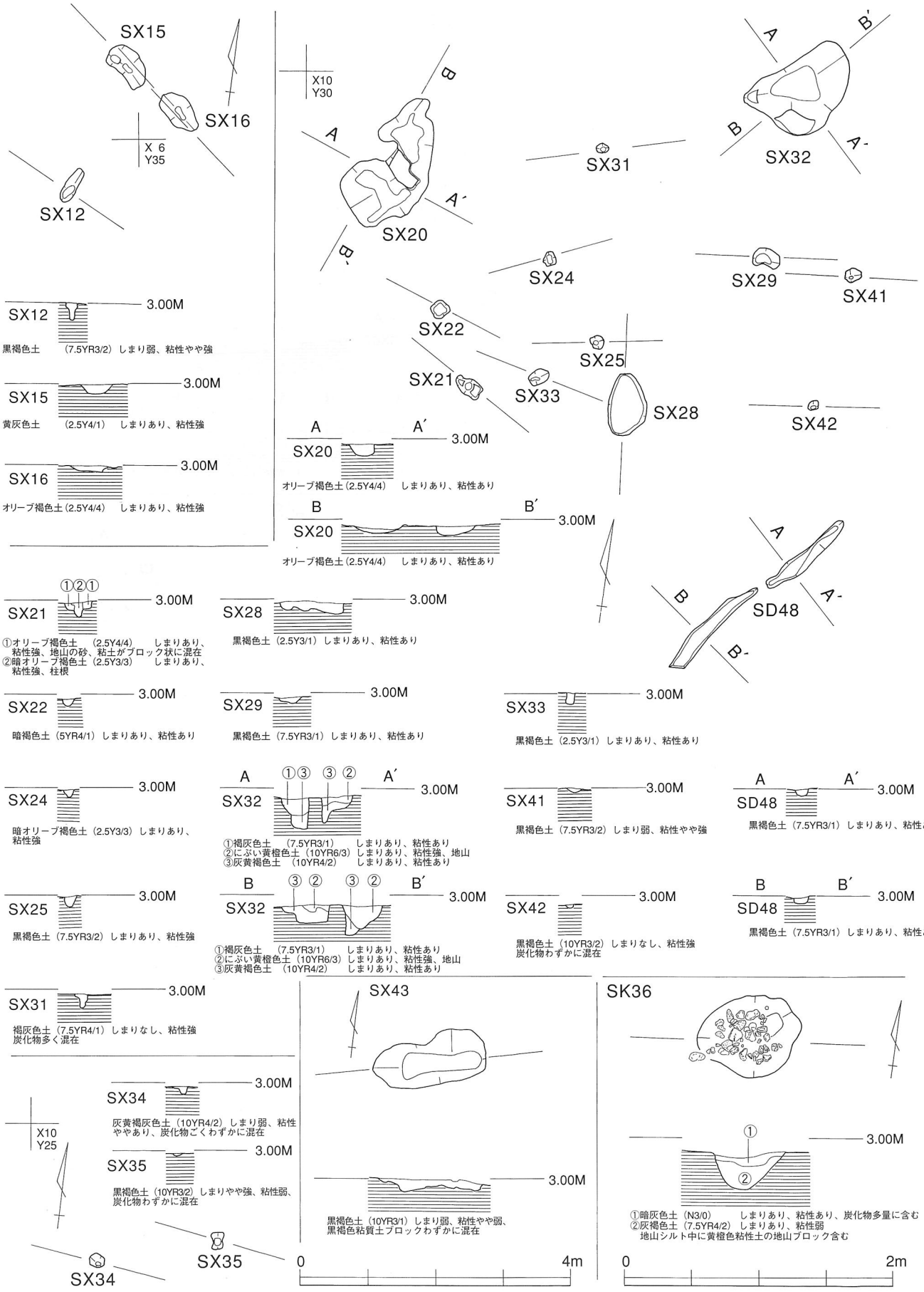
① 暗赤褐色土 （5YR3／6） しまりあり、粘性やや強
②層がところどころに混在
② 紫灰色土 （5P5／1） しまりあり、粘性強
③ 暗灰色土 （N3／0） しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 褐灰色土 （10YR5／1） しまりあり、粘性あり
⑤ 赤灰色土 （2.5YR4／1） しまりあり、粘性あり
⑥ 黄灰色土 （2.5Y4／1） しまりあり、粘性なし
粗い砂の地山
⑦ 黒褐色土 （10YR3／2） しまりあり、粘性弱
③層から地山への漸移層、③層と砂の互層、炭化物含む
⑧ 灰色土 （5Y5／1） しまりあり、粘性強
地山
⑧’ 暗緑灰色土 （7.5GY3／1） しまりあり、粘性強
地山
⑨ 褐灰色土 （10YR4／1） しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層
⑩ 暗オリーブ灰色土 （5GY3／1） しまりあり、粘性あり
腐植土層
⑪ 褐灰色土 （10YR4／1） しまりあり、粘性なし
粗い砂地
⑫ 褐灰色土 （10YR4／1） しまり強、粘性強
粘質土
⑬ 黒褐色土 （10YR3／1） しまりやや強、粘性弱
植物遺体層、炭化物・二枚貝・くるみなど混在
⑭ オリーブ黒色土 （5Y3／1） しまり強、粘性なし
砂・炭化物・植物遺体混在
⑮ オリーブ黒色土 （5Y3／1） しまり強、粘性なし
炭化物、砂粒混在
⑯ 黒褐色土 （10YR3／1） しまり強、粘性なし
やや粗い砂、炭化物やや多く混在

E

① オリーブ黒色土 （5Y3／2） しまりあり、粘性あり
耕作土
② 暗灰黄色土 （2.5Y4／2） しまりやや弱、粘性やや弱
シルト質土、地山
③ 黄灰色土 （2.5Y4／1） しまり強、粘性やや強
二次堆積の地山
④ 黒褐色土 （7.5YR3／1） しまり強、粘性弱
砂質土主体

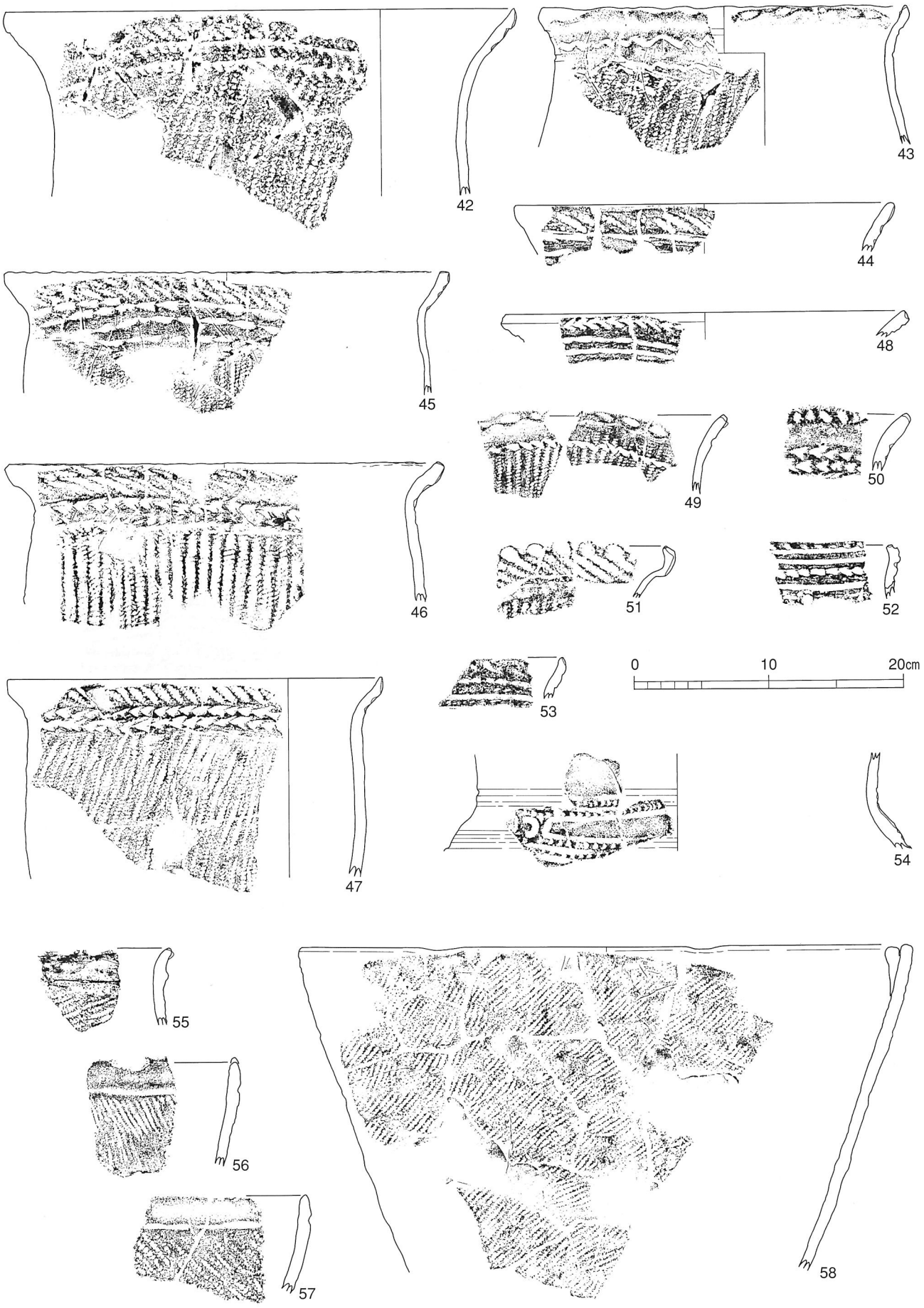


第14図　SX07・09・10（東区）

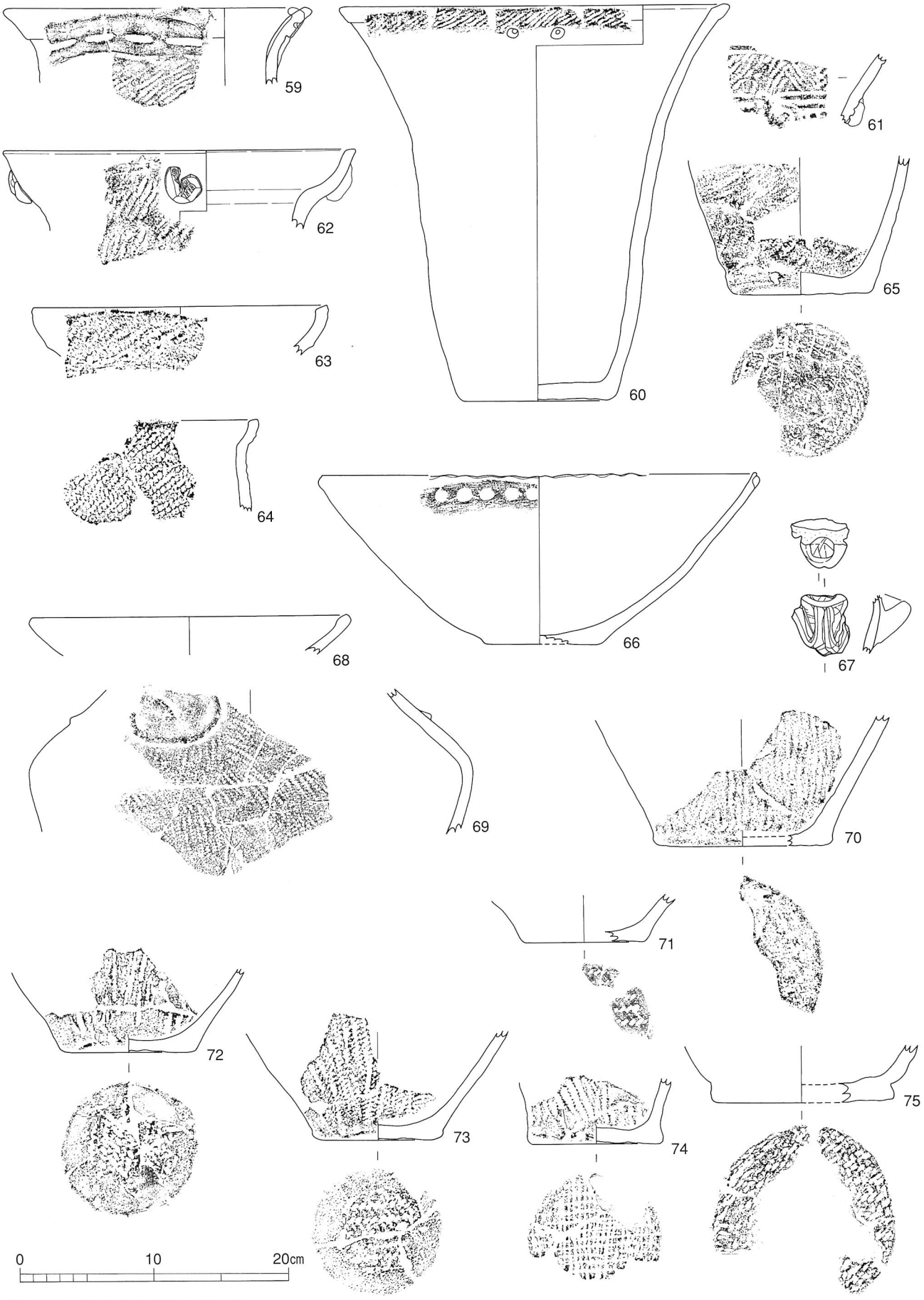


第15図　SX12・15・16・20～22・24・25・28～35・41～43，SK36，SD48（東区）

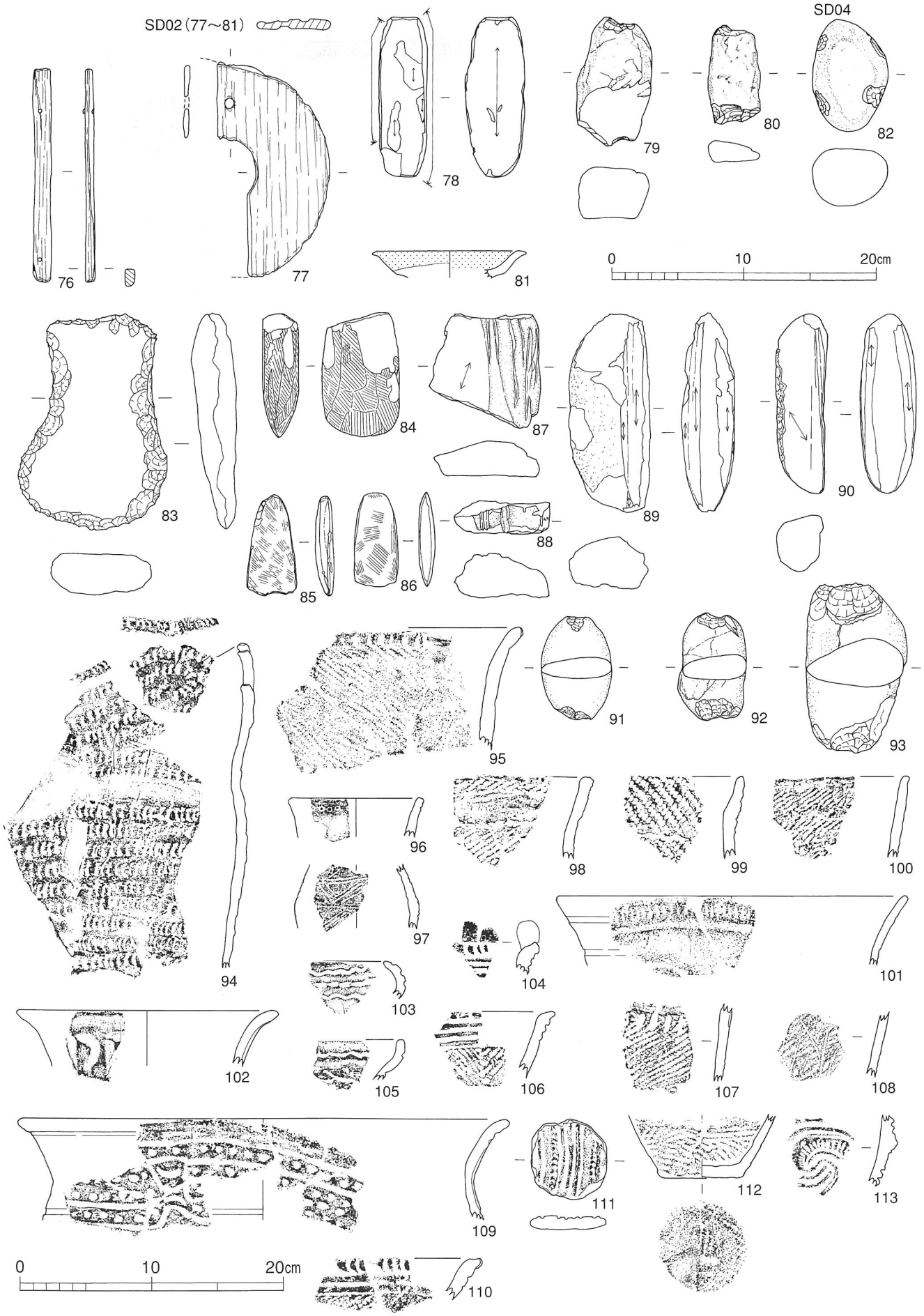
第16図　川跡出土遺物（東区）



第17図　川跡出土遺物（東区）



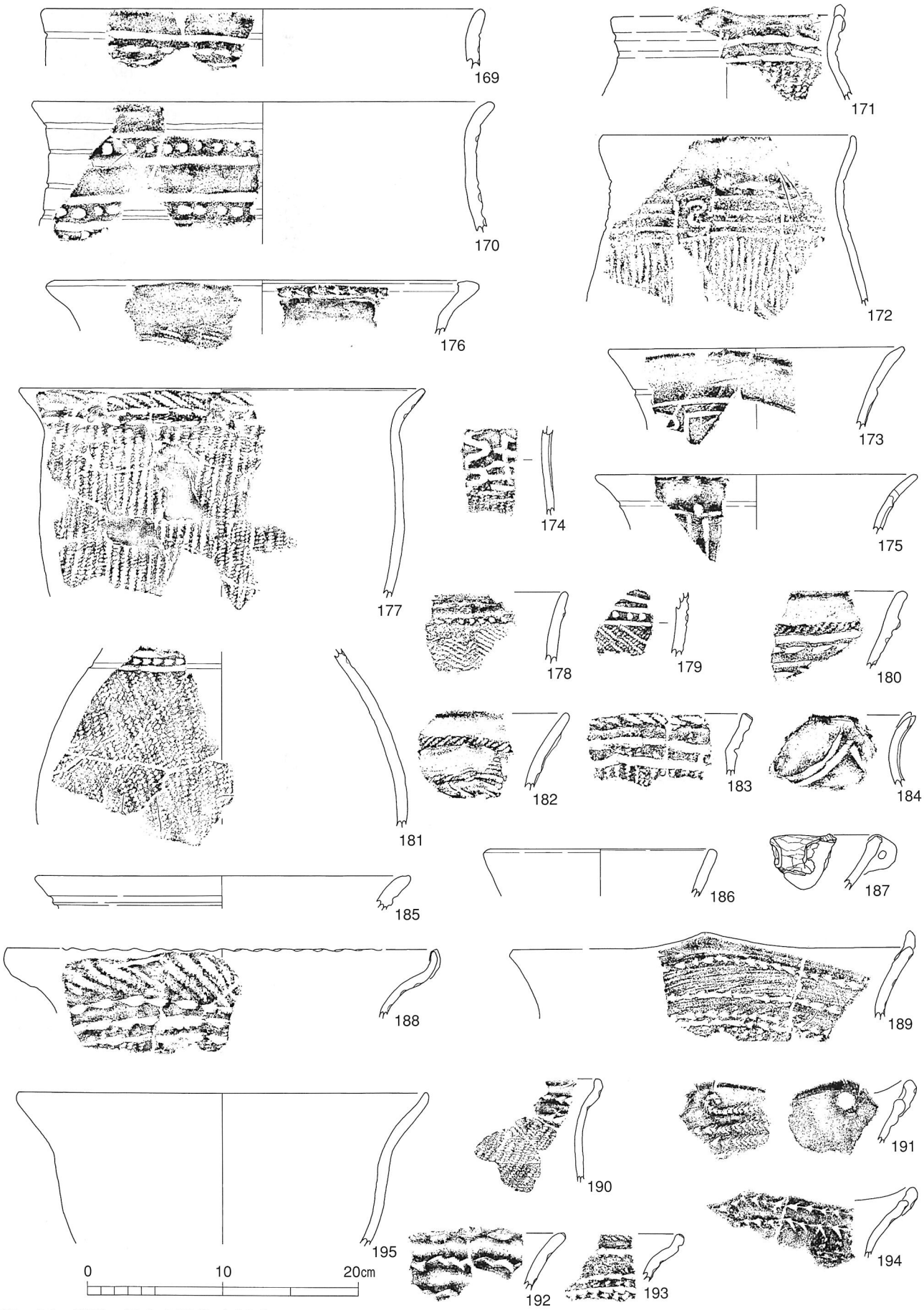
第18図　川跡出土遺物（東区）



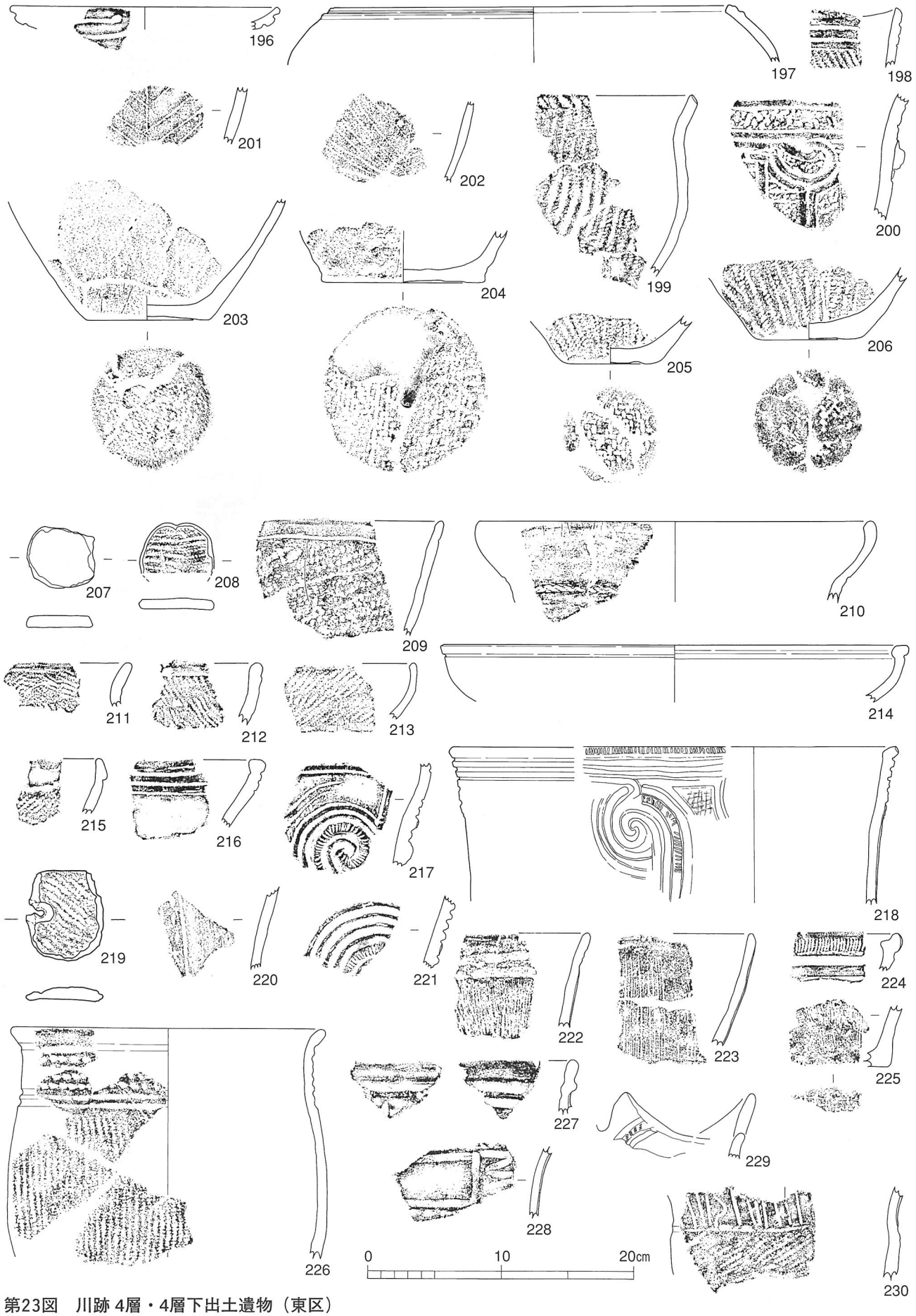
第19図　SD02・04，包含層(1～3層下)出土遺物（東区）

第20図　川跡 3層・3層下出土遺物（東区）

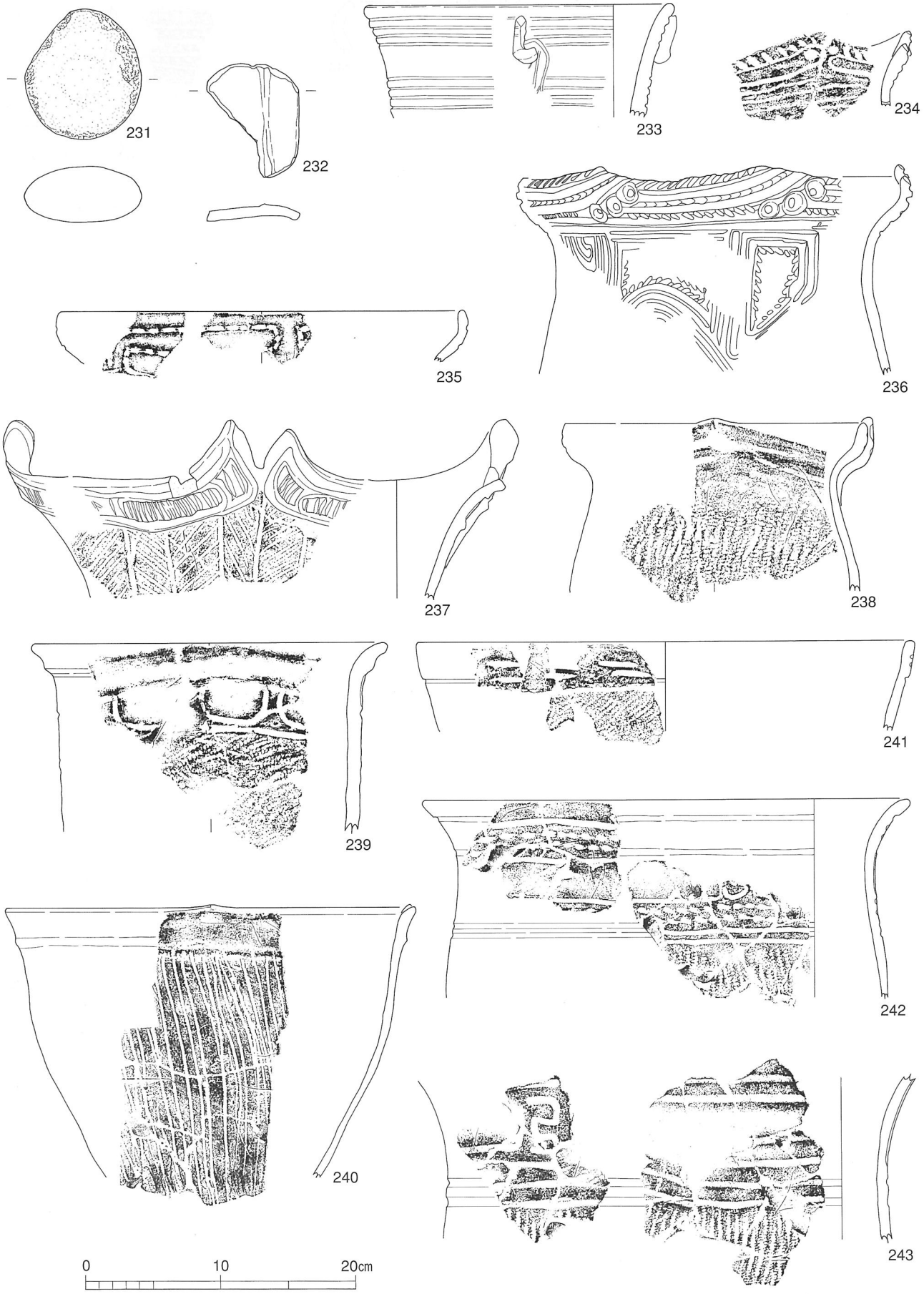
第21図　川跡 4層出土遺物（東区）



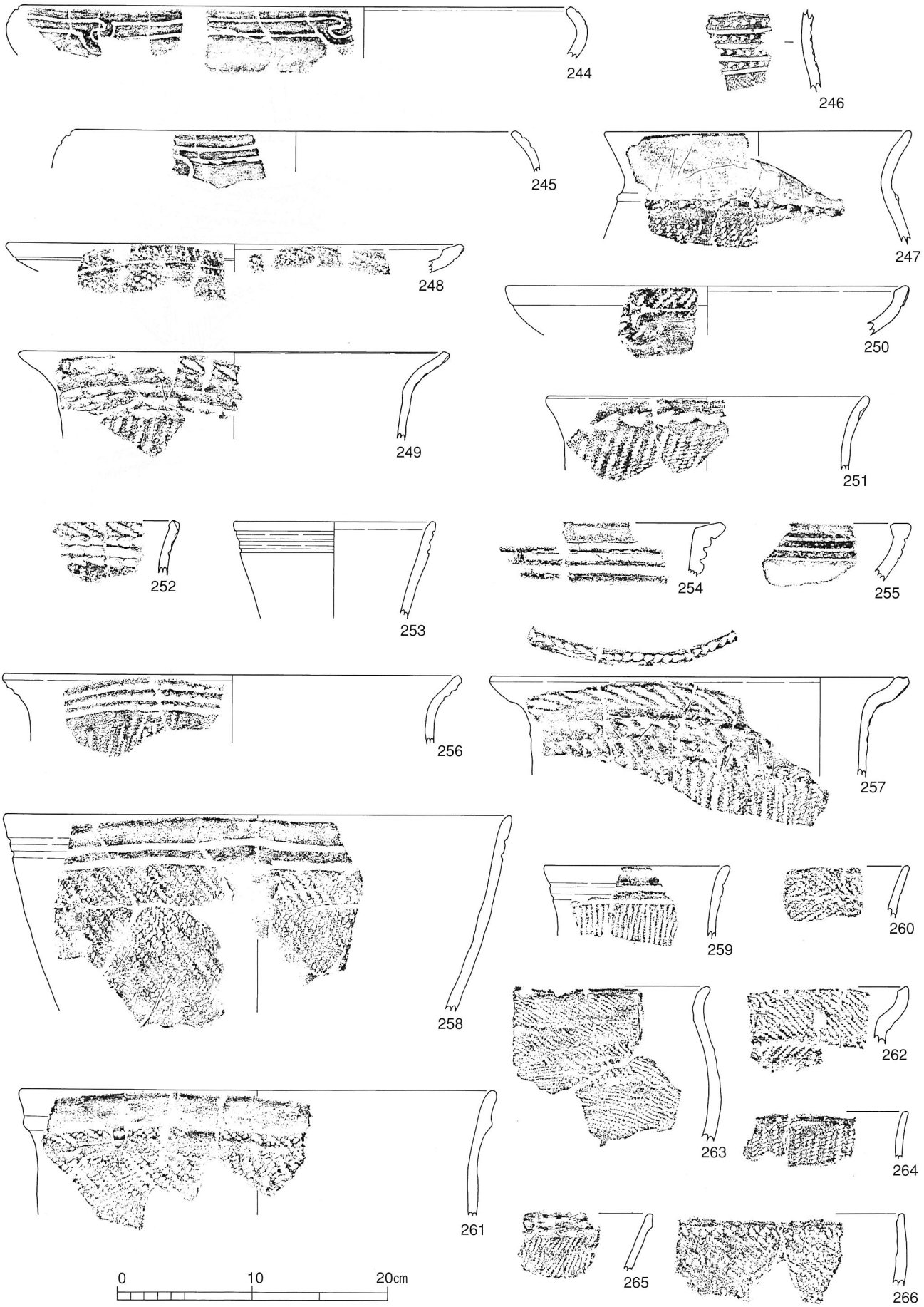
第22図　川跡 4層出土遺物（東区）



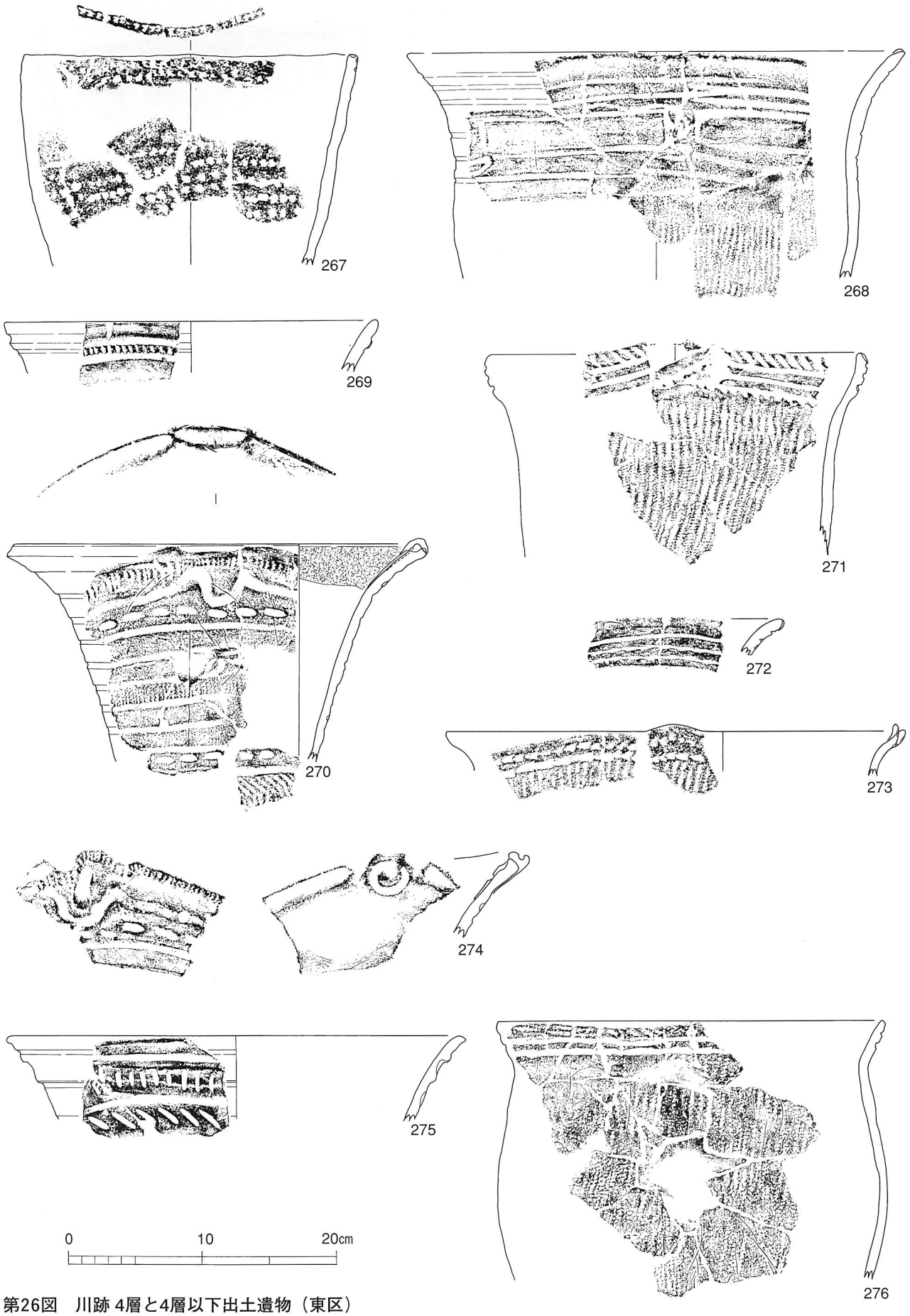
第23図　川跡 4層・4層下出土遺物（東区）



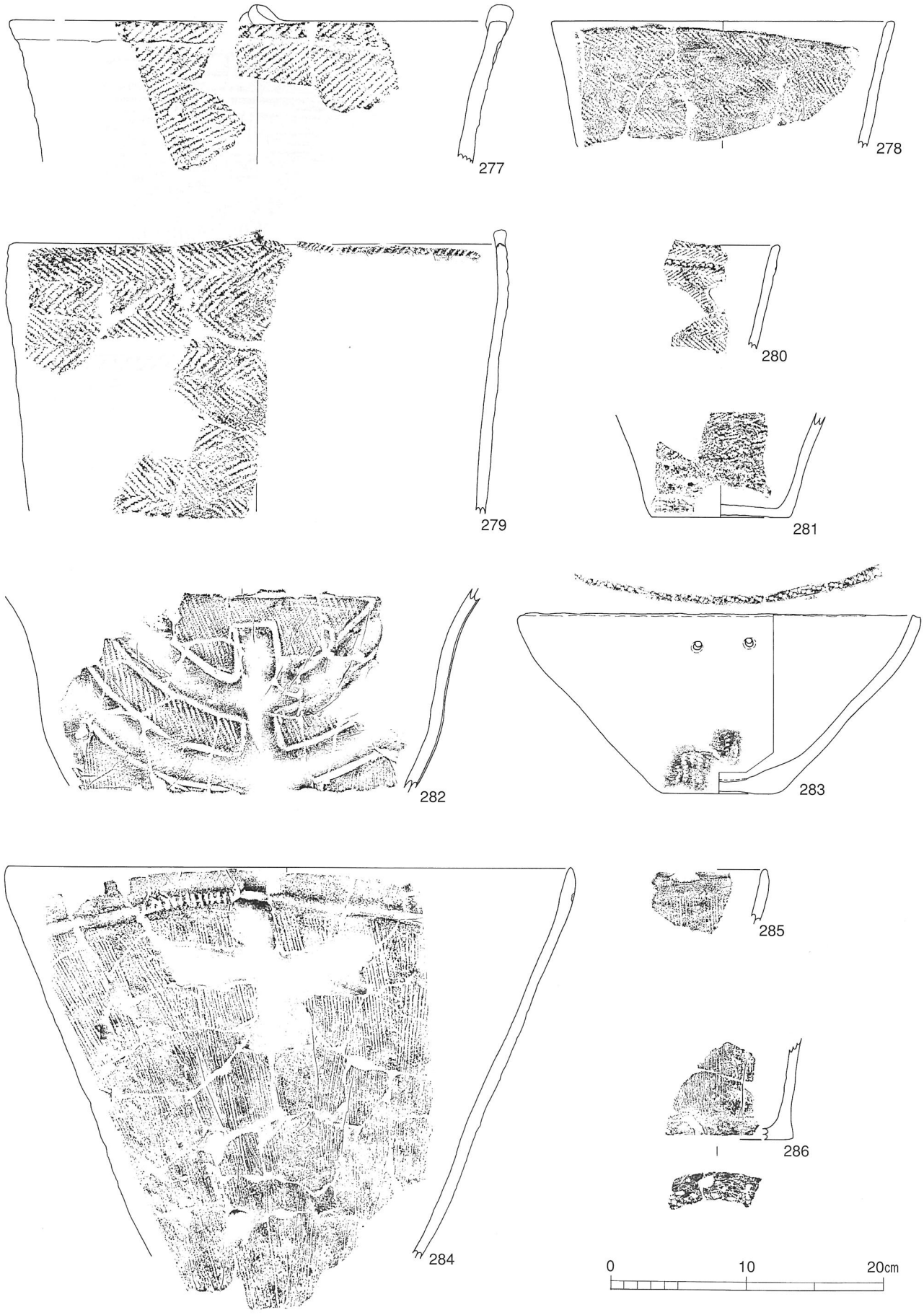
第24図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



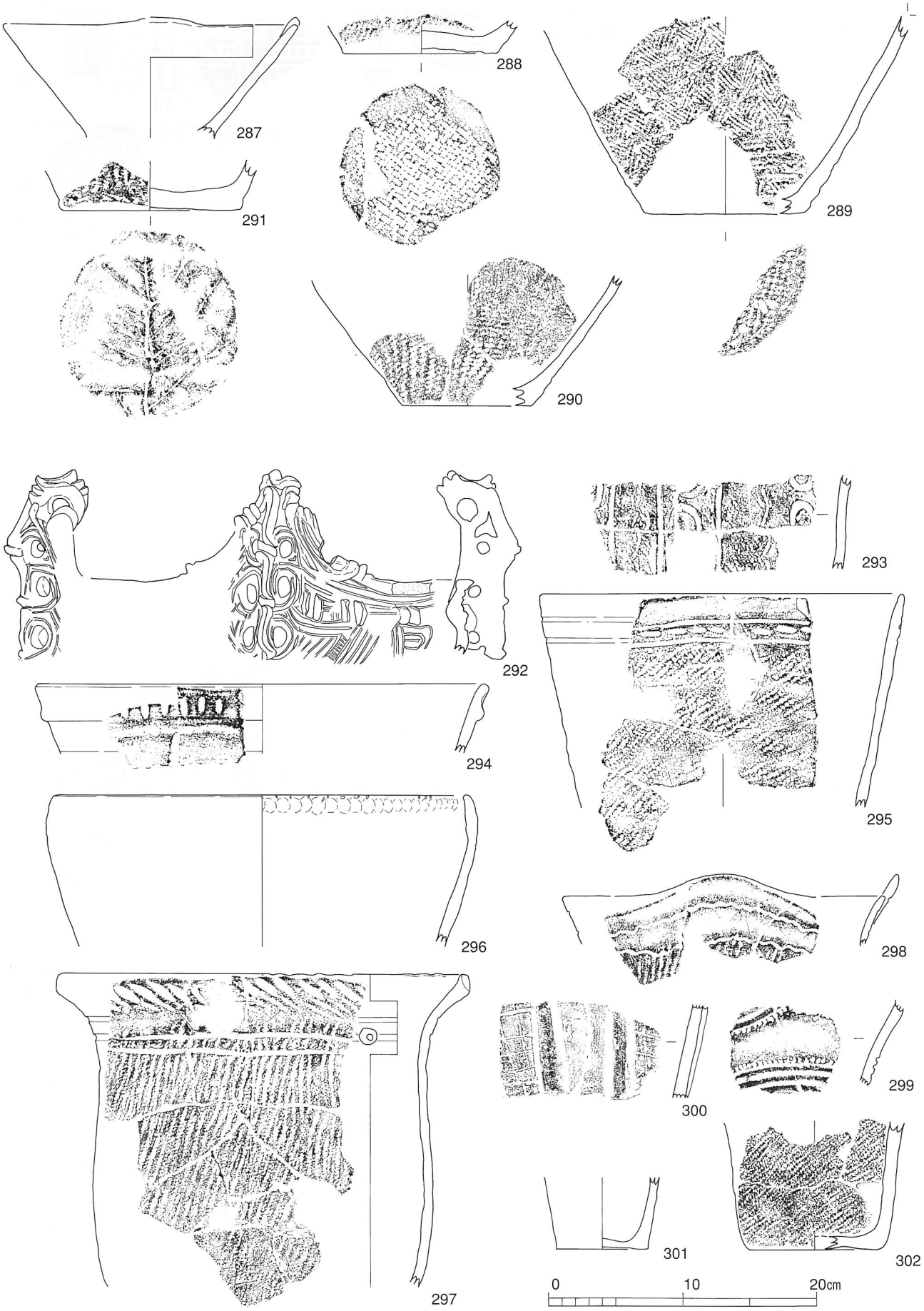
第25図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



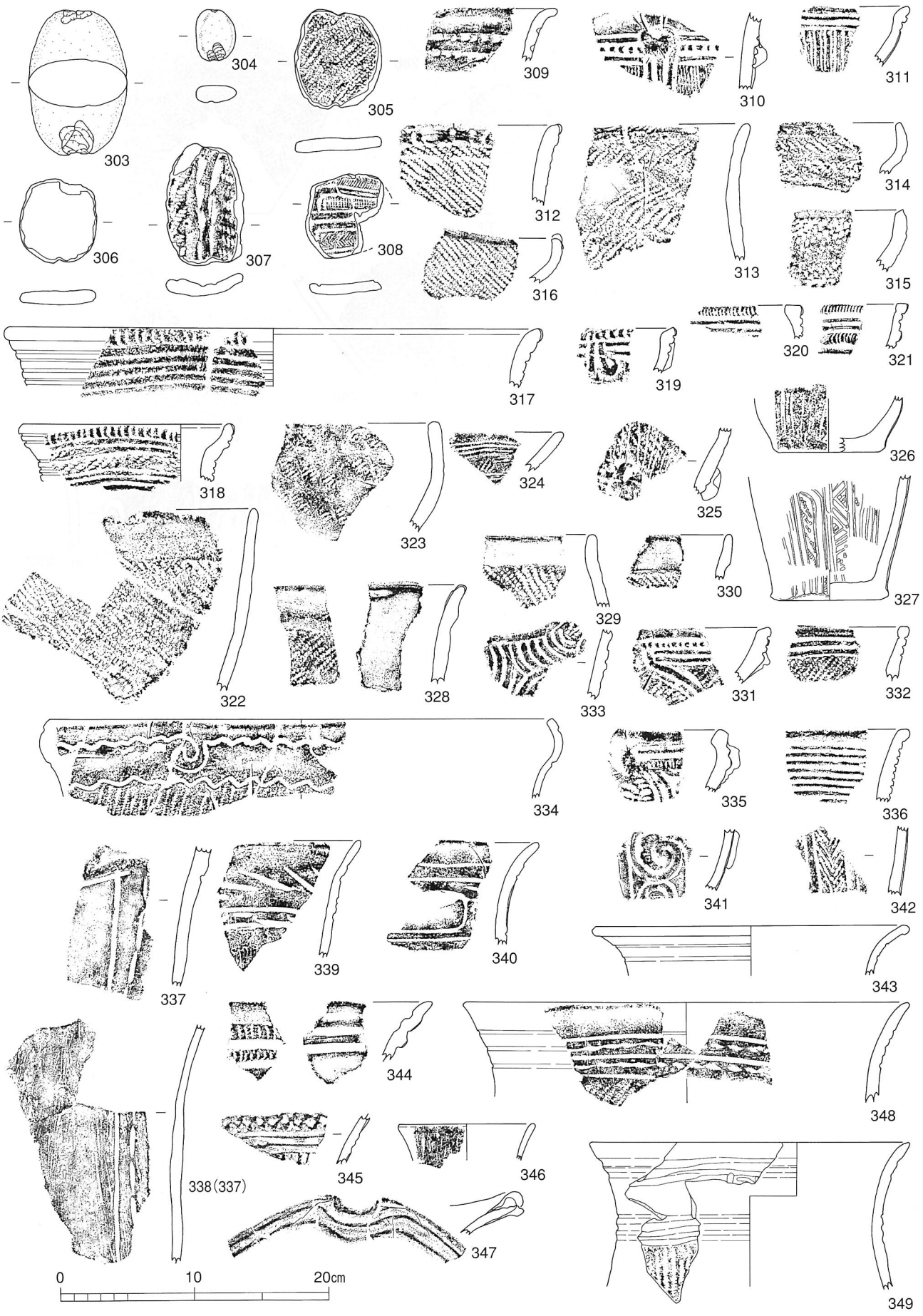
第26図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



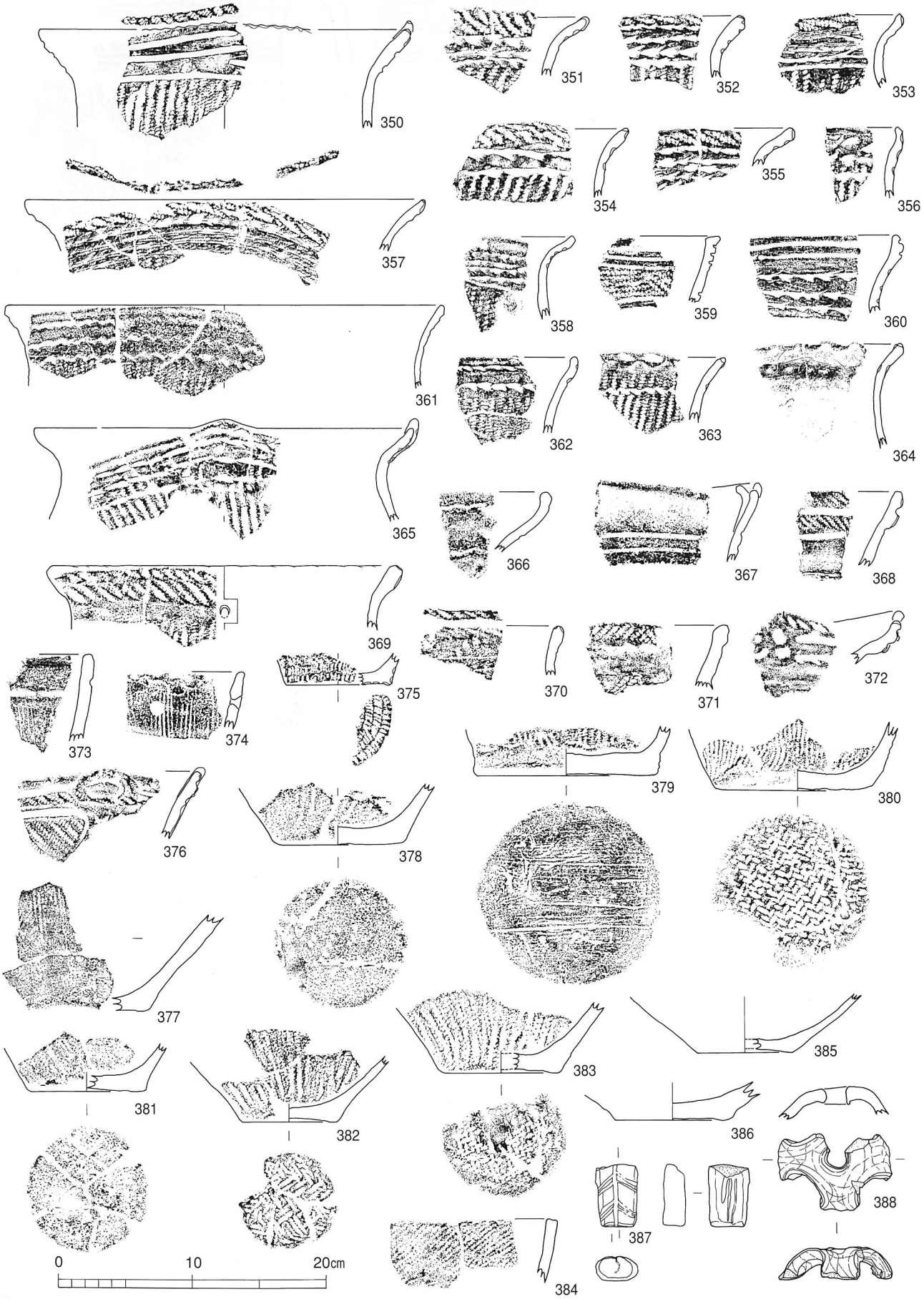
第27図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



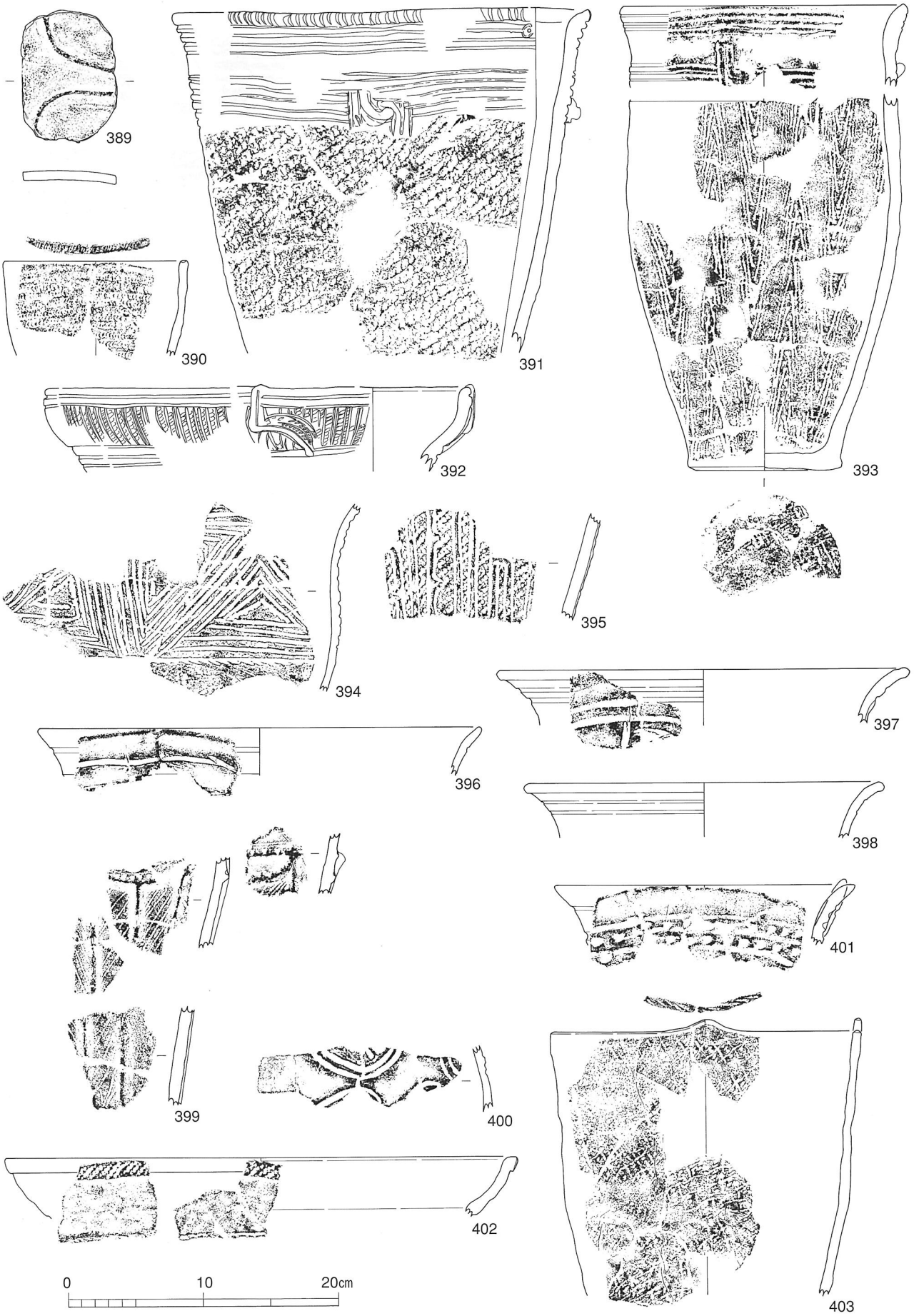
第28図　川跡 4層・4層下と5層以下出土遺物（東区）



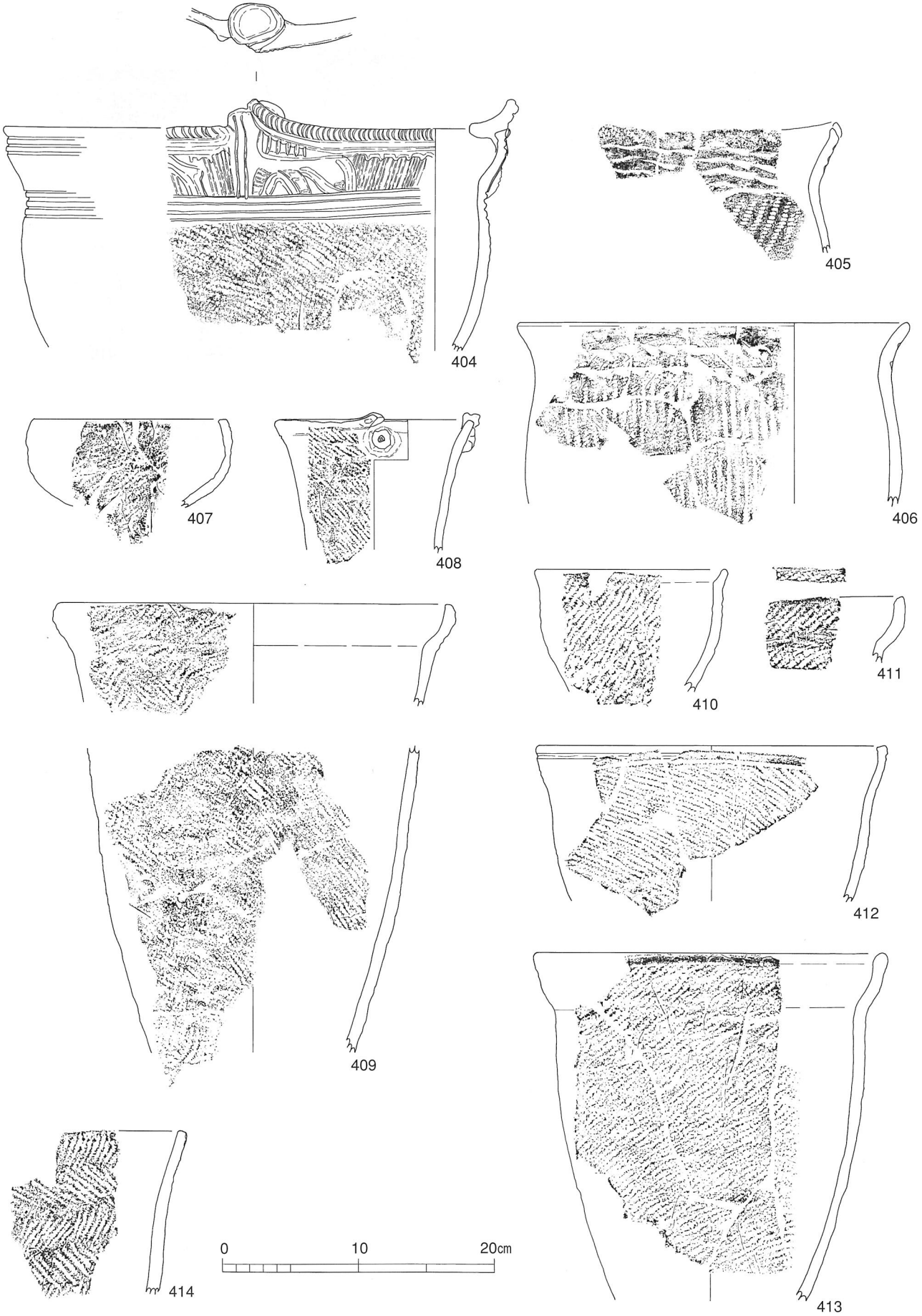
第29図　川跡 5層出土遺物（東区）



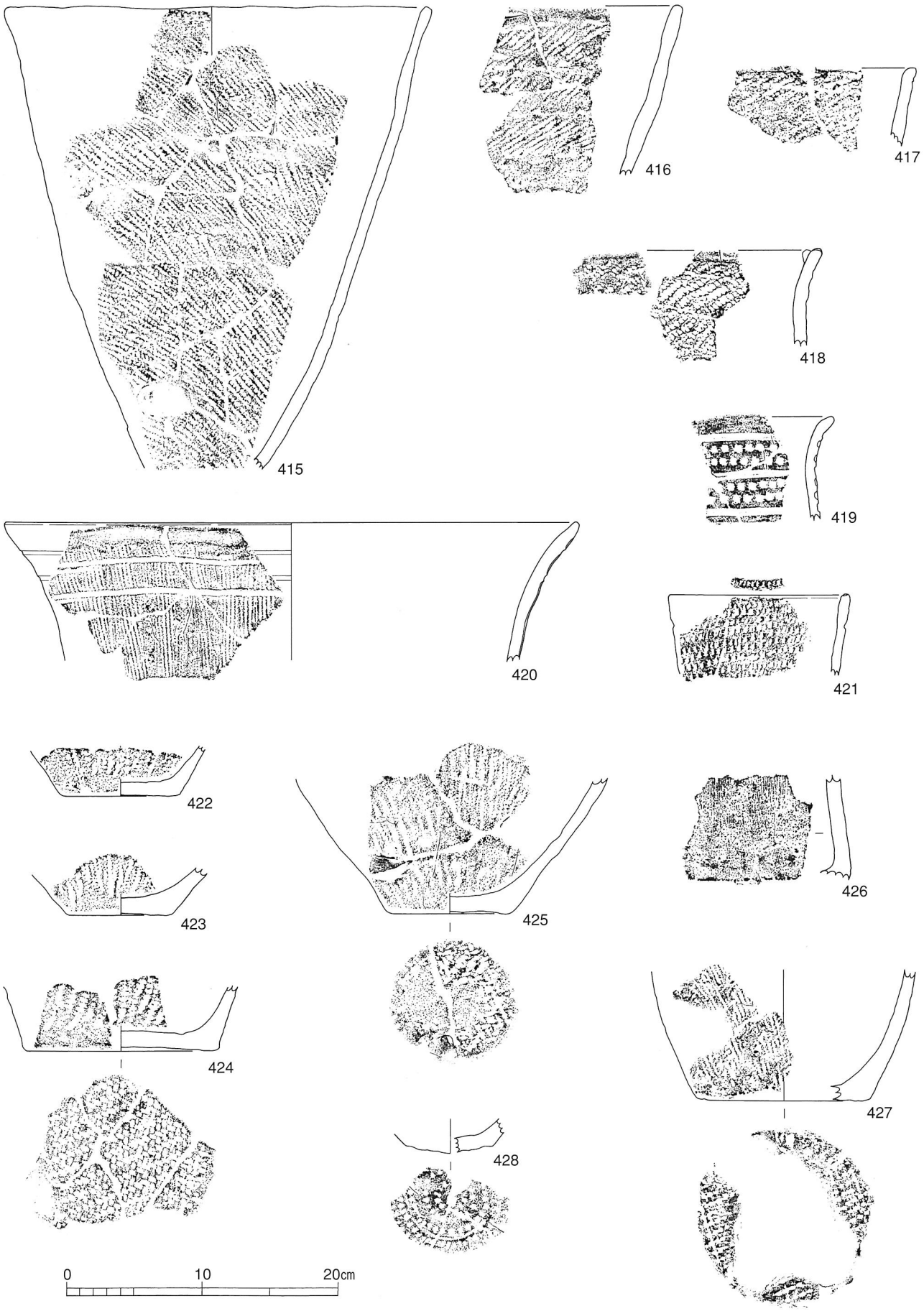
第30図　川跡 5層・5層下出土遺物（東区）



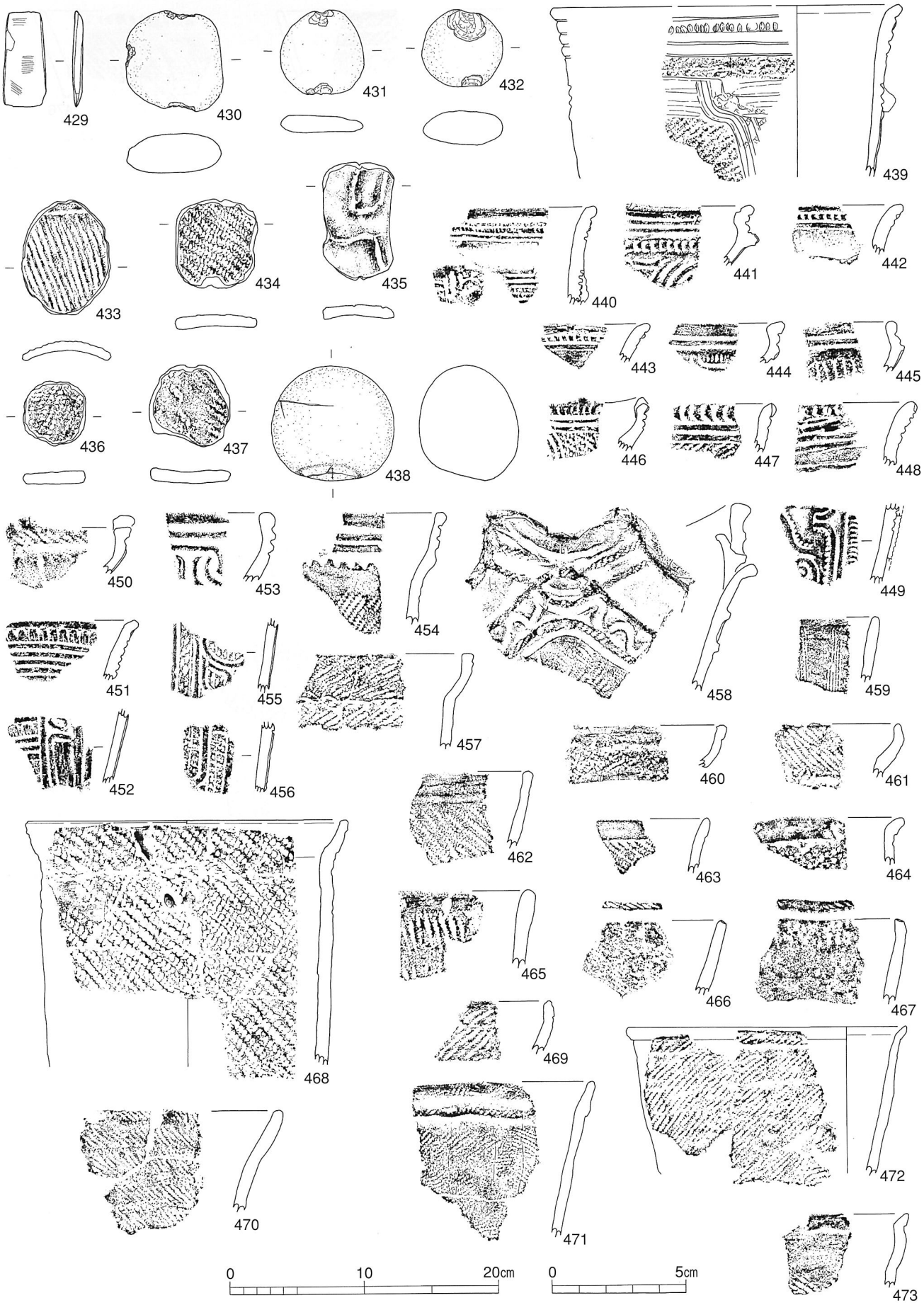
第31図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



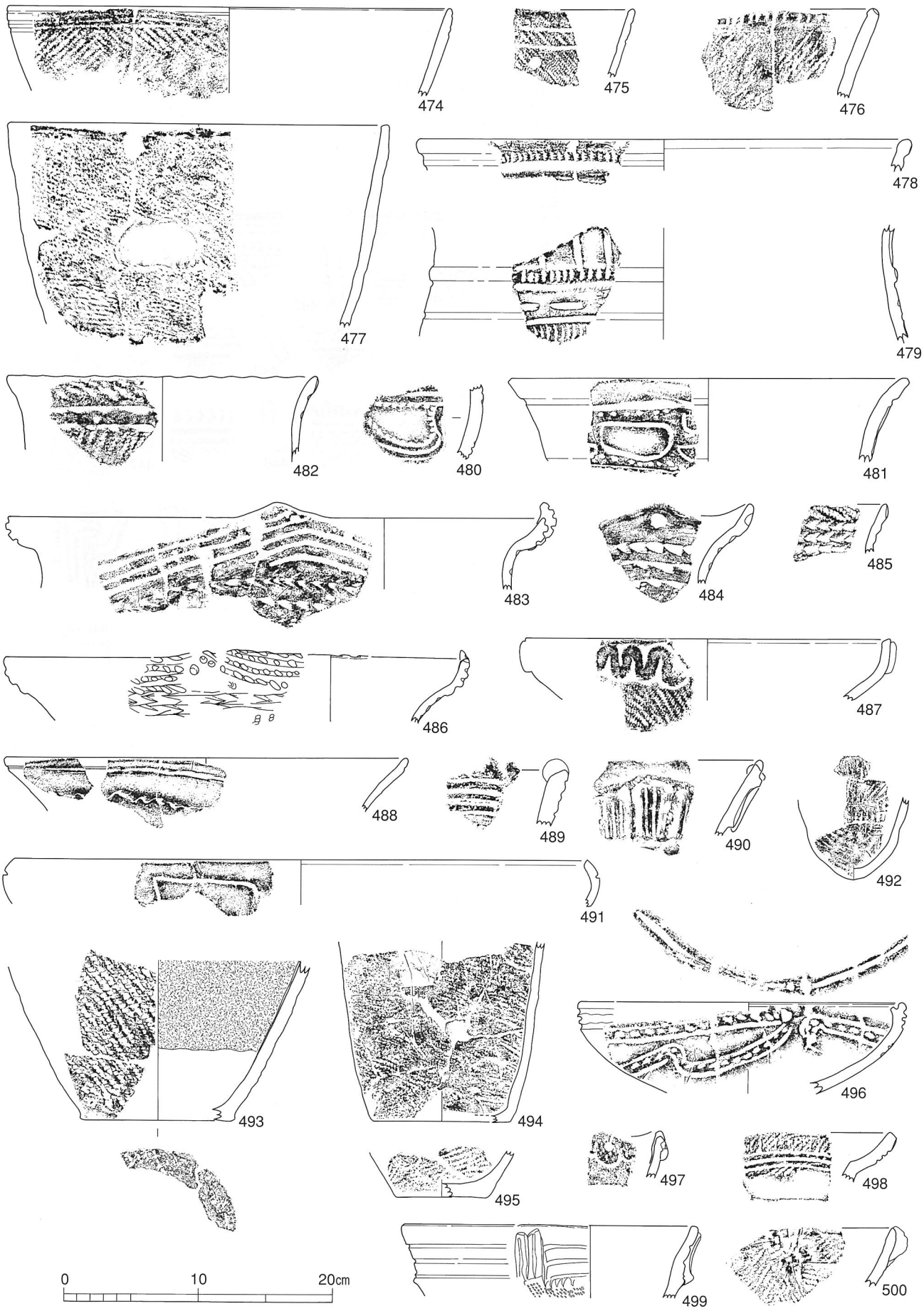
第32図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



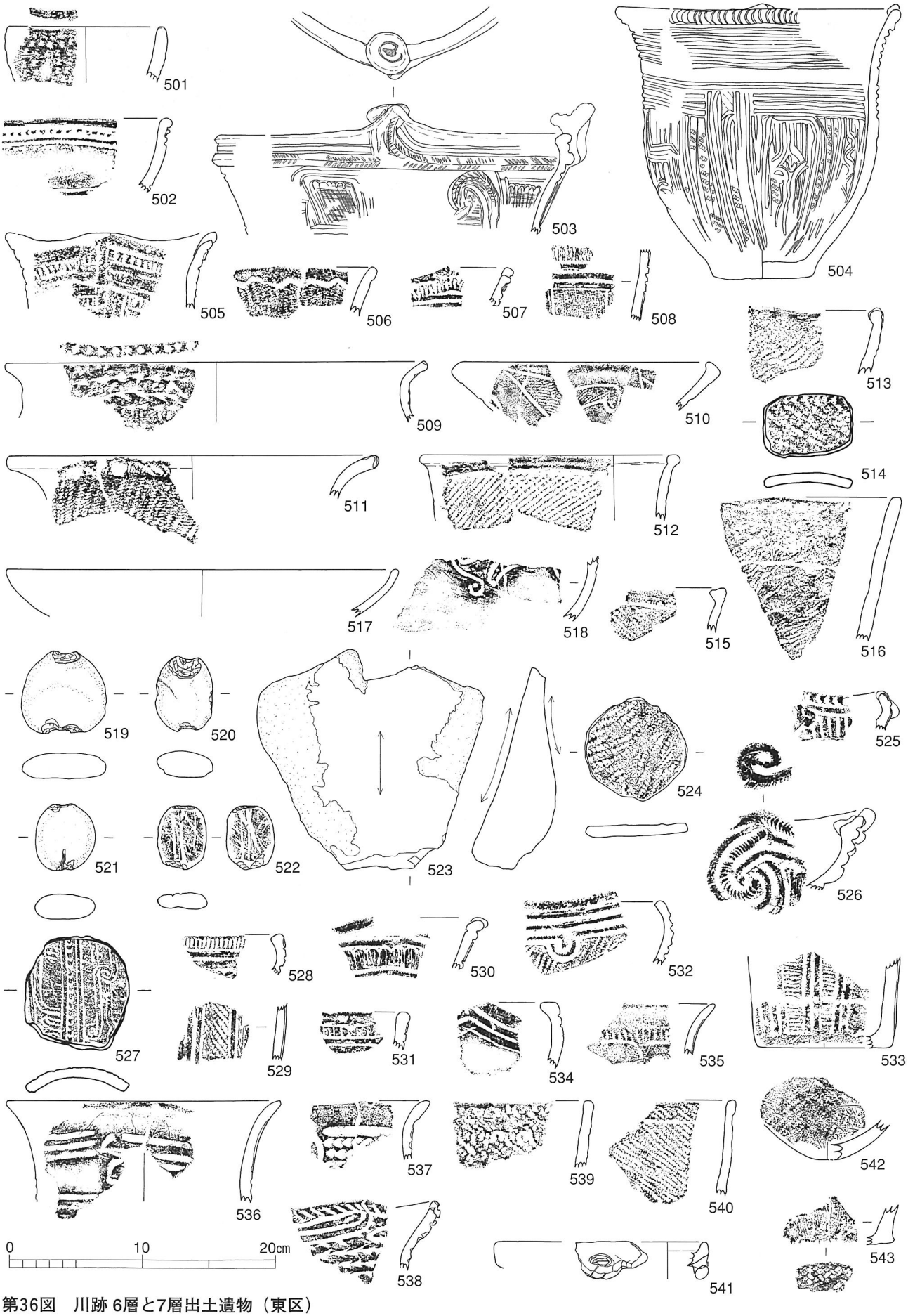
第33図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



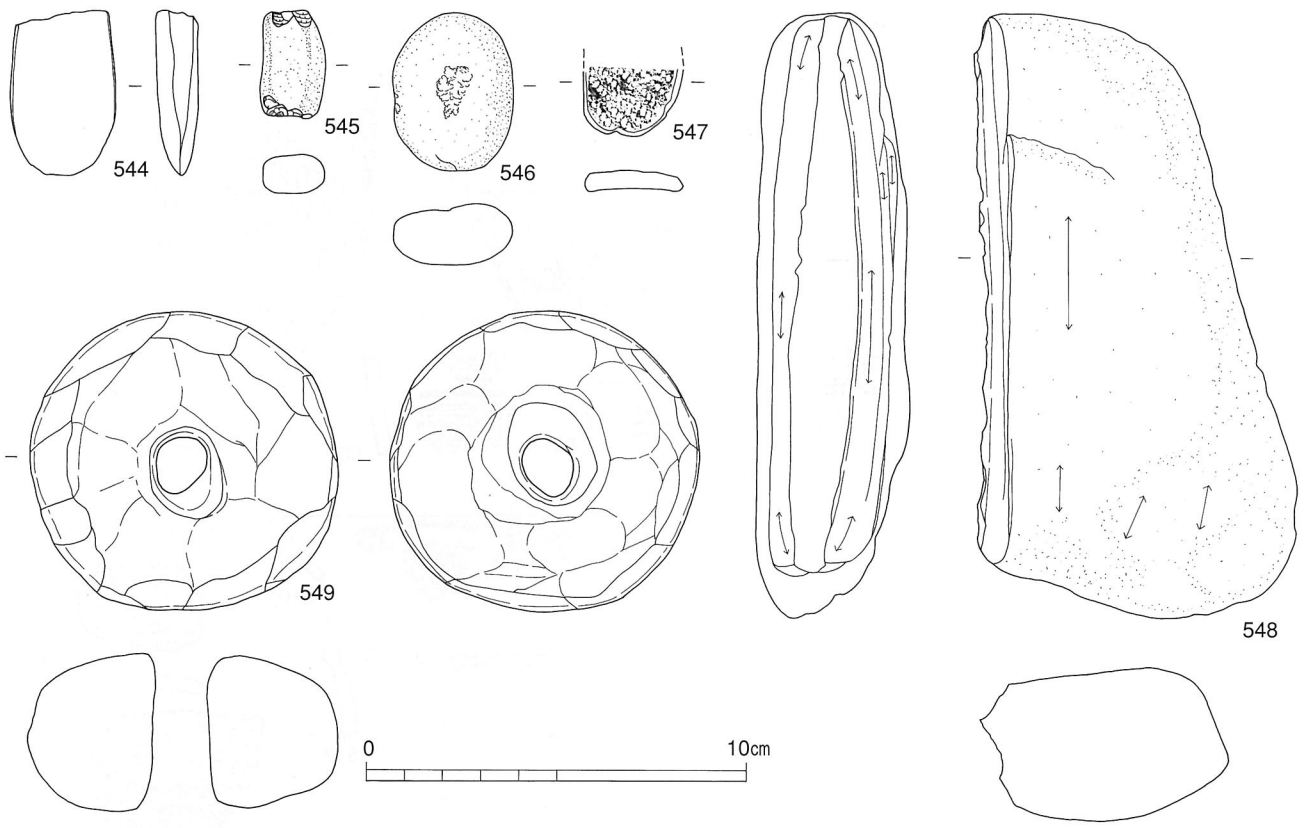
第34図　川跡 6層出土遺物（東区）

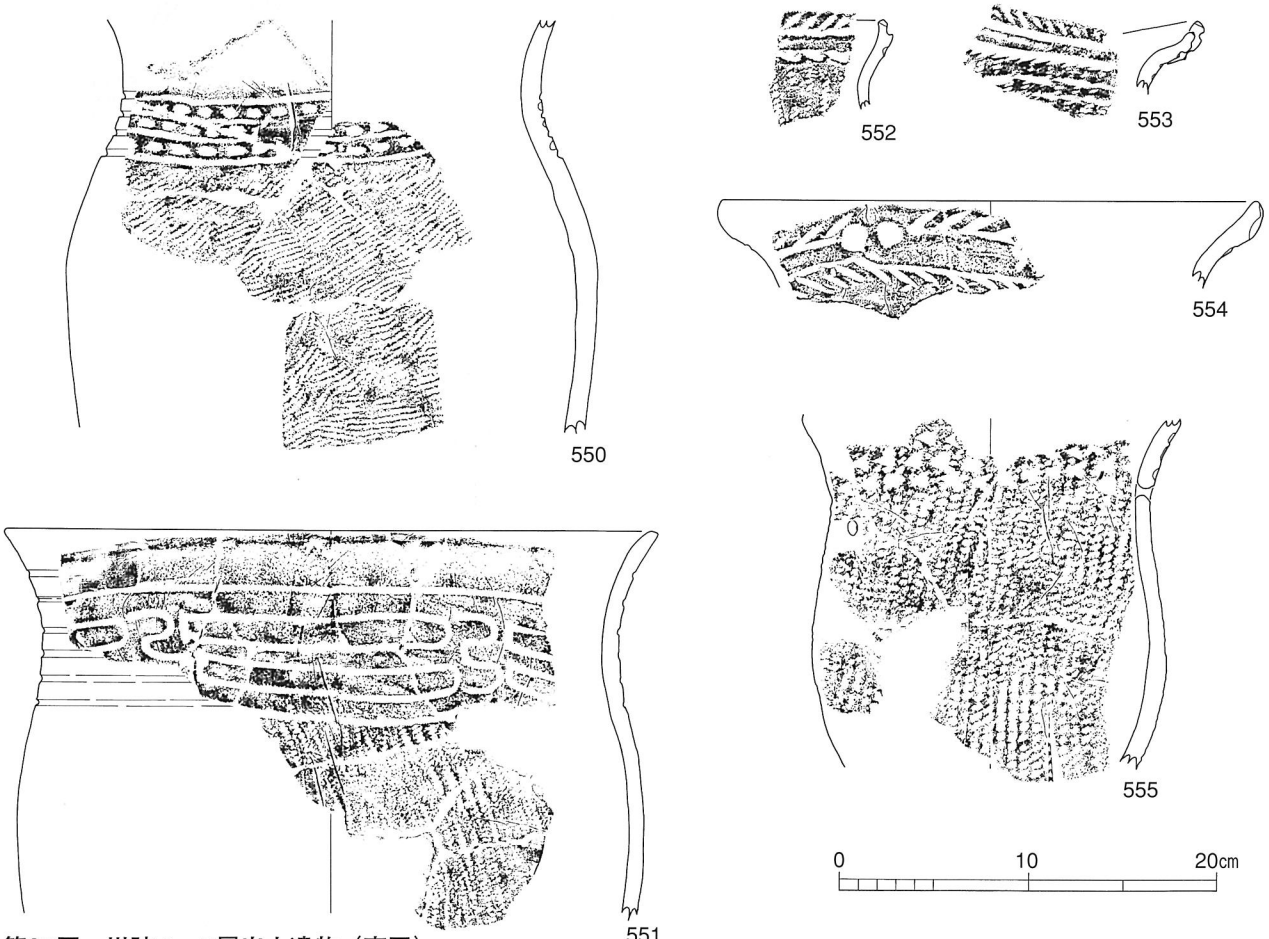


第35図　川跡 6層・6層下出土遺物（東区）

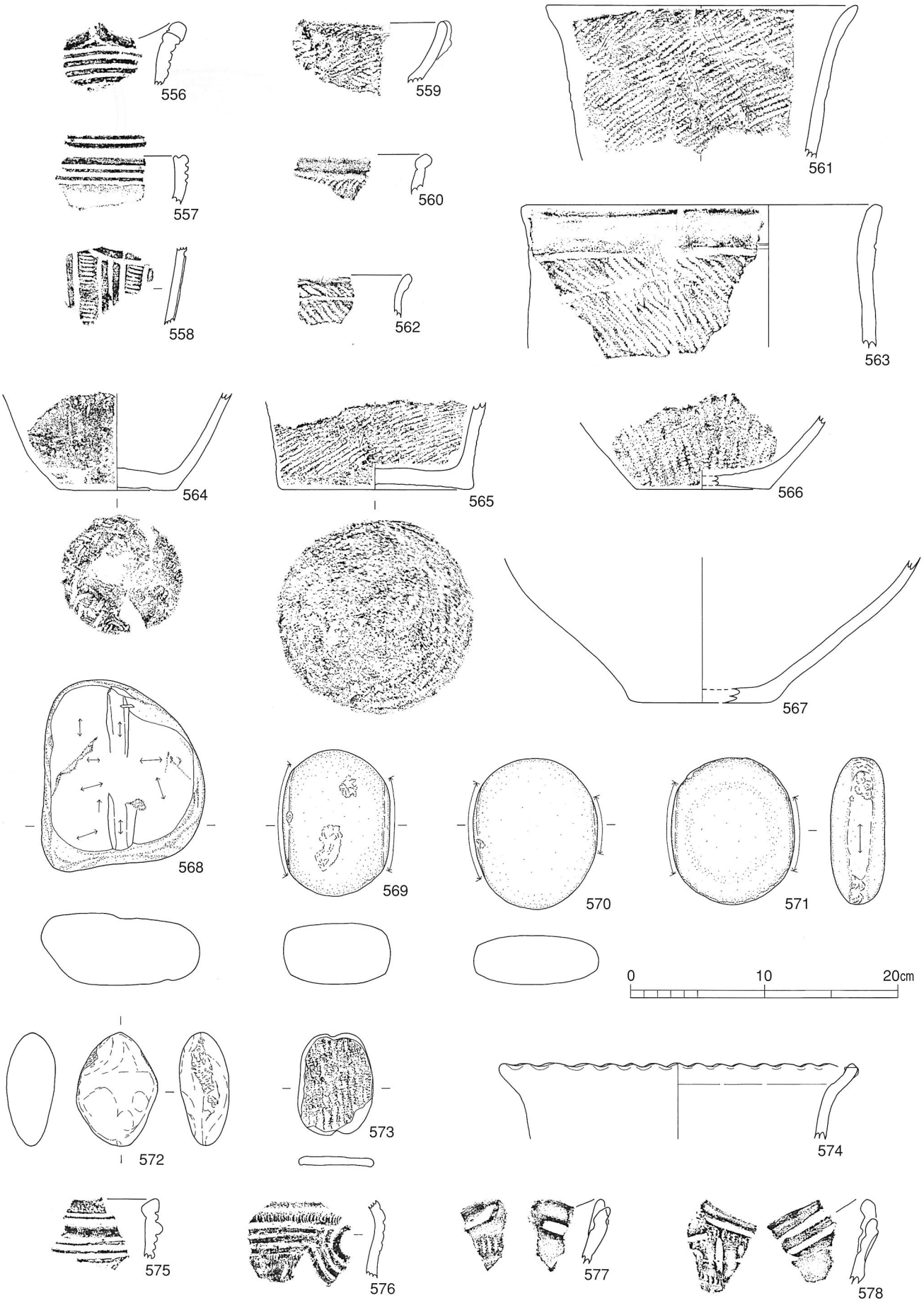


第36図　川跡 6層と7層出土遺物（東区）

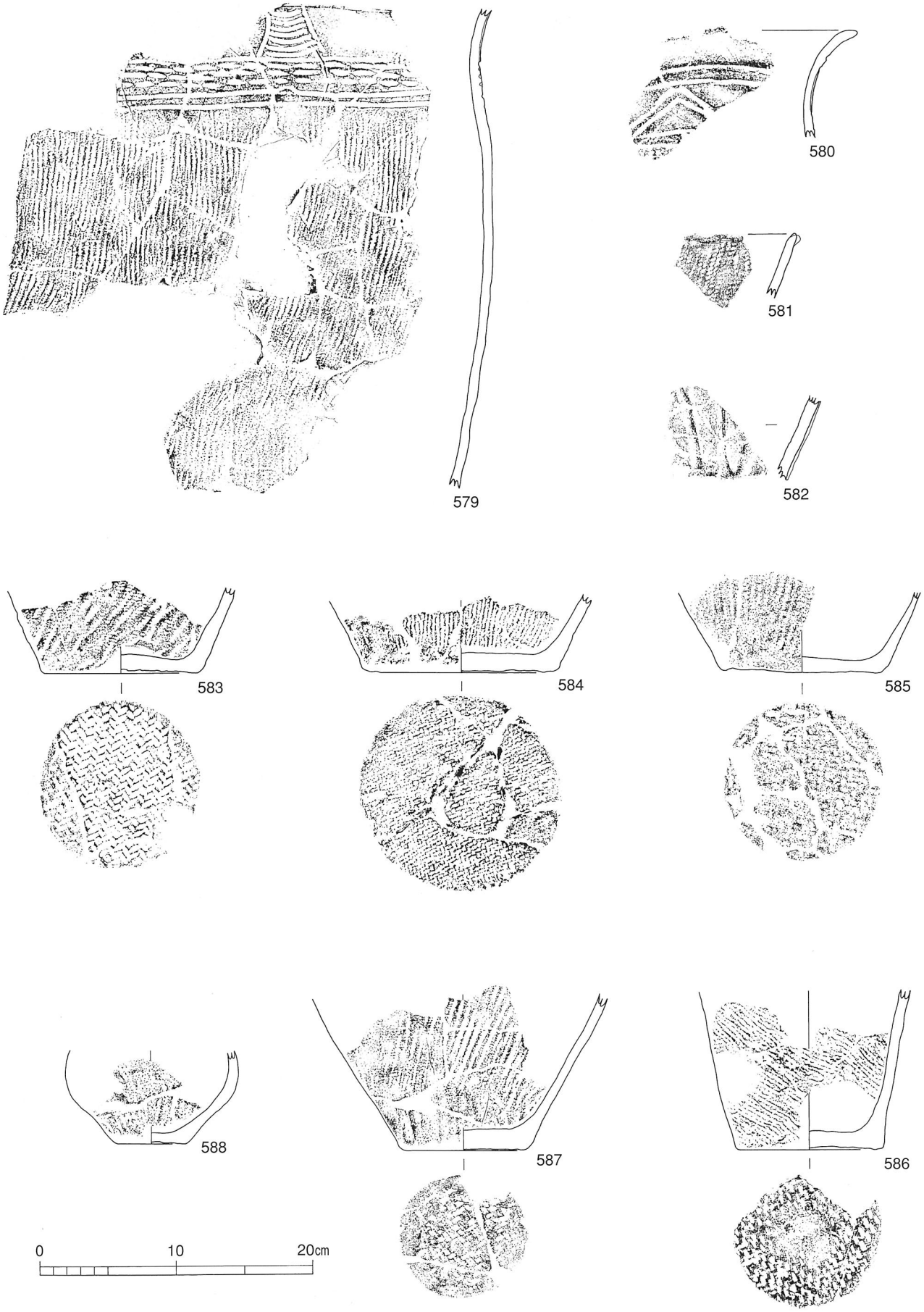




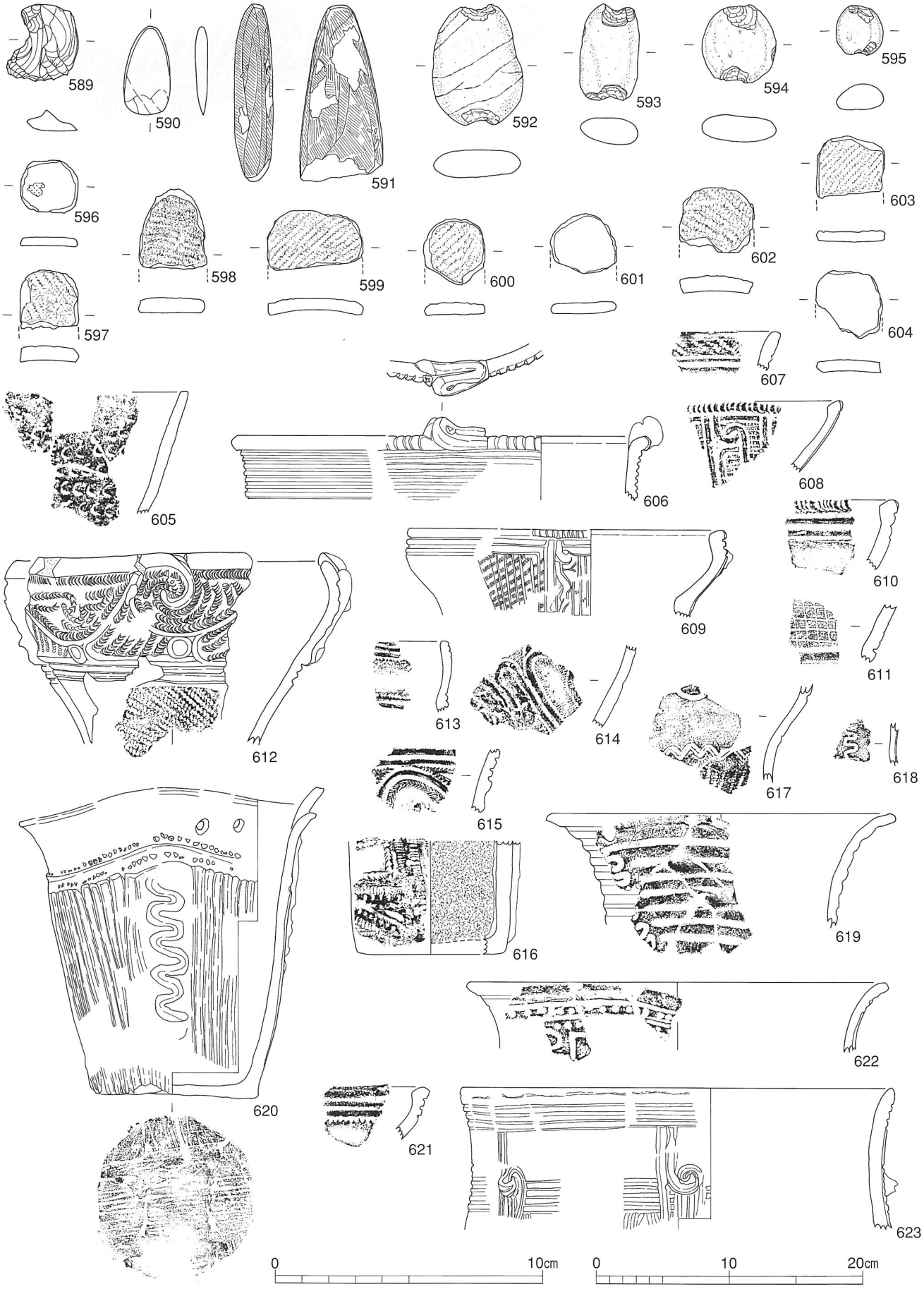
第37図　川跡 3～7層出土遺物（東区）



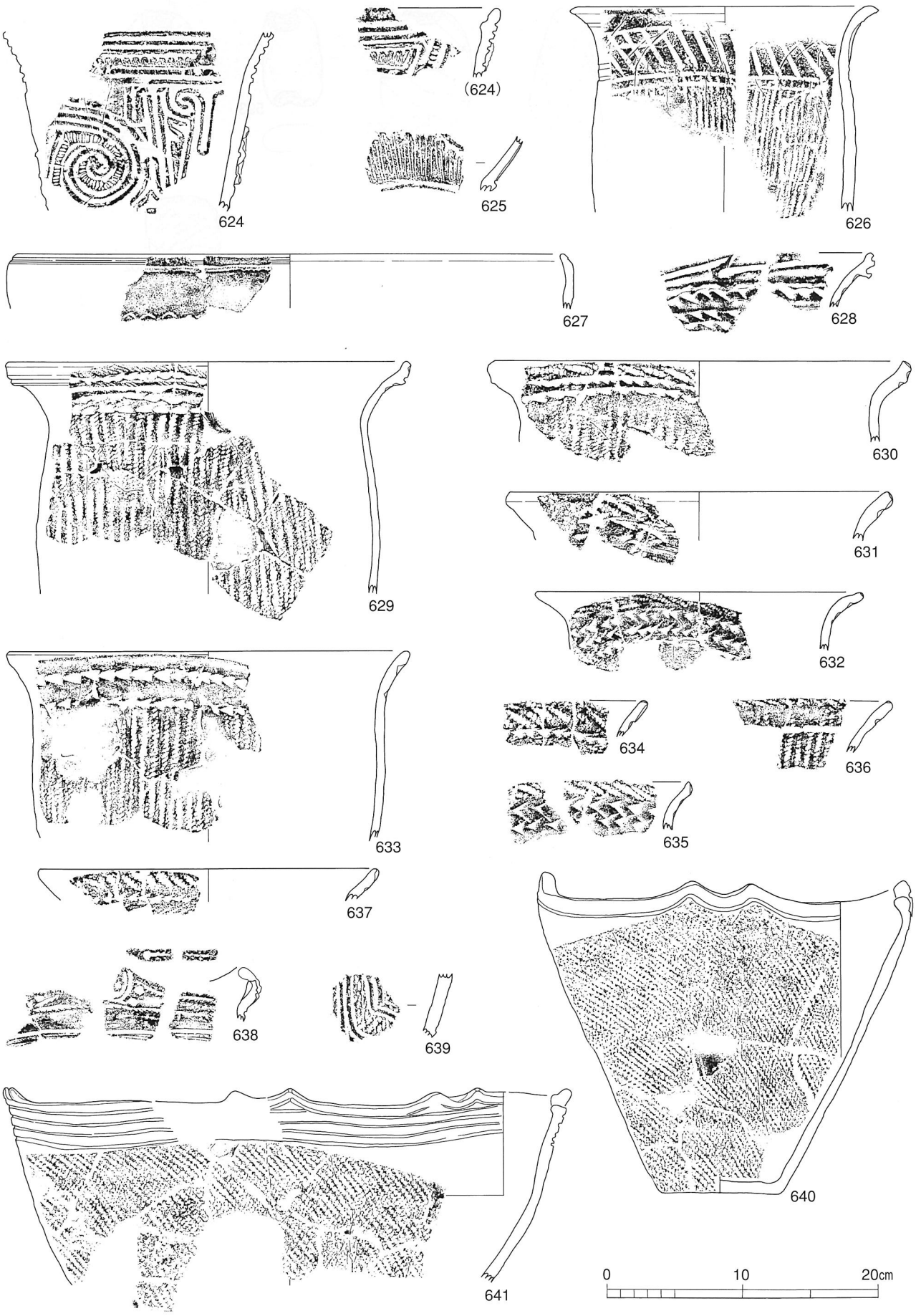
第38図　川跡 3～7層出土遺物（東区）



第39図　SX07出土遺物（東区）

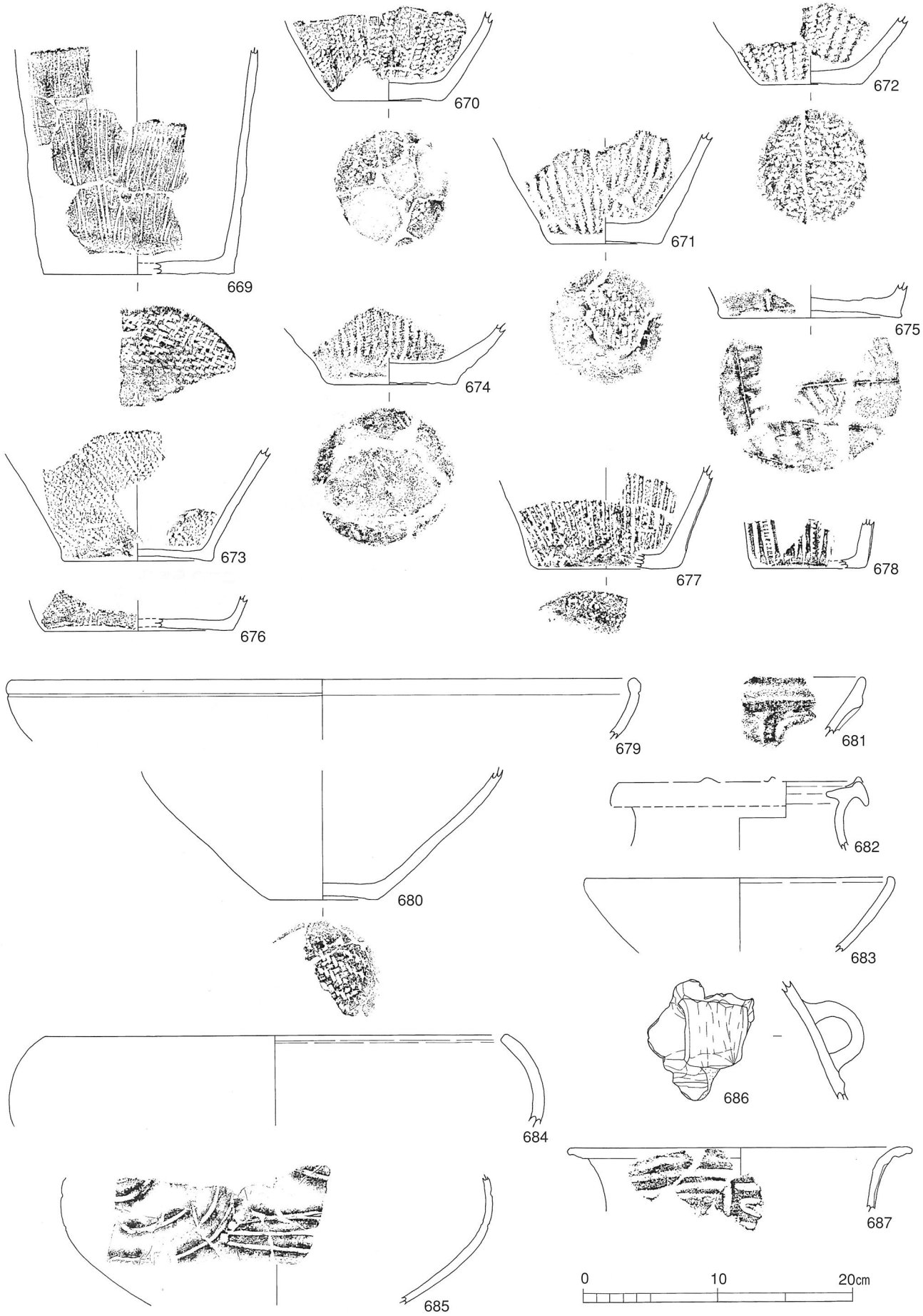


第40図　SX09出土遺物（東区）

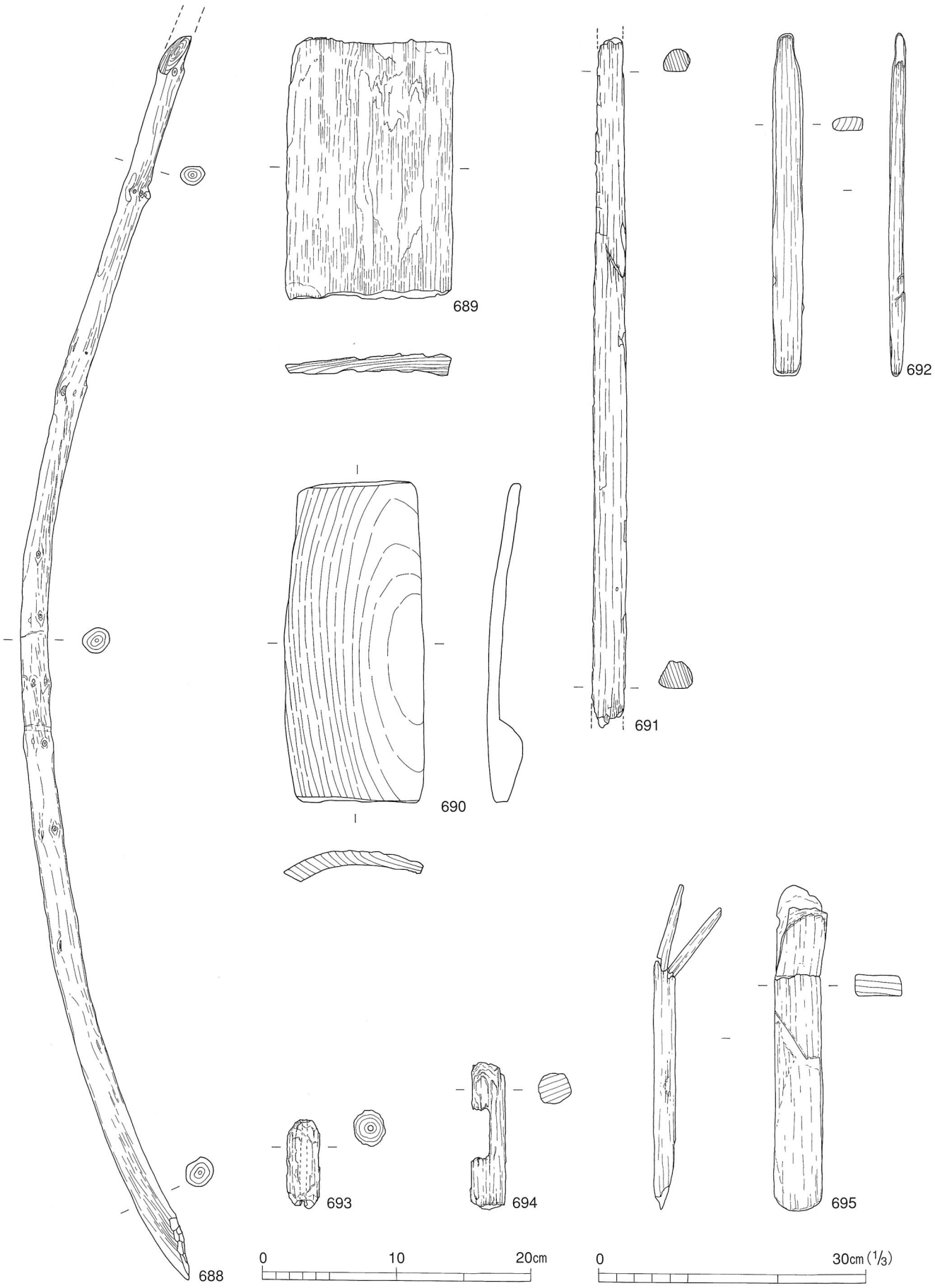


第41図　SX09出土遺物（東区）

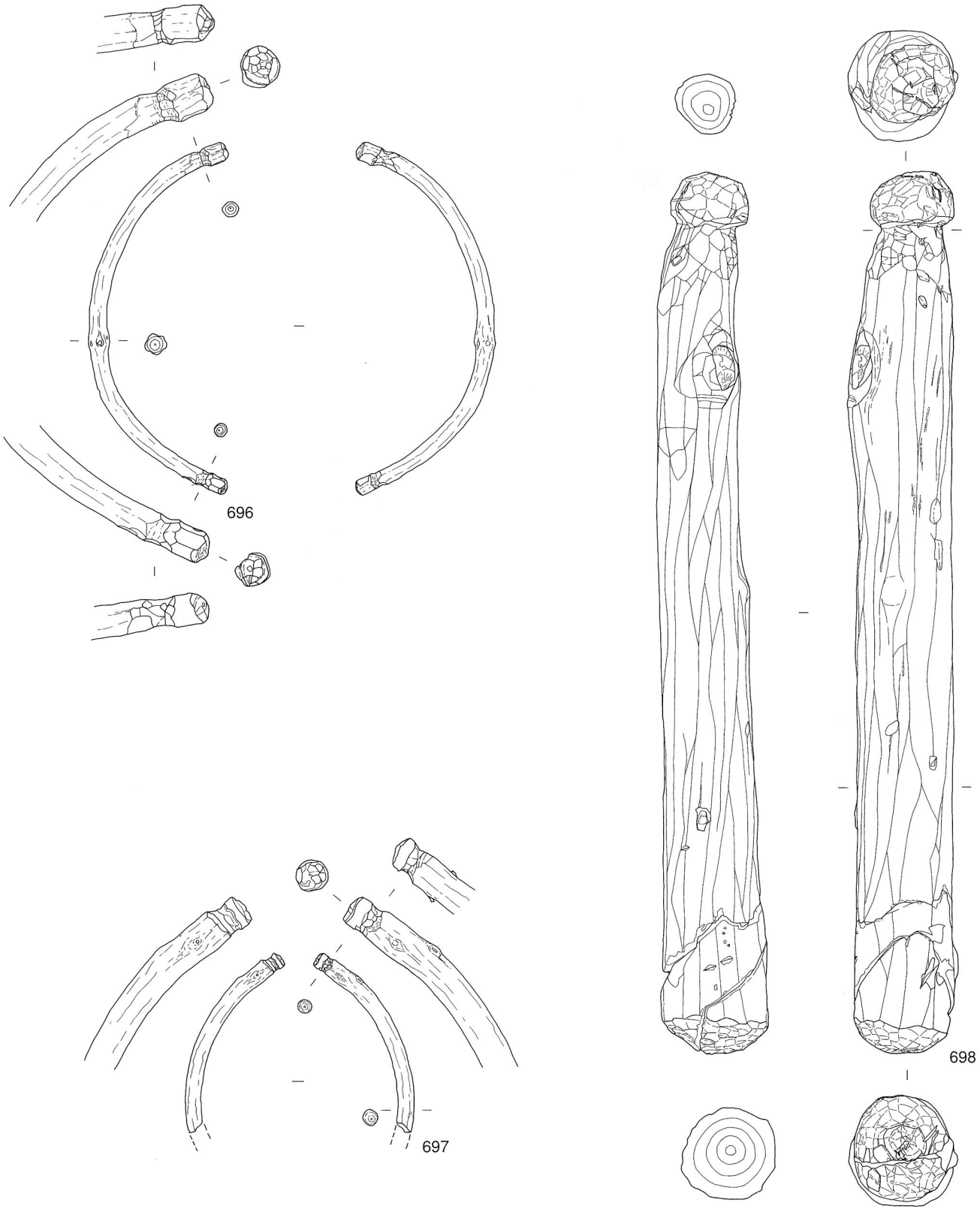
第42図　SX09出土遺物（東区）



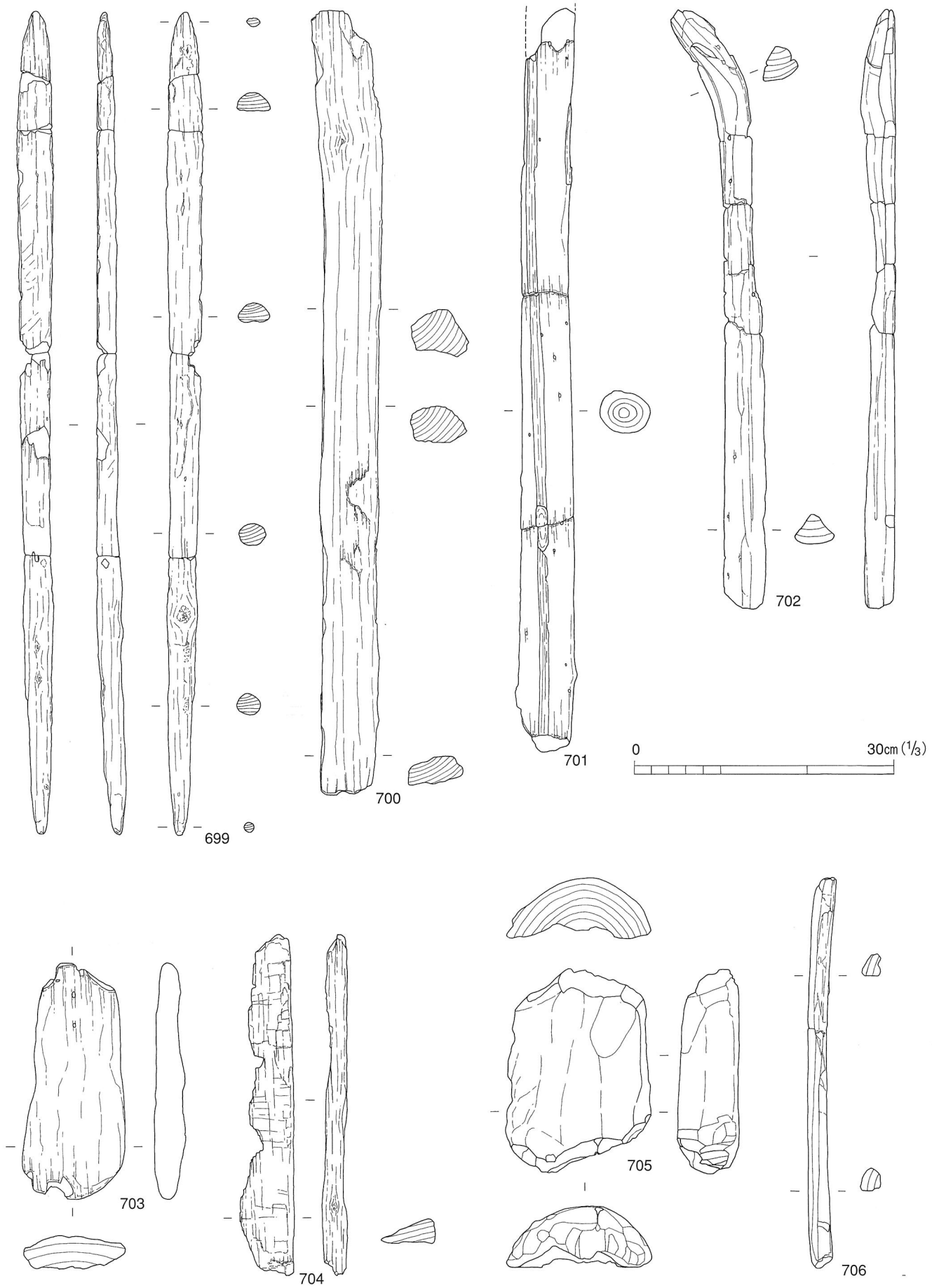
第43図　SX09・10出土遺物（東区）



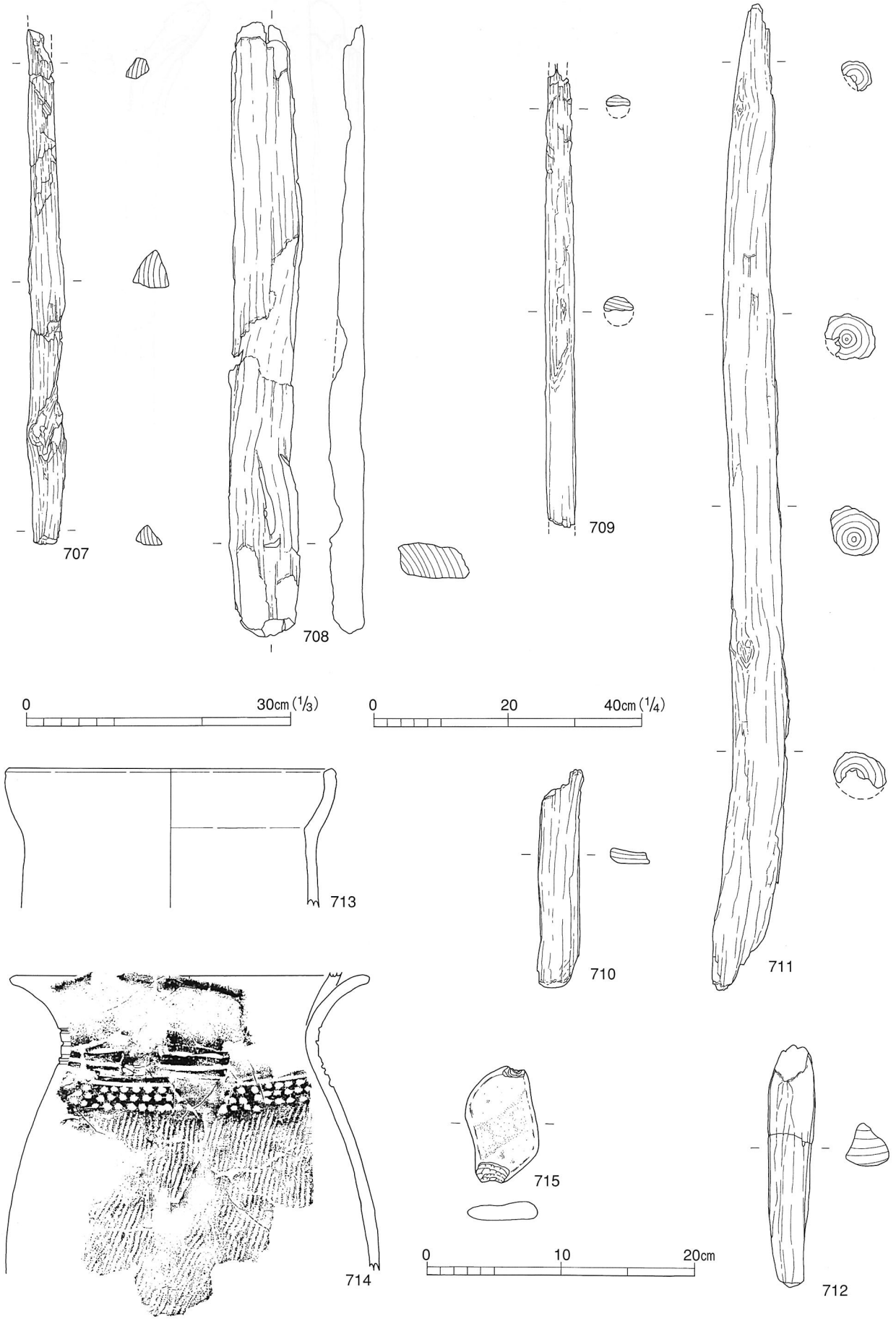
第44図　川跡出土遺物（東区）



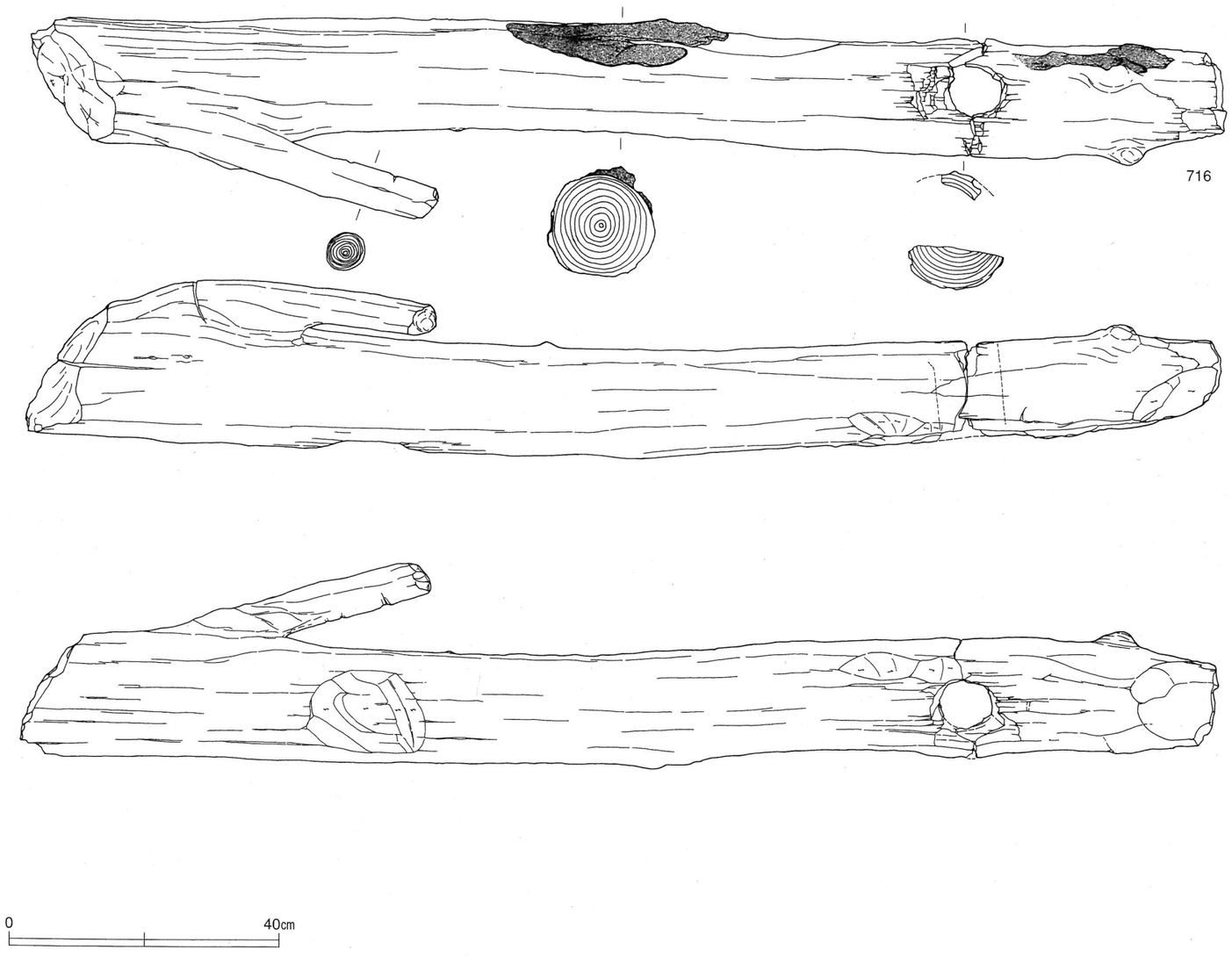
第45図　川跡出土遺物（東区）

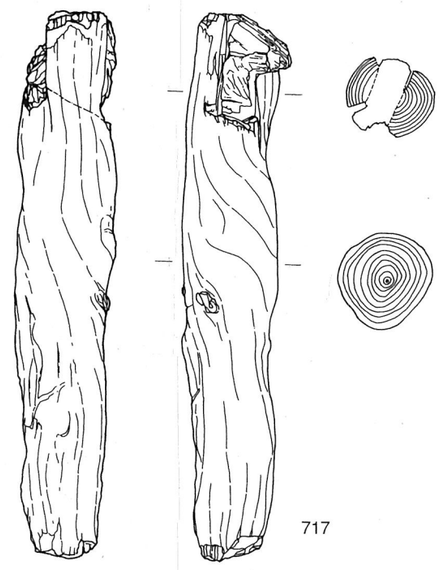


第46図　川跡出土遺物（東区）



第47図　川跡，SX08・09出土遺物（東区）





第48図　川跡出土遺物（東区）

Ⅳ　針原西遺跡出土縄文土器群について

はじめに

針原西遺跡より出土した縄文土器群は、その時期を縄文時代早期末から後期前葉までと考えられる。特に中期後葉から後期前葉、つまり串田新式から気屋式までが本遺跡では中心となる。また、前期中葉から前期後葉、型式として蜆ヶ森式から朝日下層式までがほとんど見受けられず、前期前葉の次は中期前葉、新保式が出現し始める。このことも本遺跡を特色づけている一つの要素となっている。以下、各時期についての概要、最後に総括的な考察をまとめる。

1）早期末から前期前葉

川跡５層・５層下以降から徐々に姿を見せ始める。数量的には多くはなく、18点を数えるのみだが、良好な資料が出土している。施文はそのほとんどが刺突文系で、あとは撚糸圧痕文やループ縄文と思われる施文が見られる。以下、その施文方法で分類をおこなってみた。

a）撚糸圧痕文系（第20図128・第29図323・第31図403）

ＬもしくはＲの撚糸を格子目状に圧痕させる土器群である。403は口唇部にも同じ施文具で施文する。３点とも若干ではあるが、繊維が確認できる。時期としては早期末から前期初頭の佐波・極楽寺式に考えられる。

この施文をする土器群は石川県赤住又谷池遺跡や京都府志高遺跡などでも同様の施文をした土器群が見られる。本遺跡周辺を見ると、南太閤山Ⅰ遺跡出土土器群が良好な対比資料と考えられる。しかしながら、南太閤山Ⅰ遺跡においては今回のような施文の土器群は見られず、今回の資料はこの南太閤山Ⅰ遺跡を補充させる資料と言えよう。

b）刺突文系（第19図94・96・第26図267・第30図375・第31図390・第32図414・第33図421・428・第36図501・第40図605・第42図659）

半截竹管などにより刺突を施した土器群を分類した。375・428は底部片だが、このように底部底辺まで刺突を施すものは、この時期特有の底部である。267は半截竹管の裏側を使用しての施文であり、口唇部の施文はほとんど押し引きに近い刺突を施す。390は非常に細かく綿密な半截竹管文を施す。土器胎土中に大量の海綿骨針を含む。421は半截竹管というよりむしろヘラに近い施文具で刺突を施す。414は全面羽状縄文を施した後、口縁部周辺のみ２連の半截竹管文を施す。

c）条痕文系及び縄文系（第33図415・第35図492・第36図542）

条痕文や縄文施文のみの土器群を分類した。492は表面条痕文の尖底で、542は表面羽状縄文の尖底である。２点とも前期前葉の底部に収まると見られる。415は全面ＲＬの斜縄文を施文するのみだが、その成形方法や胎土からこの前期前半期に位置づけられるかと考える。

2）中期前葉から中葉

最初に述べたように、前期前半以降の土器群はほとんど見られず、中期前葉の新保式が姿を見せ始める。ここでは中期前葉から中葉として新保式から新崎式、上山田・天神山（古府）式をまとめた。

総数は144点を数えるが、その内訳を見ると、新保式が40点、新崎式が45点、上山田・天神山式～古府式が59点と、時期が新しくなるにつれ出土点数が増加していることが理解できる。

土器群の内容については、特に問題となる土器群は出土しておらず、従来の型式の枠組みですべて収まるかと考えられる。新保式については、第20図114や115のように、縄文地に半隆起線文を施したり、口縁部から頸部にかけ

て4単位の貼付隆帯を施す土器群で大半が構成されており、胴部に木目状撚糸文を施す土器も第31図393の1点しか出土しないということが本遺跡の特徴である。

3）中期後葉から後期前葉

串田新式、前田式（岩峅野式）、気屋式を中期後葉から後期前葉として分類をおこなった。本遺跡において最も数量が多く出土している時期で、総数262点を数える。内訳を見ると約4割を気屋式が占め、続いて前田式が約3割、串田新式が約2割となっている。ここでも前項と同じような現象が起きており、時期が新しくなるにつれ出土点数が増えている。気屋式においては全出土点数でも約3割あることから、本遺跡における中心時期は気屋式であろう。

今回の分類では、前田式（岩峅野式）と気屋式の間に「前田式～気屋式」という分類基準を入れている。ここであげた土器群は小島俊彰氏の分類ではすべて「前田式土器様式」（小島　2000）に分類されるものだと考える。外反する口縁部形態に、頸部に文様帯を施し、胴部には縦走縄文を施す。またその施文方法を引き継ぎながらも、口縁部を若干内湾化させ、頸部の沈線文が口縁部まであがり、蛇行沈線文が波状沈線文になっていく気屋式の古段階の土器群も見て取れる。今回、このような変遷が見て取れる土器群がでているが、明確な層位が掴めることができないのが残念である。この過程については石川県真脇遺跡において層位的に出土していることから今後の検討課題となるであろう。「岩峅野式土器様式」に考えられる土器は第40図619の1点しか確認できない。小島氏によると「岩峅野式土器様式」が富山県呉東地域を中心に分布していることから、呉西地域に位置する本遺跡では、あまり「岩峅野式土器様式」は広がりを見せなかったものと考えられる。

おわりに

以上、簡単ではあるが、各時期の概要について述べてみた。最後に本遺跡出土縄文土器群の総括的な考察をおこなってみたい。

まず、早期から前期にかけての土器群であるが、撚糸圧痕文を施す土器群は、佐波・極楽寺式に考えられる。この撚糸を圧痕する土器群は、南太閤山Ⅰ遺跡では報告書を見る限り確認できないため、「南太閤山S群」を補充する資料となりうる。また、刺突文を施す土器群であるが、今回実見する限り、北白川下層Ⅰ式もしくはⅡ式の影響を色濃くしていることが確認できた。この地域においては、東側よりも西側との関係性について考察を進めていくことがより現実的であると考えられる。「3」字状に刺突を施す土器が1点あるが、おそらく羽島下層Ⅱ式の影響を受けた土器と考えられる。

本遺跡においては、前期の北白川下層Ⅱ式が最後の出土となり、北白川下層Ⅱ式と並行または後続する土器群、蜆ヶ森式や福浦上層式、朝日下層式等といった土器群が全く見受けられず、中期・新保式の土器群が顔を見せ始める。北陸独自と見られる蜆ヶ森式や福浦上層式が顔を見せないということは、本遺跡を特徴づけており、今後の検討課題となるであろう。南太閤山Ⅰ遺跡でも同様に蜆ヶ森式や福浦上層式の土器群を見ることはない。

次の中期の段階であるが、遺跡の立地的な環境から、加賀・能登地域との関係を見ていく必要性がある。特に新保式においては、徳前C遺跡タイプの土器群がまとまって出土しているので、検討を要するものと考える。上山田・天神山式になると境A遺跡などの呉東地域との関係性が強くなっていくのも特徴的であると考える。串田新式については、その細分について様々な論考があり、未だその全容を表していないと考えたため、今回は細分しなかった。

本遺跡においてその中心となる土器群は、前田式から気屋式である。この時期が本調査区の中心時期といってよいだろう。この時期の土器群では、前田式から気屋式に至る過程の問題がある。石川においてこの間に、珠洲市高波遺跡出土土器群の存在があり、山内清男氏及び高堀勝喜氏により「高波式」と設定されたものである。この「高波式」

については、加藤三千雄氏が

a)「葦状の施文具」を使い、平行沈線ないし列点文を施文する。沈線は逆「コ」字状の断面を呈するのが特徴である。

b) 口縁外反する類は器形の上で緩い波状口縁が多い。

c) 平行沈線が多条化し、刺突文（列点）も三、四段と多段化することがあげられる。

d) 口縁部を無文とし、頸部に平行沈線、蛇行沈線を施文するものがある。

e) くびれた頸部から口縁部が外傾し、その上端を内側に短く折り曲げる深鉢が出現する。

以上の５項目をあげて説明し、この「高波式」が気屋式の直前型式であることを示しているとしている（加藤　1993）。さらに、加藤氏は「気屋式に先行する土器型式として前田式が使用されるが、従前の前田式を古段階、高波遺跡出土の山内資料を新段階と二分する方向にある」としている。この分類と小島氏の「前田式土器様式」及び「岩峅野式土器様式」の分類の考察は、ほぼ同じ方向性にあると見られる。しかし、小島氏はこの「高波式」に関する考察をおこなっておらず、「前田式土器群」内部での考察をおこなっていることが大きな違いであるかと考える。本遺跡が位置する射水平野一帯を考えるときには、その立地的環境から石川との関係性を論じていく必要性があると考える。

以上から、針原西遺跡出土土器群は、この射水平野一帯の縄文時代土器群の考察を進めていく上で、重要な地位を占めると考える。今回出土した縄文土器の多数が川跡や溝出土ということで、層位的とは決して言えない。今後、周辺地域の調査が望まれる。

（堀井）

参考文献

福井県教育委員会　1979年『鳥浜貝塚―縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査１―』

森　秀典　1984年「北陸の縄文時代中期後葉“串田新式”に関する編年試論」『大境』第８号　富山考古学会

能都町教育委員会／真脇遺跡発掘調査団　1986年『真脇遺跡』(1997年復刻版)

宇ノ気町教育委員会　1986年『宇ノ気町気屋遺跡』

富山県教育委員会　1986年『都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(4)　南太閤山Ⅰ遺跡』

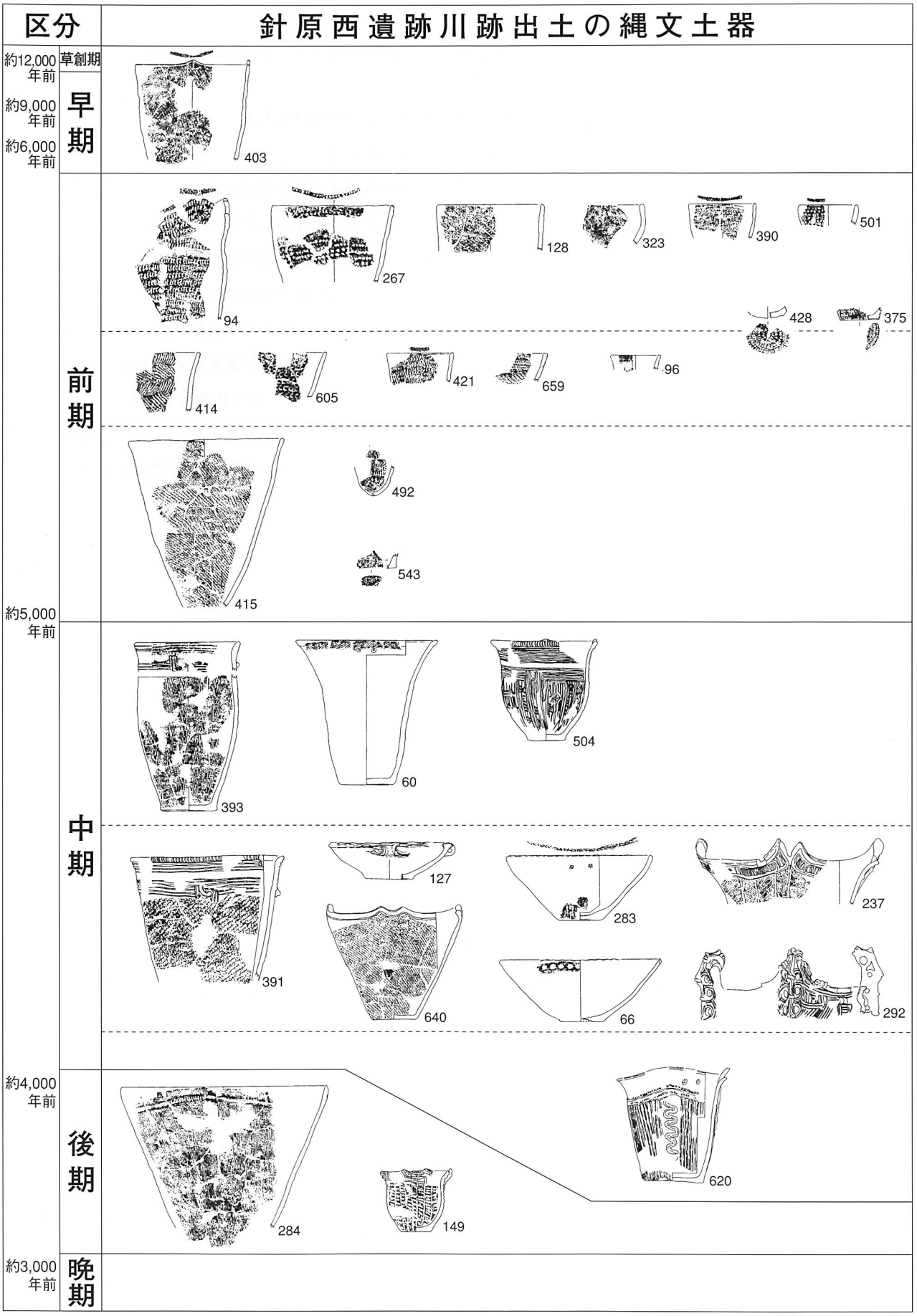
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター　1989年『京都府遺跡調査報告書第12冊　志高遺跡』

奈良国立文化財研究所　1993年「能登縄文資料　山内清男考古資料６」『奈良国立文化財研究所史料』第39冊

北陸の縄文土器を見る会　1998年『第６回　北陸の縄文土器を見る会資料―三引Ｃ・Ｄ遺跡と北陸の早期末から前期初頭の土器群―』

小島俊彰　2000年「前田式土器様式と岩峅野式土器様式の諸型式」『大境』第20・21号創立50周年記念合併号　富山考古学会

能都町教育委員会／真脇遺跡発掘調査団　2002年『石川県能都町　真脇遺跡2002　史跡真脇遺跡整備事業に係る第３～６次発掘調査概要』



第49図　縄文時代の出土遺物

0　20cm

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
4図	1	18トレンチ	石器	磨製石斧	10.3	5.2	2.1		重量 138g 蛇紋岩	完形
	2	15トレンチ		甕	18.5				外面煤付着	1/3
	3	15トレンチ					6.4			1/8
	4	6トレンチ							内外面煤付着	破片
	5	13トレンチ	須恵器	坏			6.8			
	6	10トレンチ	須恵器	坏			6.6		焼成不良	1/4
	7	10トレンチ	珠洲				6.5		外面自然釉	底 1/4
	8	6トレンチ			9.0					口 1/4
	9	16トレンチ			11.4					口 1/6
	10	14トレンチ	越中瀬戸							破片
	11	6トレンチ	土製品	土錘						1/6
	12		古銭						「寛永通寶」	
	13	7トレンチ	木製品		11.6	3.0	0.8			
8図	1	SD01	土師器	甕					外面煤付着	破片
	2	SD01	須恵器	坏	11.5	4.0	5.8			1/3
	3	SD01	須恵器	坏	12.8	3.5				1/4
	4	SD01	越中瀬戸	皿	10.8	2.5	4.4			1/3
	5	SD01	木製品		9.1	0.7	0.5			
	6	SD01	木製品		12.1	0.6	0.5			
	7	SD01	木製品		12.8	0.8	0.6			
	8	SD01	木製品		12.4	0.7	0.5			
	9	SD01	木製品		14.4	0.8	0.5			
	10	SD01	木製品		16.7	0.8	0.6			
	11	SD01	木製品		17.6	0.7	0.6			
	12	X8Y13	珠洲				12.3			底 1/8
	13	X6Y26	須恵器		12.8					口 1/4
	14	X10Y11	須恵器	短頸壺	8.1					口 1/5
	15	X10Y16	越中瀬戸		6.8	受径 10.2				口 1/5
	16	X12Y15					5.3			底 1/2
	17	X9Y13								破片
	18	X10Y18	古銭							
	19	X9Y26	古銭							
	20	X9Y26	古銭							
	21	X10Y11	古銭							
	22	X15Y19	土製品	土錘						完形
	23	X11Y28	土製品	土錘						1/3
16図	24	X12Y23	石器	石匙	2.9	4.8	0.7		重量 7 g	完形
	25	X14Y21	石器	磨製石斧		5.0	2.8		基部。重量 232g 粘板岩	
	26	X13Y21	縄文土器	土器片錘	10.6	7.2			気屋式の破片を利用。切り目あり。	完形
	27	X12Y12	縄文土器	土器片錘	4.0	6.3			時期不明の破片利用。切り目あり。	1/2
	28	X12Y23	縄文土器	深鉢				新保式	半隆起線文と三角刺突文を施す。	破片
	29	X12Y25	縄文土器	深鉢				新保式	半隆起線文。肥厚させた口縁部に刻み目を施す。	破片
	30	X12Y23	縄文土器	深鉢				気屋式新段階	半隆起線文とRLの斜縄文。	破片
	31	X10Y12	縄文土器	深鉢				堀之内2式並行	隆帯上に縄文。山形口縁・波頂部に刻みを施す。	破片
	32	X12Y14 X14Y14	縄文土器	深鉢				串田新式新段階	やや幅広な沈線文。宇出津崎山タイプの口縁。RLの斜縄文。	破片
	33	X13Y13 X14Y15	縄文土器	深鉢				串田新式新段階	半隆起線文上に貝殻腹縁文を施す。32と同様の口縁部成形。内外面煤付着。	破片
	34	X12Y24	縄文土器	深鉢				前田式	やや幅広な沈線文を施す。雨滴状列点文。	口 1/3
	35	X13Y13	縄文土器	深鉢	34.4			串田新式新段階	沈線区画内に貝殻腹縁文を施し、4 単位のヘラ状工具を用いてのヘラ描き文。	口 1/8
	36	X14Y20	縄文土器	深鉢				前田式	多条の雨滴状列点文。	破片
	37	X14Y13	縄文土器	深鉢				串田新式新段階～前田式	口縁部に貝殻腹縁文。横位の押引き列点文。	破片
	38	X12Y9	縄文土器	深鉢	(35.4)			串田新式	口縁部に貝殻腹縁文。胴部はRLの縦走縄文。	口 2/3
	39	X12Y25	縄文土器	深鉢				前田式	やや細めの工具による雨滴状列点文。半隆起線文を施す。	破片
	40	X14Y14	縄文土器	深鉢				前田式	口縁部に横位の押し引きを施す。	破片
	41	X13Y22 X14Y14	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	蛇行沈線文、円形工具による連続刺突文。RLの縦走縄文。	破片
17図	42	X11Y14 X12Y13	縄文土器	深鉢	37.8			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。外面煤付着。	口 1/4
	43	X14Y20 X14Y21	縄文土器	深鉢	27.0			気屋式古段階	口縁部及び頸部に波状の沈線文を施し、胴部はRLの縦走縄文を施す。	口 1/6
	44	X10Y13 X10Y14	縄文土器	深鉢	28.0			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に角状の押引列点文を施す。	破片
	45	X11Y11 X12Y13	縄文土器	深鉢	32.3			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。	口 1/4

第 2 表　出土遺物観察表

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
17図	46	X12Y12 X13Y13	縄文土器	深鉢	31.6			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。内外面煤付着。	口 1/4
	47	X11Y11 X12Y13	縄文土器	深鉢	27.8			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。	口 3/8
	48	X12Y12	縄文土器	深鉢か	29.7			気屋式	口縁部に三角刺突文を施し、頸部に押引文を2条施す。	破片
	49	X12Y23 X13Y20	縄文土器	深鉢				気屋式新段階	口唇端部を押圧し、頸部に連続列点文を施す。RLの縦走縄文。	破片
	50	X12Y12	縄文土器	深鉢か				気屋式新段階	口唇端部を押圧し、口縁部を無文帯、頸部に三角刺突文を施す。	破片
	51	X12Y12 X12Y13	縄文土器	深鉢				気屋式新段階	口唇端部を押圧し、口縁部にRLの斜縄文、頸部は無文帯にし、胴部にRLの縦走縄文を施す。	破片
	52	X12Y23	縄文土器	深鉢か				前田式～気屋式	口唇端部に刻み目を施し、半隆起線文、その間に角状列点文を施す。	破片
	53	X13Y13	縄文土器	深鉢か				気屋式新段階	口縁部に斜縄文を施し、頸部に沈線文を施す。	破片
	54	X14Y27	縄文土器	深鉢				前田式	頸部に沈線文を施し、沈線文内に列点文を施す。	破片
	55	X14Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。	破片
	56	X12Y12	縄文土器	深鉢				気屋式	粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。	破片
	57	X13Y13	縄文土器	深鉢				気屋式	粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。	破片
	58	X14Y14	縄文土器	深鉢	44.0			後期	粗製土器。全面LRの斜縄文。口縁部を4単位で内面に曲げる。	口 1/4
18図	59	X13Y16 X14Y14	縄文土器	深鉢	22.0			前田式期	口縁部に横位の押引文を施し、頸部に区画沈線文、胴部にLRの斜縄文を施す。	破片
	60	X8Y19	縄文土器	深鉢	28.4	29.4	10.6	上山田・天神山式	粗製。口縁部にのみ斜縄文を施す。	3/4
	61	X12Y25	縄文土器	深鉢				新保式	縦走縄文を半隆起線文区画内に施し、貼付隆帯を施す。	破片
	62	X12Y22 X12Y23	縄文土器	深鉢	26.0			新崎式	4単位の逆J字形貼付隆帯。LRの斜縄文を全面に施す。	破片
	63	X12Y23	縄文土器	深鉢	21.8			新崎式	62とほぼ同じだが、貼付隆帯はなく、全面縄文のみ。	破片
	64	X12Y24	縄文土器	深鉢				新崎式	62とほぼ同じだが、貼付隆帯はなく、全面縄文のみ。	破片
	65	X12Y22 X12Y25	縄文土器	深鉢底部			10.1	中期後葉 ～後期前葉	底辺周辺までLRの斜縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内面煤付着。	底 3/4
	66	X12Y12	縄文土器	浅鉢	32.4	12.6	8.1	前田式期並行	口縁部に円形工具による刺突文。	1/3
	67	X14Y14	縄文土器	装飾把手				中期中葉	装飾把手。	
	68	X14Y14	縄文土器	浅鉢	23.4			前田式期	口縁部をやや肥厚させているが、特に施文無し。	破片
	69	X14Y15	縄文土器	鉢				前田式期	貼付蛇行隆帯。RLの縦走縄文。	破片
	70	X14Y14	縄文土器	底部			11.1	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	破片
	71	X11Y11 X12Y12	縄文土器	底部			9.2	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 1/6
	72	X11Y11 X13Y10	縄文土器	底部			8.8	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 完存
	73	X11Y14 X12Y12	縄文土器	底部			8.2	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 完存
	74	X11Y11 X12Y12	縄文土器	底部			9.4	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 1/2
	75	X11Y11	縄文土器	底部			13.3	後期	胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 1/2
19図	76	X8Y24	木製品	田下駄	16.3	1.4	0.7			
	77	SD02	木製品	田下駄	16.6	8.5	0.8			
	78	SD02	石器	砥石	12.2	3.4			両面に擦痕あり。重量 330g	完形
	79	SD02	石器	石錘	9.3	5.6	4.0		両打欠石錘。重量 244g	完形
	80	SD02	石器	石錘?	7.1	4.1	1.4		重量 70g	完形
	81	SD02	瀬戸?	皿	10.8					口1/4
	82	SD04	石器	石錘	8.4	5.6	4.3		4方向に打欠あり。重量 280g	完形
	83	X12Y32	石器	打製石斧	16.4	11.3	3.2		重量 696g 安山岩	完形
	84	X6Y18	石器	磨製石斧		5.7	2.8		刃部 重量 227g 粘板岩	
	85	X10Y	石器	磨製石斧	7.6	3.8	1.2		重量61g 蛇紋岩	完形
	86	X6Y16	石器	磨製石斧	7.2	3.3	1.2		重量50g 蛇紋岩	完形
	87	X7Y14	石器	砥石	(8.5)		(2.6)		重量255g 砂岩	
	88	X7Y33	石器	砥石	(7.2)		(3.3)		重量 73g	
	89	X10Y21	石器	擦切石器?	15.1	(6.2)	4.1		重量 535g	1/2
	90	X14Y10	石器	擦切石器?	13.7	3.8	4.3		敲石として使用 重量 316g	1/2
	91	X14Y11	石器	石錘	7.8	5.5	1.5		両打欠石錘。重量 98g	完形
	92	X6Y15	石器	石錘	8.0	5.0	1.7		両打欠石錘。重量 120g	
	93	X7Y16	石器	石錘	12.7	7.9	3.9		両打欠石錘。重量 549g	完形
	94	X6Y16	縄文土器	深鉢				北白川下層Ia式	口唇部から胴部にかけて、爪形文を施す。その他に施文は見られない。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
19図	95	X14Y10	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁端部をやや肥厚させ、刻みを施し、口縁部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。	破片
	96	X6Y25	縄文土器	鉢	9.8			諸磯b式	口縁部に竹管による円形刺突を施す。その他に施文は見られない。	破片
	97		縄文土器	鉢				気屋式	多条の沈線文を施す。	破片
	98	X9Y26	縄文土器	深鉢				中期後葉	粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。	破片
	99	X4Y10	縄文土器	深鉢				中期後葉	粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。	破片
	100	X6Y17	縄文土器	深鉢				中期後葉	粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。	破片
	101	X14Y11	縄文土器	深鉢	26.4			串田新式	口縁部に貝殻腹縁文を施し、沈線文で区画。頸部は無文帯で、胴部に沈線文を施す。	口 1/5
	102	X15Y13	縄文土器	鉢	19.4			前田式～気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に蛇行沈線文を施す。	破片
	103	X13Y20	縄文土器	深鉢				前田式	口縁部に波状沈線文、押引文を施す。	破片
	104	X9Y17	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口唇部に貼付突帯をつけ、口縁端部をやや肥厚させ、刻み目を施し、その下は半隆起線文を施す。	破片
	105	X13Y20	縄文土器	深鉢				前田式	口縁部に波状沈線文を施し、頸部に沈線文を施す。	破片
	106	X12Y30	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部をやや折り返し、刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文を横位に施し、胴部は羽状縄文を施す。	破片
	107	X9Y25	縄文土器	深鉢				気屋式	全面LRの斜縄文に刻みを施す。	破片
	108	X10Y23	縄文土器	深鉢				串田新式	全面にLRの斜縄文を施し、細沈線文を施す。	破片
	109	X7Y15 X7Y16	縄文土器	深鉢	36.5			前田式～気屋式	口縁端部は無文帯で、頸部に沈線文を施し、その内部に列点文を施す。	口 1/5
	110	X14Y11 X14Y20	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。頸部には半隆起線文を施し、胴部はLRの斜縄文を施す。	破片
	111	X11Y26	縄文土器	土器片錘	6.2	5.7	1.0	上山田・天神山式	上山田・天神山式期の土器片を利用。	完形
	112	X10Y17	縄文土器	底部			5.4		胴部はRLの斜縄文を施し、底部底辺には縄文もしくは簾状圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	113	X10Y17	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	多条半隆起線文で、その上に刻み目を施す。	破片
20図	114	X14Y22	縄文土器	深鉢	27.5			新保式	半隆起線文及び、貼付隆帯を施す。口縁部と頸部の間にLRの斜縄文を施す。	口 1/4
	115	X10Y26 X14Y22	縄文土器	深鉢				新保式	半隆起線文及び、貼付隆帯を施す。口縁部と頸部の間にLRの斜縄文を施す。	破片
	116	X14Y14 X14Y15	縄文土器	深鉢	18.0			新保式～新崎式	口縁部に貼付隆帯を施し、その内部に縄文を押圧する。胴部はLRの斜縄文。	口 1/4
	117	X14Y15	縄文土器	深鉢か				新崎式	口縁部は無文帯だが、頸部に半隆起線文・刺突文・LRの斜縄文を施す。	破片
	118	X14Y15	縄文土器	深鉢				上山田式	沈線文区画内に刻みを施す。	破片
	119	X14Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、櫛描きや斜縄文を施す。	破片
	120	X14Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、櫛描きや斜縄文を施す。	破片
	121	X11Y13 X14Y15	縄文土器	深鉢	(51.3)			串田新式	沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、櫛描きや斜縄文を施す。	破片
	122	X12Y20 X13Y20	縄文土器	深鉢				気屋式期	口縁部は無文帯。縦走縄文を全面に施す。外面煤付着。	破片
	123	X13Y20 X14Y22	縄文土器	深鉢	32.9			気屋式	口唇部から口縁部にかけて刻み目を施す。頸部に2条の沈線文を施し、胴部はLRの縦走縄文。	口 1/6
	124	X10Y12 X10Y13	縄文土器	深鉢	29.4			気屋式期	粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。外面煤付着。	口 1/8
	125	X14Y15	縄文土器	深鉢				気屋式期	粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。	破片
	126	X9Y14	縄文土器	深鉢	25.6			気屋式期	粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。	口 1/5
	127	X10Y12	縄文土器	浅鉢	24.3	7.4	9.3	前田式	4単位の把手。	2/3
	128	X8Y13 X11Y14	縄文土器	深鉢	20.8			前期前葉	縄文を押圧する。その間に刻みを施す。内外面煤付着。	口 3/8
	129	X14Y15	縄文土器	底部			12.4		全面斜縄文。	底 ほぼ完存
	130	X12Y14	縄文土器	底部			12.3		全面斜縄文。網代圧痕あり。内外面煤付着	底 完存
	131	X10Y13	縄文土器	深鉢	28.0			後期		口 1/5
	132	X7Y16 X11Y22 X11Y23	縄文土器	浅鉢	29.4			新保式～新崎式	口唇部に半隆起線文や刺突文を施す。口縁部はやや半隆起線状に肥厚させているが、その他には施文無し。	口 1/6
	133	X7Y16	縄文土器	浅鉢			5.8	新保式～新崎式		破片
	134	X9Y17	縄文土器	深鉢				前田式	沈線文・列点文を施す。	破片
21図	135	X10Y13	石器	ナイフ形石器	4.5	2.1	0.9		重量7g ケツ岩	完形
	136	X12Y16	縄文土器	土製円盤	6.9	6.8	0.8		串田新式期の土器片を利用。	完形
	137	X14Y16	縄文土器	土製円盤		5.0	1.1		串田新式期の土器片を利用。	5/6
	138	X10Y13	石器	石錘	6.9	5.5	2.0		重量136g	完形
	139	X12Y16	縄文土器	土器片錘		4.9	0.7			1/2
	140	X13Y10	縄文土器	土器片錘	7.4	4.3	1.1			完形

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
21図	141	X14Y16	縄文土器	浅鉢	20.1			上山田・天神山式	口縁部にやや長めの刻み目を施す。内外面煤付着。	破片
	142	X8Y15	縄文土器	深鉢か				古府式	口縁部に沈線文を施し、その上から刻みを施す。	破片
	143	X11Y11	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	半隆起線文を施す。底部の可能性有り。	破片
	144	X11Y14	縄文土器	鉢				上山田・天神山式	口縁部に貼付隆帯を施す。頸部には押し引き沈線文を施す。	破片
	145	X14Y20	縄文土器	深鉢				古府式	RLの縄文地に半隆起線文を施す。	破片
	146	X12Y11	縄文土器	深鉢か				古府式	多条半隆起線文を施す。	破片
	147	X10Y14	縄文土器	深鉢				古府式	口縁部に半隆起線文、その他はLRの斜縄文を施す。	破片
	148	X13Y17	縄文土器	深鉢か	(23.3)			古府式	多条半隆起線文及び貼付隆帯に刻み目を施す。	口 1/8
	149	X10Y13	縄文土器	深鉢	13.2	12.5	5.8	古府式	口縁部に隆帯上刻み目を施し、胴部には縦位の沈線文に横位の刻み目を施す。内外面煤付着。	1/3
	150	X11Y13 X12Y13	縄文土器	深鉢底部			13.2		中期中葉以降の底部。底辺にスダレ状圧痕及び撚糸状圧痕。内外面煤付着。	底 1/3
	151	X10Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	幾何学文様を施し、沈線区画内に貝殻腹縁文を施す。外面煤付着。	破片
	152	X13Y14	縄文土器	深鉢	39.3			串田新式	口縁部に貝殻腹縁文を施し、頸部に沈線文を施す。	破片
	153	X12Y15	縄文土器	深鉢	27.6			中期	粗製。施文はなく、表面全面に煤が付着している。	口 1/6
	154	X14Y20	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部はナデによる無文帯を形成し、以下はLRの全面斜縄文を施す。表面全面に煤が付着している。	破片
	155	X11Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	全面RLの斜縄文。	破片
	156	X14Y16	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に半隆起線文、頸部以下はRLの斜縄文を施す。	破片
	157	X13Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部折り返しによる肥大化。RLの全面縄文。	破片
	158	X14Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	全面RLの斜縄文。内面煤付着。	破片
	159	X10Y13	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貼付隆帯を施し、全面LRの斜縄文。	破片
	160	X14Y16	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貼付により無文、その下はRLの全面斜縄文。	破片
	161	X13Y18	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貼付により無文、その下はRLの全面斜縄文。	破片
	162	X11Y14	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貼付隆帯を施し、縄文と短沈線文で構成。外面煤付着。	破片
	163	X10Y17	縄文土器	深鉢				串田新式	細線文で文様構成。	破片
	164	X13Y13	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部無文帯で、頸部以下細沈線文を縦位に施す。	破片
	165	X12Y12	縄文土器	深鉢				串田新式	縦位に貼付隆帯を施し、その間に細沈線文を施す。	破片
	166	X10Y14	縄文土器	底部			9.4	串田新式	貼付隆帯、底辺に網代圧痕文。	破片
	167	X12Y15	縄文土器	深鉢底部			10.1	串田新式	貼付隆帯を底辺近くまで施す。内外面煤付着。	底 完存
	168	X11Y14	縄文土器	浅鉢	30.4			串田新式以降	口縁部を内湾させ、2列の連続刺突文を施す。	口 1/8
22図	169	X13Y18	縄文土器	深鉢	33.2			前田式	頸部に沈線文、沈線文区画内に連続列点文を施す。	破片
	170	X14Y15	縄文土器	深鉢	(33.3)			前田式	沈線文区画内に連続刺突文を施す。	破片
	171	X11Y13 X11Y15	縄文土器	深鉢	16.6			前田式～気屋式	頸部に押引文を2条、胴部はRLの縦位の縄文を施す。	口 1/4
	172	X14Y18	縄文土器	深鉢	18.5			前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部に蛇行沈線文を施す。胴部はRLの縦位縄文。内外面煤付着。	口 1/8
	173	X12Y12 X12Y13	縄文土器	深鉢	21.5			前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部から胴部にかけて沈線文、蛇行沈線文を施す。外面煤付着。	破片
	174	X14Y20	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	頸部に蛇行沈線文、胴部は縦位のRL縄文を施す。	破片
	175	X14Y18	縄文土器	深鉢	23.3			前田式～気屋式	頸部に貫通孔を穿孔し、沈線文を施す。	口 1/12
	176	X9Y18	縄文土器	深鉢	30.3			前田式～気屋式	口唇部に粘土を貼り付けることにより肥厚化させる。口縁部は無文帯で、頸部は刻みを施す。	口 1/12
	177	X11Y12 X11Y13	縄文土器	深鉢	29.9			気屋式	口縁部はRLの斜縄文、頸部に区画線となる押引文を2条施し、胴部は縦位のRL縄文を施す。	口 1/4
	178	X14Y16	縄文土器	鉢か				気屋式以降	口縁部はナデによる無文帯、頸部の隆帯上に刺突、胴部は縄文を施す。後期中葉の可能性有り。	破片
	179	X14Y10	縄文土器	鉢				酒見式？	多条沈線文を施し、沈線区画内に刺突文を施す。胴部はRL縄文を施す。	破片
	180	X10Y12	縄文土器	深鉢				気屋式以降	口縁部無文帯で、隆帯上にLRの斜縄文、やや幅広な沈線文内部に連続列点文を施す。	破片
	181	X11Y13 X12Y14	縄文土器	鉢				気屋式以降	頸部にやや幅広な沈線文を施し、その区画内に角状列点文を施す。	破片
	182	X12Y12	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部無文帯で、貼付隆帯上にLRの斜縄文を施す。	破片
	183	X10Y15	縄文土器	深鉢か				気屋式	口唇端部にRLの縄文を押圧し、口縁部及び頸部に押し引き列点文を施す。胴部は口唇部の原体とは異なる縦位のRL縄文を施す。	破片
	184	X10Y15	縄文土器	深鉢か				前田式～気屋式	山形口縁部の波頂部。沈線文が主体。	破片
	185	X11Y15 X12Y15	縄文土器	深鉢か	27.3			気屋式以降	口縁部無文で、頸部にやや幅広な沈線文を施す。外面煤付着。	破片
	186	X10Y13	縄文土器	鉢	16.4			気屋式以降	施文無し。	破片
	187	X11Y14	縄文土器	浅鉢				前田式	貼付把手。	破片
	188	X12Y14	縄文土器	深鉢	31.8			気屋式	口縁部にRLの斜縄文、頸部に3列の押引文を施し、胴部は縦位のRL縄文を施す。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高〔幅	底径〔厚さ〕	時期	備考	残存量
22図	189	X10Y13	縄文土器	深鉢	28.5			気屋式	4単位の山形口縁。口縁部から頸部にかけて三角押引文を施し、胴部は縦位の縄文。外面煤付着。	口 1/5
	190	X11Y13 X11Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部・頸部に2列の三角刺突文を施し、胴部は縦位のLR縄文を施す。	破片
	191	X14Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に連続三角刺突文を施す。裏面の波頂部に押圧をおこなう。	破片
	192	X12Y11	縄文土器	深鉢				気屋式	口唇部及び口縁部、頸部に三角押引文を施す。	破片
	193	X10Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口唇端部にRLの縄文を施し、口縁部・頸部には三角押引文を施す。	破片
	194	X13Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に連続三角刺突文を施す。	破片
	195	X13Y18	縄文土器	深鉢	30.2			晩期？	晩期の粗製か。摩滅が著しいが、施文はない。	口 1/12
23図	196	X10Y13	縄文土器	浅鉢	19.9			気屋式	口縁部に半隆起線文、その脇に沈線文を施す。	破片
	197	X10Y13	縄文土器	鉢	29.5			気屋式	口縁部に半隆起線文、胴部は無文。	口 1/6
	198	X　Y11	縄文土器	深鉢か				気屋式	口縁部に沈線文を施し、胴部はRLの斜縄文。 内外面煤付着。	破片
	199	X10Y14 X11Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口唇部はRLの斜縄文、胴部は縦位のRLの斜縄文。	破片
	200	X10Y21	縄文土器	深鉢				気屋式並行	沈線区画内にLRの斜縄文。渦巻状に隆帯を貼り付け。	破片
	201	X13Y14	縄文土器	深鉢				串田新式	葉脈状文。	破片
	202	X13Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	細沈線文。	破片
	203	X12Y15	縄文土器	底部			9.2		胴部に施文なく、底辺に網代圧痕。	底 完存
	204	X14Y18	縄文土器	底部			12.2		胴部に施文なく、底辺に網代圧痕。	底 3/4
	205	X10Y13	縄文土器	底部			7.5		胴部にRLの斜縄文を施し、底辺に網代圧痕。	底 完存
	206	X10Y13	縄文土器	底部			8.0		胴部にRLの斜縄文を施し、底辺に網代圧痕。 内面煤付着。	底 完存
	207	X14Y16	縄文土器	土製円盤	4.5	5.0	0.9		裏面に漆を塗布。	完形
	208	X13Y19	縄文土器	土器片錘		5.5	0.8		切り目あり。	
	209	X12Y15 X13Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部無文帯で、区画線の沈線文を施す。胴部はLRの斜縄文。	破片
	210	X13Y17	縄文土器	深鉢	29.8			気屋式並行	口縁部を内湾させ、頸部に刻み目を施す。 内面煤付着。	口 1/12
	211	X13Y10	縄文土器	鉢				気屋式	口縁部はナデによる無文帯で、胴部はLRの斜縄文。	破片
	212	X14Y20	縄文土器	鉢				気屋式	口縁部は半隆起線文で、胴部はRLの斜縄文。	破片
	213	X14Y13	縄文土器	鉢				気屋式並行	全面LRの斜縄文。	破片
	214	X13Y19	縄文土器	鉢	34.8			新崎式以降	口縁部をやや肥大化させ、面取りをおこなう。胴部は無文。気屋式の可能性有り。	破片
	215	X13Y18	縄文土器	深鉢				串田新式以降	口縁部を折り曲げることにより肥厚化し、胴部はLRの斜縄文。内外面煤付着。	破片
	216	X12Y13	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部を肥厚化し、半隆起線文を口縁部に施す。胴部は無文。	破片
	217	X13Y19	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	多条半隆起線文を施し、渦巻状隆起線文上に刻み目を施す。	破片
	218	X13Y18	縄文土器	深鉢	33.6			上山田・天神山式	口唇端部に刻み目を施し、多条半隆起線文、縦位の半隆起線文上に刻み目を施し、区画内にヘラ描き沈線を施す。内外面煤付着。	口 1/8
	219	X13Y15	縄文土器	土製円盤	6.3	5.8	1.0		全面RLの斜縄文。補修孔あり。外面煤付着。	
	220	X11Y12	縄文土器	深鉢か				前田式～気屋式	沈線区画内に列点文を施す。	破片
	221	X14Y13	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	217と同時期。同一個体の可能性有り。	破片
	222	X12Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	頸部に押引文、胴部は細沈線文を施す。内面煤付着。	破片
	223	X14Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	222と同様、胴部に細沈線文を施す。外面煤付着。	破片
	224	X13Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部を肥厚化し、刻み目を施し、頸部に沈線文を施す。	破片
	225	X13Y14	縄文土器	底部				気屋式	細沈線文を施す。底辺には網代圧痕。	破片
	226	X12Y14 X13Y14	縄文土器	深鉢	24.0			前田式	口縁部及び頸部に沈線文を施し、その間に3列の押引文を施す。胴部は縦位のRL縄文。	口 1/8
	227	X13Y14	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部に半隆起線文、裏面も同様、半隆起線文を施す。	破片
	228	X13Y16	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	頸部に平行沈線文及び蛇行沈線文を施す。	破片
	229	X13Y13	縄文土器	深鉢				前田式	隆帯上にLRの斜縄文を施す。	破片
	230	X13Y14	縄文土器	深鉢				前田式	頸部に平行沈線文および蛇行沈線文を施し、胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
24図	231	X11Y21	石器	敲石	9.7	8.7	4.3		側面全体使用痕。重量 458g	完形
	232	X10Y14	縄文土器	土器片錘	8.5	6.7	0.8		切り目あり。	2/3
	233	X13Y16 X13Y17	縄文土器	深鉢	22.2			新崎式	口縁部及び頸部に多条半隆起線文を施す。おそらく4単位の貼付隆帯を施す。	破片
	234	X10Y20 X13Y18	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁端部に刻み、また刺突文を施し、頸部から胴部にかけては平行沈線文、渦状沈線文を施す。胴部の沈線文内には刻みを施す。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
24図	235	X10Y13	縄文土器	深鉢	29.7			前田式～気屋式	口縁部から頸部にかけて押引文を渦状に施す。	破片
	236	X10Y14 X10Y15 X11Y14	縄文土器	深鉢	28.2			串田新式	口縁部は波頂部を二つに分ける双頭波状口縁で、口縁部に沈線文、その内部に短沈線文を施す。胴部は葉脈状文を施す。内外面煤付着。	口 1/3
	237	X12Y14 X13Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	4単位の先割れ山形口縁。口縁部は隆帯区画内に縦位の短沈線を施し、胴部は葉脈状文を施す。	口 1/5
	238	X10Y13 X10Y15	縄文土器	深鉢	22.0			串田新式	4単位の山形口縁。口縁部に2条の押引文を施し、胴部は縦位のRL縄文。外面煤付着。	口 1/4
	239	X11Y15 X11Y16	縄文土器	深鉢	25.7			串田新式 ～前田式	口縁部は無文帯で、頸部に多条の沈線文を施す。胴部はLRの斜縄文。	口 1/4
	240	X11Y15 X12Y17	縄文土器	深鉢	30.2			串田新式	口縁部無文帯で、頸部に隆帯を巡らし、胴部は縦位の多条沈線文を施す。	口 1/12
	241	X10Y12 X10Y13	縄文土器	深鉢	36.6			串田新式 ～前田式	やや肥厚させた口縁部に刻み目を2列施し、胴部はLRの斜縄文を施す。	口 1/6
	242	X11Y15 X12Y17 X16Y11	縄文土器	深鉢	35.7			前田式	口縁部の沈線区画内に2列の列点文、同じく頸部にも同様の文様帯を成形。胴部は縦位のLR縄文。口縁部と頸部の文様帯は蛇行沈線文で結合される。	口 1/12
	243	X11Y15 X12Y15	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	頸部に多条の沈線文及び蛇行沈線文。胴部は縦位のLR縄文。	破片
25図	244	X11Y15	縄文土器	浅鉢	40.6			前田式～気屋式	口縁部に平行及び渦状沈線文。外面煤付着。	口 1/6
	245	X10Y15 X11Y14	縄文土器	浅鉢	32.6			前田式～気屋式	口縁部に連続押引文。渦巻状押引文。	破片
	246	X13Y16	縄文土器	深鉢か				前田式	平行沈線文内に列点文。RLの斜縄文。	破片
	247	X10Y13 X10Y14	縄文土器	深鉢	22.6			気屋式	口縁部無文帯で頸部の隆帯上に刻み。胴部はRLの縦走縄文。外面煤付着。	口 1/8
	248	X8Y15 X10Y14	縄文土器	浅鉢	33.4			前田式 ～気屋式？	口縁部に爪形文、2条の沈線で区画し、胴部はRLの斜縄文。口縁部裏にはRLの斜縄文を施す。	口 1/8
	249	X12Y14	縄文土器	深鉢	31.2			気屋式	口縁部に三角押引文。胴部はRLの縦走縄文。	口 1/6
	250	X11Y14	縄文土器	深鉢	29.6			後期前葉	口縁部をやや肥厚させLRの斜縄文を施す。J字文の隆帯。内外面煤付着。	破片
	251	X9Y14	縄文土器	深鉢	23.6			気屋式	頸部に三角押引文。胴部に縦走縄文。外面煤付着。	口 1/8
	252	X12Y17	縄文土器	深鉢か				気屋式	口縁部にRLの斜縄文、頸部に三角押引文を施す。	破片
	253	X13Y18	縄文土器	深鉢	14.6			新崎式	口縁部に半隆起線文。胴部は無文。	口 1/3
	254	X13Y13 X14Y13	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部を屈曲させ、頸部にやや幅広な半隆起線文を施す。	破片
	255	X13Y13	縄文土器	深鉢				中期後葉	口縁端部を肥厚化し、やや浅めの半隆起線文を口縁部に施す。	破片
	256	X10Y15 X11Y15	縄文土器	深鉢	33.6			気屋式	口縁部に三角押引文を施し、胴部は縦走縄文。外面煤付着。	口 1/8
	257	X11Y13 X11Y14 X11Y15	縄文土器	深鉢	31.0			気屋式	口縁端部に刺突を施し、口縁部にRLの斜縄文、頸部に三角押引文を施し、胴部はLRの縦走縄文を施す。外面煤付着。	口 1/6
	258	X12Y14 X13Y14	縄文土器	深鉢	37.5			後期前葉	口縁部は無文帯で、頸部に2条の沈線文、胴部はRLの斜縄文を施す。	口 1/5
	259	X10Y11	縄文土器	深鉢	13.7			後期前葉	258と同様の施文を施す。	口 1/4
	260	X11Y21	縄文土器	深鉢か				上山田・ 天神山式以降	頸部を境とした羽状縄文を施す。	破片
	261	X10Y11 X11Y11	縄文土器	深鉢	35.0			中期後葉	口縁部無文帯で頸部の隆帯上にRLの斜縄文を施し、胴部もRLの斜縄文を施す。	口 1/4
	262	X10Y14 X13Y17	縄文土器	深鉢				上山田・ 天神山式以降	頸部を境とし、羽状縄文を施す。	破片
	263	X14Y13 X14Y14	縄文土器	深鉢				中期後葉以降	全面斜縄文。外面煤付着。	破片
	264	X14Y19	縄文土器	深鉢				気屋式期	RLの縦走縄文。	破片
	265	X13Y13	縄文土器	深鉢か				気屋式以降	口縁部に貼付隆帯、胴部はLRの斜縄文を施す。	破片
	266	X9Y15	縄文土器	深鉢				中期後葉以降	全面RL斜縄文。	破片
26図	267	X9Y11 X11Y15 X11Y16	縄文土器	深鉢	24.5			早期末葉から 前期初頭	口縁端部に半截竹管による刺突、口縁部に爪形文、胴部には半截竹管による刺突を施す。全面に厚く煤が付着。南太閤山I遺跡における第I群土器に相当。	口 2/3
	268	X12Y12 X13Y14	縄文土器	深鉢	(36.3)			前田式～気屋式	平行沈線文、蛇行沈線文を口縁部から頸部にかけて施し、胴部は縦走縄文を施す。	口 1/4
	269	X11Y12 X12Y12	縄文土器	鉢	27.4			中期後葉 ～後期前葉	口縁部に半隆起線文上に刻みを施す。外面煤付着。	口 1/8
	270	X10Y13 X11Y12	縄文土器	深鉢	30.0			串田新式	隆帯上に貝殻腹縁による刺突、列点文、沈線文を施す。内面煤付着。	口 1/4
	271	X11Y14 X12Y14	縄文土器	深鉢	27.5			気屋式	口縁部にRLの斜縄文を押圧、頸部に沈線文もしくは三角押引文、胴部はLRの縦走縄文を施す。内面口縁部付近に厚く煤が付着。	口 1/5

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高〔幅	底径〔厚さ〕	時期	備考	残存量
26図	272	X13Y10	縄文土器	鉢				気屋式	頸部に押引文を施す。	破片
	273	X11Y13 X11Y14	縄文土器	深鉢	34.2			気屋式	口縁部に2連の三角刺突文、胴部はRLの縦走縄文を施す。	口 1/3
	274	X11Y12 X11Y13	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貝殻腹縁文、沈線区画内に列点文、裏面は波頂部に渦巻状沈線文を施す。270と同一個体の可能性有り。外面煤付着。	破片
	275	X11Y13 X11Y12	縄文土器	深鉢	33.3			串田新式	口縁部に半隆起線文を施し、短沈線文を充填させる。外面煤付着。	口 1/6
	276	X12Y12	縄文土器	深鉢	28.6			気屋式	口縁部に斜縄文、頸部に2条の押引文を施す。胴部は縦走縄文。	口 1/6
27図	277	X11Y16	縄文土器	深鉢	35.0			上山田・天神山式	口縁部に1単位の貼付隆帯。口縁部はやや肥厚させ、全面LRの斜縄文を施す。	破片
	278	X8Y13 X9Y13	縄文土器	深鉢	25.0			中期後葉 ～後期前葉	全面RLの斜縄文を施す。内外面煤付着。	口 1/4
	279	X9Y15 X10Y15	縄文土器	深鉢	35.8			上山田・天神山式	口唇部に波頂部を成形し、刻み目を施す。外面全面羽状縄文を施す。	口 1/4
	280	X8Y13	縄文土器	深鉢				後期中葉	全面羽状縄文、頸部に隆帯上刻み目を施す。	破片
	281	X10Y13	縄文土器	底部			10.1		施文はナデ消されているが、縄文か。	底 3/4
	282	X12Y13	縄文土器	深鉢				後期中葉	沈線文、磨消縄文を施す。	破片
	283	X11Y13 X11Y14	縄文土器	浅鉢	28.6			気屋式期	口唇部に縄文を施す。外面は、ナデ消されているが、底部付近にRLの縦走縄文。外面煤付着。	1/2
	284	X11Y12 X11Y13	縄文土器	深鉢	41.3			後期中葉	口縁部は無文帯で、頸部にやや幅広の沈線文上に刻み目を施す。胴部は縦方向の櫛描き条線。	口～体 1/2
	285	X11Y13	縄文土器	深鉢か				後期中葉	口縁部は無文帯、胴部に縦方向の櫛描き条線を施す。	破片
	286	X11Y13	縄文土器	底部					胴部は櫛描き条線、底辺に圧痕文を施す。	破片
28図	287	X10Y13	縄文土器	浅鉢	21.6			上山田・天神山式	口縁部に波頂部を成形。外面施文無し。 内外面煤付着。	口～体 1/2
	288	X12Y18	縄文土器	底部			11.0		胴部はLRの斜縄文、底辺は網代圧痕。	底 ほぼ完存
	289	X11Y16	縄文土器	底部			12.0		胴部は縦走りの羽状縄文、底辺は圧痕。	底 1/5
	290	X12Y19	縄文土器	底部			9.8		胴部にRLの縦走縄文。	破片
	291	X11Y15 X19Y14	縄文土器	底部			13.4		胴部はRLの縦走縄文、底辺は葉脈状圧痕。 内面煤付着。	底 完存
	292	X14Y14 X14Y15	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	複合口縁を成形し、口縁部から胴部にかけて半隆起線文で埋め、半隆起線文上には刻み目を施す。	口 1/5
	293	X10Y13 X11Y12	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	垂下させる沈線文。平行沈線文区画内に蛇行沈線文を施す。	破片
	294	X12Y15 X13Y15	縄文土器	深鉢	33.6			前田式	口縁部に短沈線文、頸部に隆起線文、胴部は沈線文を施す。内外面煤付着。	口 1/8
	295	X13Y14 X13Y15	縄文土器	深鉢	27.0			前田式	口縁部無文帯で、頸部は平行沈線文区画内に横位の列点文、胴部はLRの全面斜縄文を施す。	口 1/4
	296	X14Y13	縄文土器	鉢	30.3			後期前葉	外面施文無し。内面口縁部付近に指押さえ。	口 2/3
	297	X12Y19 X12Y20 X13Y20	縄文土器	深鉢	29.6			気屋式	口縁端部に縄文を押圧し、口縁部から胴部にかけてRLの縦走縄文を施す。頸部は2条の沈施文を施す。 外面煤付着。	口 1/4
	298	X12Y19 X12Y20	縄文土器	深鉢	23.6			前田式～気屋式	4単位の山形口縁、口縁部及び頸部に蛇行沈線文、胴部はRLの縦走縄文を施す。外面煤付着。	口 1/5
	299	X11Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文内に刻み目を施す。	破片
	300	X14Y14	縄文土器	深鉢				新保式？	縦に半隆起線文、その内部に格子目文を施す。	破片
	301	X13Y11	縄文土器	底部			6.8		施文無し。	底 ほぼ完存
	302	X12Y13	縄文土器	底部			10.0		全面にLRの斜縄文を施す。内外面煤付着。	底 1/2
29図	303	X14Y21	石器	石錘	10.7	7.5	3.4		重量 379g	完形
	304	X11Y11	石器	石錘	3.8	3.0	1.0		重量 23g 粘板岩	完形
	305	X11Y14	縄文土器	土器片錘	7.3	6.4	0.9			完形
	306	X14Y15	縄文土器	土器片錘	6.2	7.6	0.9			完形
	307	X12Y13	縄文土器	土器片錘	9.0	5.8	1.2		気屋式期の土器片を利用。	完形
	308	X14Y21	縄文土器	土器片錘	6.2		0.7		中期後葉の土器片を利用。	
	309	X12Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	頸部に2条の押引文を施す。	破片
	310	X10Y14	縄文土器	深鉢				新保式	頸部は無文帯で胴部は横位の沈線区画内に押引文を施し、縦位の撚糸文を施す。蕨状の貼付隆帯。	破片
	311	X10Y16	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に横位の半隆起線文、頸部には縦位の半隆起線文を施す。	破片
	312	X10Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁端部に貼付隆帯、その上に刻み目を施す。 胴部はRLの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片
	313	X11Y21 X14Y21	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部をやや肥厚させるが、LRの斜縄文以外施文無し。	破片
	314	X10Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	RLの斜縄文を全面に施す。外面煤付着。	破片
	315	X12Y21	縄文土器	深鉢				新崎式	LRの斜縄文を全面に施す。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
29図	316	X12Y10	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部に貼付隆帯を施すが、口縁部はRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。	破片
	317	X14Y23	縄文土器	深鉢	39.2			新崎式	口縁端部をやや肥厚させ刻み目を施す。口縁部には多条の半隆起線文を施す。	破片
	318	X14Y23	縄文土器	深鉢	15.4			新崎式 ～上山田・天神山式	口縁端部に刻み目、口縁部に半隆起線文を施し、半隆起線文内にLRの斜縄文を充填する。	口 1/4
	319	X12Y15	縄文土器	深鉢か				新崎式	口縁端部に刻み目、口縁部に多条半隆起線文を施し、縦位に貼付隆帯を施す。	破片
	320	X12Y13	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部をやや肥厚させ、端部に刻み目を施す。多条半隆起線文を施す。	破片
	321	X12Y10	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部に刻み目を施し、半隆起線文、半隆起線文上に刻み目を施す。	破片
	322	X10Y11	縄文土器	深鉢				気屋式以降	口縁部にはナデにより無文帯を形成し、胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
	323	X7Y16	縄文土器	深鉢				佐波・極楽寺式	斜方向の平行条痕文、その間に刻みを施す。	破片
	324	X14Y23	縄文土器	深鉢か				新崎式 ～上山田・天神山式	口縁部及び頸部に半隆起線文、その間にLRの斜縄文を施す。	破片
	325	X12Y12	縄文土器	深鉢				新保式	RLの斜縄文を施した後、縦方向の沈線文を施す。貼付隆帯。	破片
	326	X14Y24	縄文土器	底部			7.2	上山田・天神山式	縦方向に半隆起線文を施す。	底 ほぼ完存
	327	X14Y23	縄文土器	底部			7.4	新保式	縄文地に多条半隆起線文を施す。	底 完存
	328	X10Y11	縄文土器	深鉢				気屋式以降	口縁部にナデによる無文帯、頸部に区画を意味する隆帯を施し、胴部はLRの斜縄文。口縁端部裏面に刻みを施す。	破片
	329	X12Y14	縄文土器	鉢				気屋式期	口縁部ナデによる無文帯、胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
	330	X10Y17	縄文土器	深鉢				上山田・ 天神山式以降	口縁部に粘土貼り付けによる無文帯を成形し、胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
	331	X14Y23	縄文土器	深鉢				新保式	半截竹管による刻みを施し、半隆起線文、LRの斜縄文を施す。貼付隆帯。	破片
	332	X11Y11	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁端部をやや肥厚化し、口縁部に半隆起線文を施す。胴部はLRの斜縄文。	破片
	333	X11Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	胴部に半隆起線文を施す。	破片
	334	X9Y19 X10Y14	縄文土器	深鉢	37.4			前田式～気屋式	口縁部に蛇行沈線文を2条施す。胴部は縦位縄文。	口 1/6
	335	X12Y21	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁部をやや肥厚化し、貼付隆帯及び刻み目を施す。	破片
	336	X9Y18	縄文土器	深鉢				気屋式期	口縁部に多条半隆起線文を施す。	破片
	337	X10Y13	縄文土器	深鉢				串田新式	縦位の平行沈線文、その間に縦位の短沈線文を施す。	破片
	338	X10Y3	縄文土器	深鉢				串田新式	縦位の平行沈線文、その間に縦位の短沈線文を施す。	破片
	339	X11Y14	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に横位の沈線文を施す。内外面煤付着。	破片
	340	X10Y14	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部から頸部にかけて沈線文。	破片
	341	X12Y10	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	渦巻状の半隆起線文、その半隆起線文上に刻み目を施す。外面煤付着。	破片
	342	X10Y12	縄文土器	深鉢				串田新式	縦位の平行沈線文内に簾状の短沈線文を施す。	破片
	343	X10Y14	縄文土器	深鉢	22.8			気屋式	口縁端部をやや肥厚化し、口縁部及び頸部に沈線文を施す。	口 1/8
	344	X14Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	半隆起線文上に貝殻腹縁による刺突を施す。裏面には半隆起線文。	破片
	345	X12Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	胴部にやや節の大きな縄文、沈線文を施す。	破片
	346	X9Y13	縄文土器	深鉢	10.1			気屋式以降	施文無し。	破片
	347	X10Y14	縄文土器	深鉢				串田新式以降	口縁部を肥厚化し、半隆起線文を施す。	破片
	348	X8Y12 X10Y12	縄文土器	深鉢	32.8			前田式	口縁部は無文帯、頸部の平行沈線文内に押し引き列点文、胴部はLRの縄文を施す。外面煤付着。	口 1/5
	349	X9Y15 X10Y14	縄文土器	深鉢	23.6			前田式	口縁部及び頸部に半隆起線文、胴部に縦位の縄文を施す。	口 1/8
30図	350	X12Y21	縄文土器	深鉢	27.5			気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	351	X10Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	352	X12Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	353	X14Y23	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。外面煤付着。	破片
	354	X12Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	355	X14Y23	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	356	X10Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	357	X10Y17	縄文土器	深鉢	29.6			気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	口 1/4
	358	X10Y16	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	359	X12Y10	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	360	X10Y16	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	361	X14Y21	縄文土器	深鉢	32.4			気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	口 1/5
	362	X10Y13	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
30図	363	X14Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	364	X14Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。	破片
	365	X10Y16 X10Y17	縄文土器	深鉢	28.3			気屋式	半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 外面煤付着。	口 1/6
	366	X10Y15	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部及び頸部に蛇行沈線文を施す。	破片
	367	X9Y18	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁部無文帯で頸部に平行沈線文を施す。	破片
	368	X12Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部の半隆起線文上にRLの斜縄文を施す。 外面煤付着。	破片
	369	X9Y13 X10Y13	縄文土器	深鉢	25.6			気屋式	口縁部をやや肥厚化し、RLの斜縄文を施す。頸部は無文帯で胴部はRLの縦位の縄文を施す。	口 1/3
	370	X12Y21	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部及び口縁端部に縄文、頸部に並行沈施文を施す。	破片
	371	X14Y23	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部にLRの斜縄文、その下は三角押引文、胴部はLRの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片
	372	X9Y13	縄文土器	深鉢				井口式	口縁端部に刻み目、口縁部に2連の押引文を施す。2連の刺突を施す。	破片
	373	X12Y13	縄文土器	深鉢				後期	口縁部は無文帯で頸部に区画の沈線文、胴部は縦位の条線を施す。外面煤付着。	破片
	374	X10Y11	縄文土器	深鉢				後期	縦位の条線の他に施文はなし。補修孔あり。	破片
	375	X10Y14	縄文土器	底部			7.8	前期	朝日C式期の底部。底部底辺及びその周辺に刻み目を施す。	底 1/5
	376	X14Y15	縄文土器	深鉢				八日市新保式	口縁部に貼付隆帯、RLの斜縄文を施す。	破片
	377	X12Y20	縄文土器	底部				前田式以降	胴部に多条の条線を施す。	破片
	378	X14Y21	縄文土器	底部			7.8	後期	胴部は縦位のRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	379	X8Y12	縄文土器	底部			13.2	中期中葉以降	胴部はRLの縦位縄文を施し、底辺には調整痕が残存する。	底 完存
	380	X10Y15	縄文土器	底部			11.6	後期	胴部は底部周辺まで縦位の縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内外面煤付着。	底 ほぼ完存
	381	X9Y13 X10Y13	縄文土器	底部			8.0	後期	底部周辺までRLの斜縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	382	X14Y20 X14Y21	縄文土器	底部			6.8	後期	底部周辺までRLの縦位縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	383	X14Y21	縄文土器	底部			8.4	後期	底部周辺までRLの縦位縄文を施し、底部には網代圧痕が残存する。	底 3/4
	384	X13Y12	縄文土器	鉢				中期後葉以降	全面LRの斜縄文を施す。	破片
	385	X10Y16	縄文土器	底部			7.0		施文無し。	底 ほぼ完存
	386	X25Y12	縄文土器	底部					施文無し。	破片
	387	X13Y11	縄文土器	土偶					板状土偶の脚部か。	
	388	X10Y14	縄文土器	土製品か					串田新式期の粘土貼付部分か。	
31図	389	X13Y14	縄文土器	土器片錘	9.7	6.9	0.6			完形
	390	X9Y13 X9Y17	縄文土器	鉢	12.6			北白川下層Ib式	口唇部に刻み目、口縁部から胴部にかけて繊細なC字爪形文を施す。内外面煤付着。	口 1/3
	391	X9Y14 X10Y13 X10Y14	縄文土器	深鉢	30.8			新崎式	口縁端部に刻み目、口縁部及び頸部に半隆起線文を施す。頸部から胴部にかけて貼付隆帯を垂下させ、縦位の沈線文を施す。胴部はやや節の大きなLRの斜縄文を施す。	口 1/4
	392	X14Y22 X14Y23 X14Y27	縄文土器	深鉢	31.3			新保式	口端部に半隆起線文、口縁部には縄文地に縦位の沈線文を施す。頸部は半隆起線文。口端部と頸部を連結させる貼付隆帯を施す。	口 1/3
	393	X10Y14 X10Y15 X10Y20	縄文土器	深鉢	20.6		11.5	新保式	口縁部に半隆起線文、頸部から胴部を連結させる半隆起線文、胴部との区画線を意味する半隆起線文を施す。胴部から底部周辺にかけては撚糸圧痕文。内外面煤付着。	1/3
	394	X10Y16 X11Y16	縄文土器	深鉢				気屋式	頸部に幾何学的な多条沈線文を施す。胴部はRLの斜縄文。	破片
	395	X10Y15	縄文土器	深鉢				新保式	縄文地に縦位の沈線文を施す。	破片
	396	X11Y16 X12Y19	縄文土器	深鉢	32.5			前田式～気屋式	口縁部及び頸部に沈線文を施す。内面煤付着。	破片
	397	X11Y15	縄文土器	深鉢	29.8			前田式～気屋式	頸部から胴部にかけて沈線文を施す。	破片
	398	X10Y13	縄文土器	深鉢	25.9			気屋式	口縁部に2条の沈線文を施す。	1/8
	399	X10Y16	縄文土器	深鉢				串田新式	貼付隆帯及び葉脈状文を施す。	破片
	400	X14Y21	縄文土器	鉢				前田式～気屋式	楕円状の沈線文を施す。	破片
	401	X11Y19	縄文土器	深鉢	21.7			前田式	頸部に沈線文を2条、その間に列点文を施す。	口 1/4
	402	X9Y13 X14Y20	縄文土器	鉢	37.8			気屋式	口端部をやや肥厚化し、LRの斜縄文を施す。口縁部は無文帯で、頸部に押引文を施す。	口 1/8
	403	X8Y13 X9Y13	縄文土器	深鉢	22.6			佐波・極楽寺式	斜方向の平行条痕文、その間に刻みを施す。 内外面煤付着。	口 1/5

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
32図	404	X13Y11 X14Y10	縄文土器	深鉢	(37.3)			新崎式	口端部をやや肥厚させ、刻みを施す。頸部に半隆起線文、口縁部との間を粘土貼り付けや蓮華文を施す。胴部はRLの斜縄文。口縁部に突起を貼り付ける。	口 1/4
	405	X10Y13 X10Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部をやや屈曲させ、RLの斜縄文を施し、頸部には三角押引文、胴部はLRの斜縄文を施す。	破片
	406	X14Y23 X14Y27	縄文土器	深鉢	28.6			気屋式	頸部に三角押引文、胴部はRLの縦走縄文を施す。	口 1/4
	407	X11Y14	縄文土器	鉢	14.0			中期中葉以降	全面LRの斜縄文。表裏面とも煤付着。	口 1/4
	408	X9Y11 X10Y13 X10Y15	縄文土器	深鉢	14.0			新保式	口唇部をやや肥厚させ1単位の突起を貼り付ける。その突起の下の口縁部に粘土貼付をおこなう。その他はRLの斜縄文を施文。	口 1/2
	409	X10Y16 X11Y13	縄文土器	深鉢	28.4			新崎式	全面羽状縄文を施す。内外面煤付着。	口～体 1/4
	410	X10Y14	縄文土器	鉢	13.8			新崎式	全面LRの斜縄文を施す。内面煤付着。	口 1/4
	411	X10Y15 X11Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	口唇部、口縁部、胴部にLRの斜縄文、頸部にはナデによる無文帯を成形する。外面煤付着。	破片
	412	X11Y16 X11Y19	縄文土器	深鉢	25.6			気屋式期	口縁部半隆起線を施し、やや肥厚化させる。胴部はRLの斜縄文。	口 1/4
	413	X10Y13	縄文土器	深鉢	25.6			上山田・天神山式	全面LRの斜縄文。内外面煤付着。	口 1/8
	414	X13Y14 X14Y15	縄文土器	深鉢				前期前葉	羽島下層II式並行か？羽状縄文を地文とし、口縁部に逆「3」字状刺突文を施す。	破片
33図	415	X8Y12	縄文土器	深鉢	30.8			早期後葉以降	全面にRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。	口～体 2/3
	416	X9Y13 X11Y15	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁部半隆起線文にる肥厚化。口縁部及び頸部に押引文を施す。外面煤付着。	破片
	417	X6～10Y9	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	全面LRの斜縄文。表面のみ煤付着。	破片
	418	X11・12 Y21・22 X14Y23	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	全面LRの斜縄文を施す。口唇部裏面に一単位の突起貼り付け。	破片
	419	X12Y20	縄文土器	深鉢				前田式	頸部に3条の沈線文、間に角状列点文を施す。	破片
	420	X14Y14 X14Y15	縄文土器	深鉢	42.0			串田新式	口縁部はナデによる無文帯、頸部から胴部にかけて5単位の櫛描文を地文とし、頸部に2条の沈線文を施す。	口 1/8
	421	X9Y13 X9Y14	縄文土器	鉢	13.0			北白川下層Ib式	口唇部に爪形刺突文、口縁部から胴部にかけて「D」字形爪形文を施す。	口 1/3
	422	X9Y18 X10Y16	縄文土器	底部			7.8		中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	423	X11・12 Y21・22 X14Y21	縄文土器	底部			7.2		中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 2/3
	424	X10Y15 X10Y16	縄文土器	底部			13.8		中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 2/3
	425	X10Y15 X10Y16	縄文土器	底部			8.2		中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	426	X10Y12	縄文土器	底部					中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	破片
	427	X14Y22 X14Y23	縄文土器	底部			12.7		中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 1/2
	428	X8Y13 X10Y14	縄文土器	底部			6.4	朝日C式	底部周辺から底辺にかけて刺突文を施す。内面煤付着。	底 2/3
34図	429	X12Y12	石器	磨製石斧	3.5	1.6	0.4		重量 4g 蛇紋岩	完形
	430	X8Y12	石器	石錘	7.3	7.4	2.7		重量 255g 安山岩	完形
	431	X9Y14	石器	石錘	6.3	6.3	1.2		重量 79 g	完形
	432	X9Y14	石器	石錘	5.8	6.0	2.4		重量 117 g	完形
	433	X9Y16	縄文土器	土器片錘	8.5	6.6	0.7			完形
	434	X12Y18	縄文土器	土器片錘	6.6	6.0	0.9			完形
	435	X12Y20	縄文土器	土器片錘	8.6	5.2	0.9			完形
	436	X11Y10	縄文土器	土器片錘	4.7	4.7	0.9			完形
	437	X10Y13	縄文土器	土器片錘	6.0	6.0	0.9			完形
	438	X10Y12	石器	磨石	8.7	9.1	7.4		片面に使用痕 重量 756 g	完形
	439	X11Y16	縄文土器	深鉢	25.9			新保式	口端部をやや肥厚化し、3連の半隆起線文を施す。頸部にも半隆起線文と胴部にかけて垂下する貼付隆帯を施し、LRの縄文を施す。外面煤付着。	ほぼ完形
	440	X10Y14	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。頸部にも同様の施文をし、胴部にかけて垂下させる粘土貼付をおこなう。	破片
	441	X14Y13	縄文土器	深鉢				新保式	多条半隆起線文、屈曲部には刻み目を施す。	破片
	442	X14Y14	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。	破片
	443	X10Y15	縄文土器	深鉢				新保式	442と同様の施文。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
34図	444	X10Y12	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。	破片
	445	X11Y12	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に半隆起線文。胴部は縦位の半隆起線文、摩滅が著しく不明瞭だが縄文を施す。	破片
	446	X10Y13	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部に刻み、多条の半隆起線文を施す。半隆起線文の間をRLの斜縄文。	破片
	447	X10Y15	縄文土器	深鉢				新保式	口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。その下、半隆起線文、LRの斜縄文を施す。	破片
	448	X14Y20	縄文土器	深鉢				新保式	口端部に刻み目、多条の半隆起線文を施す。	破片
	449	X13Y16	縄文土器	深鉢				新保式	多条半隆起線文、刻み目を施す。	破片
	450	X14Y20	縄文土器	深鉢				新崎式	口端部をやや肥厚させ、粘土帯を貼り付ける。口縁部はRLの斜縄文を施す。	破片
	451	X13Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部に蓮華文、胴部は多条半隆起線文を施す。	破片
	452	X13Y16	縄文土器	深鉢				新崎式	多条半隆起線文、垂下させる粘土帯を施し、隆起線文内には櫛描き文を施す。	破片
	453	X14Y11	縄文土器	深鉢				古府式	多条半隆起線文を施す。	破片
	454	X14Y14	縄文土器	深鉢				古府式	口縁部に半隆起線文、三角刺突文を施す。頸部は無文帯で、胴部にはLRの斜縄文を施す。	破片
	455	X13Y20	縄文土器	深鉢				古府式	多条半隆起線文を施し、半隆起線文内にやや節の大きな縄文を施す。	破片
	456	X14Y20	縄文土器	深鉢				古府式	半隆起線文、その間に櫛描き文を施す。	破片
	457	X10Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部・胴部ともLRの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片
	458	X9Y12 X10Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部を屈曲させ、貼付隆帯上にLRの縄文を施す。隆帯内に蛇行沈線文を施す。	破片
	459	X10Y12	縄文土器	深鉢				串田新式	3単位もしくは4単位の櫛描き文を施す。	破片
	460	X10Y14	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	461	X13Y16	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	462	X10Y12	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	463	X8Y13	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	464	X11Y17	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	465	X9Y12	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。外面煤付着。	破片
	466	X8Y12	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	467	X8Y12	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	468	X11Y16	縄文土器	深鉢	23.8			中期中葉以降	粗製。	口 1/4
	469	X11Y14	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	470	X11Y16	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	471	X10Y14	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
	472	X7Y13	縄文土器	深鉢	20.8			中期中葉以降	粗製。	口 1/6
	473	X10Y12	縄文土器	深鉢				中期中葉以降	粗製。	破片
35図	474	X10Y15 X11Y15	縄文土器	浅鉢	32.8			新崎式	口縁部に半隆起線文、胴部は縦位の羽状縄文を施す。	口 1/5
	475	X12Y13	縄文土器	深鉢				串田新式以降	RLの縄文地に2連の沈線文を施す。補修孔あり。内外面煤付着。	破片
	476	X8Y12 X8Y13	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁部に刻み目、胴部にLRの斜縄文を施した後、ナデ調整をおこなっている。	破片
	477	X13Y13	縄文土器	深鉢	28.0			中期中葉以降	全面にLRの斜縄文を施す。表面に煤が付着。	口 1/4
	478	X11Y12 X12Y13	縄文土器	深鉢	36.1			串田新式	口縁部をやや肥厚させ、貝殻腹縁による刺突を施す。頸部には半隆起線文。	破片
	479	X10Y13	縄文土器	深鉢				串田新式	半隆起線文上に貝殻腹縁による刺突、縦位の沈線文、横位の沈線文を施す。沈線文内には列点文を施す。	破片
	480	X12Y17	縄文土器	深鉢				前田式	多条沈線文、その内部に刻み目を施す。	破片
	481	X10Y13 X10Y14	縄文土器	深鉢	29.5			前田式	頸部に沈線文、その内部に列点文、蛇行沈線文などを施す。外面煤付着。	破片
	482	X14Y22	縄文土器	深鉢	23.0			気屋式	口縁部にRLの斜縄文、頸部に2連の三角押引文、その下胴部にはRLの縦位縄文を施す。	破片
	483	X11Y17 X11Y18	縄文土器	深鉢	39.6			気屋式	口縁部をやや肥厚させ、多条の沈線文を施す。頸部には三角刺突文を2連にわたり、胴部はRLの縦位縄文を施す。外面煤付着。	口 1/4
	484	X10Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	山形口縁部波頂部を基点に刺突をおこない、頸部に3連の三角押引文を施す。胴部はRLの縦位縄文を施す。	破片
	485	X10Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部にRLの斜縄文、頸部に3連の三角押引文を施す。	破片
	486	X12Y17	縄文土器	深鉢	34.2			気屋式	口唇部及び口縁部に押引文、頸部には三角押引文を施す。山形口縁部波頂部に刺突を施す。	口 1/5
	487	X11Y18	縄文土器	深鉢				古府式	口縁部に蛇行貼付隆帯、胴部はRLの斜縄文を施す。内面煤付着。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
35図	488	X10Y14	縄文土器	深鉢か	29.7			前田式～気屋式	口縁部に沈線文、頸部に蛇行押引文を施す。外面煤付着。	口 1/8
	489	X13Y28	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口唇部に突起を貼り付け、口縁部から頸部にかけて多条半隆起線文を施す。	破片
	490	X10Y12	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貼付隆帯、頸部の隆帯と連結させる縦位の隆帯を施す。隆帯内は沈線文。	破片
	491	X11Y16	縄文土器	浅鉢	42.5			前田式～気屋式	口縁部に沈線文を施す。	破片
	492	X8Y13 X10Y14	縄文土器	底部				早期後半 ～前期前半	尖底。表面のみ条痕文。	底 1/8
	493	X13Y20 X14Y20	縄文土器	底部			11.5	中期～後期	全面にRLの斜縄文。裏面の煤には種子付着。 内外面煤付着。	底 1/8
	494	X12Y22	縄文土器	底部			10.2	中期前半以降	全面RLの斜縄文。内外面煤付着。	体下半 1/2
	495	X10Y12	縄文土器	底部			6.4	中期後半以降		底 完存
	496	X10Y13	縄文土器	浅鉢	23.8			前田式～気屋式	口縁部から頸部にかけて、2連の沈線文内に列点文を施す。口唇部には沈線文及び刺突文を施す。	口 1/3
	497	X10Y14	縄文土器	深鉢か				新保式以降	口縁部に粘土帯を貼り付け、その上に縄文を施す。	破片
	498	X14Y20	縄文土器	深鉢				新崎式	全面LRの斜縄文地に口縁部は刻み、頸部は3連の沈線文を施す。	破片
	499	X14Y12	縄文土器	鉢	21.5			新保式	口縁部に2連の沈線文、頸部に半隆起線文、半隆起線文上には刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて粘土帯を垂下させ、その上に短沈線を施す。胴部はRLの斜縄文。外面煤付着。	破片
	500	X14Y12	縄文土器	深鉢か				新保式	口縁部に突起を貼り付け、全面LRの斜縄文を施す。	破片
36図	501	X14Y15	縄文土器	鉢	11.4			早期後半 ～前期前半	半截竹管による「Σ」字状刺突文を施す。	口 1/3
	502	X11Y16	縄文土器	鉢				新崎式	口縁部に押引文、半隆起線文を2条施す。頸部は無文帯。	破片
	503	X6Y16 X9Y16 X10Y16	縄文土器	深鉢	26.0			新崎式 ～上山田・天神山式	口唇部に突起を貼り付け。口縁部に半隆起線文及び沈線文、頸部に多条半隆起線文及び箆描き文、貼付隆帯、蓮華文を施す。	口 1/3
	504	X7Y13 X9Y13	縄文土器	深鉢	20.9	20.8	7.5	上山田・天神山式	口唇部に貼付隆帯、口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部及び頸部には多条半隆起線文、胴部は縄文地に縦位の半隆起線文を施す。 内外面煤付着。	ほぼ完形
	505	X11・12Y21・22 X12Y22	縄文土器	鉢	15.6			上山田・天神山式	口縁部及び頸部に沈線文、その間に刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて縦位の半隆起線文を施す。	口 1/3
	506	X9Y16 X10Y15	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部無文帯で、頸部に蛇行沈線文、胴部はRLの縦位縄文を施す。	破片
	507	X12Y17	縄文土器	深鉢か				新崎式以降	口縁部に刻み目、頸部は半隆起線文を施す。	破片
	508	X12Y17	縄文土器	深鉢				新崎式	横位の半隆起線文及び縦位の半隆起線文を施し、その間に櫛描き文を施す。	破片
	509	X14Y22 X14Y27	縄文土器	深鉢	31.6			気屋式	口縁部及び頸部に三角押引文、胴部はRLの縦位縄文を施す。	破片
	510	X8Y16 X9Y16	縄文土器	鉢	18.5			堀之内2式並行	口縁部をやや肥厚させ、口縁部から胴部にかけて磨消縄文を施す。	破片
	511	X14Y22 X14Y27	縄文土器	深鉢	27.5			気屋式	口縁端部にRLの斜縄文、胴部はRLの縦位縄文を施す。外面煤付着。	破片
	512	X11Y14	縄文土器	深鉢	19.0			後期前半	口縁端部をやや肥厚させ、胴部はLRの斜縄文を施す。	口 1/5
	513	X10Y11	縄文土器	深鉢か				中期後葉以降	粗製。縄文施文のみ。外面煤付着。	破片
	514	X11Y14	縄文土器	土器片錘						
	515	X12Y17	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁端部を肥厚させ、口縁部は無文帯、胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
	516	X10Y15 X11Y14	縄文土器	深鉢				中期後葉以降	粗製。縄文施文のみで、施文後にナデをおこなっている。	破片
	517	X12Y17	縄文土器	浅鉢	29.4			気屋式	施文なし。	破片
	518	X12Y19	縄文土器	鉢				前田式～気屋式	蛇行沈線文、その末端に刺突文を施す。	破片
	519	X11Y19	石器	石錘	6.4	6.3	2.0		両欠きもしくは切り目。重量122g 安山岩	完形
	520	X11Y15	石器	石錘	5.7	4.2	2.0		両欠きもしくは切り目。重量68g	完形
	521	X11Y17	石器	石錘	5.0	4.7	1.9		両欠きもしくは切り目。重量73g	完形
	522	X11Y15	石器	石錘	4.7	3.8	1.0		両欠きもしくは切り目。重量28g 紐をかけた痕跡。	完形
	523	X10Y15	石器	石皿	16.6	17.0	5.3		両面に擦痕あり。重量1,513g	
	524	X14Y27	縄文土器	土製円盤	7.9	7.7	0.9			完形
	525	X14Y18	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部には半隆起線文を横位・縦位、貼付隆帯を施す。	破片
	526	X14Y18	縄文土器	深鉢				古府式	口縁部にやや太めの半隆起線文を渦状に、その上に刻みを施す。	破片
	527	X15Y14	縄文土器	土製円盤	7.8	8.2	0.9	新崎式	新崎式の土器片を利用。	

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
36図	528	X12Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部をやや肥厚させ、その上に刻みを施す。口縁部は半隆起線文。	破片
	529	X9Y11	縄文土器	深鉢				新崎式	縦位の半隆起線文内にRLの斜縄文を施す。	破片
	530	X13Y18	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁端部を肥厚させ、半隆起線文を施す。口縁部は蓮華文、頸部は半隆起線文を施す。	破片
	531	X11Y14	縄文土器	深鉢				新崎式	口縁部に半隆起線文、その上に刻みを施す。	破片
	532	X14Y12	縄文土器	浅鉢				新崎式	口縁部に多条の半隆起線文、渦状の半隆起線文を施す。胴部はLRの斜縄文を施す。	破片
	533	X13Y16	縄文土器	底部			10.0	新崎式期	底辺周辺まで縦位の半隆起線文、その間に刻み目を施す。	底 1/8
	534	X14Y18	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁端部をやや肥厚させ、口縁部には3連の沈線文を施す。	破片
	535	X11Y19	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部は無文帯で、頸部に刻み及び沈線文を施す。	破片
	536	X10Y20 X11Y19	縄文土器	深鉢	20.5			前田式～気屋式	口縁部は無文帯で、頸部から胴部にかけて平行沈線文や蛇行沈線文を施す。外面煤付着。	口 1/8
	537	X12Y17	縄文土器	深鉢				前田式	口縁部は無文帯で、頸部の沈線文内に列点文を施す。外面煤付着。	破片
	538	X11Y17	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に刻み、沈線文、頸部に三角押引文を施す。	破片
	539	X14Y16	縄文土器	深鉢				前期	ループ縄文を全面に施す。	破片
	540	X11Y15	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部をやや肥厚させ、全面にRLの斜縄文を施す。	破片
	541	X12Y17	縄文土器	浅鉢	15.5			気屋式	捻り状の把手を付ける。	破片
	542	X12Y14	縄文土器	底部				前期前葉以降	底辺周辺まで羽状縄文。	底 1/2
	543	X11Y16 X12Y17	縄文土器	底部				串田新式以降	底辺周辺まで櫛描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	破片
37図	544	X12Y18	石器	磨製石斧		5.5	2.8		刃部 重量118g 蛇紋岩	
	545	X10Y19	石器	石錘	5.5	3.7	1.9		重量62g	完形
	546	X10Y17	石器	敲石	8.4	6.3	3.2		重量238g	完形
	547	X12Y11	縄文土器	土器片錘		5.2	0.9			
	548	X17Y12	石器	擦切石器?	32.2	16.9	8.2		重量6,200g	
	549	X11Y18	土製品	ドーナツ状	15.8	16.3	8.0			完形
	550	X12Y12 X12Y13	縄文土器	深鉢				前田式	口縁部はナデによる無文帯で、頸部に沈線文、その間に列点文を施す。胴部はLRの斜縄文。	体上半 1/4
	551	X13Y12	縄文土器	深鉢	33.9			前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文や蛇行沈線文を施す。胴部はRLの縦走縄文。	口 2/3
	552	X11·12 Y21·22	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部にLRの斜縄文、頸部に三角押引文、胴部は縦走縄文。	破片
	553	X11·12 Y21·22	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁端部にRLの斜縄文、口縁部は半隆起線文、頸部から胴部にかけては縦走縄文、頸部に三角押引文を施す。	破片
	554	X11·12 Y21·22	縄文土器	深鉢	28.2			気屋式	口縁端部に刻み目、頸部にも同様の刻み目を施す。口縁部に2連の刺突文。外面煤付着 。	口 1/8
	555	X9Y13 X11Y14	縄文土器	深鉢				気屋式	頸部に三角押引文、胴部にRLの縦走縄文を施す。内外面煤付着。	体 2/3
38図	556	X12Y13	縄文土器	深鉢				上山田·天神山式	口縁部をやや肥厚させ、多条半隆起線文を施す。	破片
	557	X13Y12	縄文土器	深鉢				上山田·天神山式	口唇部に沈線文、口縁部に半隆起線文を施す。	破片
	558	X12Y11	縄文土器	深鉢				新保式	縦位の半隆起線文内に、刻みを施す。	破片
	559	X11Y16	縄文土器	深鉢				上山田·天神山式	口縁部に粘土帯を垂下させ、全面にRLの斜縄文を施す。	破片
	560	X10Y14	縄文土器	深鉢				上山田·天神山式	口縁部を肥厚させ、その直下に刻み目を施す。	破片
	561	X11·12Y21·22 X12Y23	縄文土器	深鉢	23.0			上山田· 天神山式以降	粗製。全面LRの斜縄文を施す。	口 7/8
	562	X9Y18	縄文土器	深鉢				串田新式以降	粗製。口縁部をやや肥厚させ、全面RLの斜縄文を施す。	破片
	563	X13Y12	縄文土器	深鉢	26.0			串田新式 ～前田式	口縁部無文帯で、頸部に押引文を施す。	口 1/4
	564	X13Y12 X13Y13	縄文土器	底部			9.1	後期	縄文施文のみだが、施文後にナデ調整をおこなう。底辺に網代圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	565	X15Y17	縄文土器	底部			14.0	中期前葉	しっかりとした成形。胴部はLRの無節縄文を施す。胴部及び底辺に煤が付着。	底 完存
	566	X13Y13	縄文土器	底部			9.8	中期後葉	底辺周辺までRLの縦走縄文を施す。海綿骨針を含む。	底 1/3
	567	X11·12Y21·22	縄文土器	底部			11.0	後期中葉	施文なし。	底 ほぼ完存
	568	X10Y20	石器	砥石	12.1	14.5	5.4		重量1,285g	完形
	569	X10Y23	石器	磨り敲石	11.0	8.0	4.6		磨り石と敲石の両方の機能を備える。 重量642g	完形
	570	X10Y23	石器	磨り敲石	11.3	9.3	3.7		磨り石と敲石の両方の機能を備える 重量599g	完形
	571	排土	石器	磨り敲石	11.0	9.2	4.1		磨り石と敲石の両方の機能を備える。 重量667g	完形
	572	X10Y23	石器	敲石	8.5	6.2	3.6		重量261g 蛇紋岩	完形
	573	排土	縄文土器	土器片錘	7.6	5.7	0.7			
	574	X11Y11	縄文土器	深鉢	26.3			下野式	口唇部押圧による波状口縁を成形。その他施文なし。外面煤付着。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高幅	底径厚さ〕	時期	備考	残存量
38図	575	X11Y11	縄文土器	深鉢				新崎式	口唇部を肥厚させ、口縁部に半隆起線文を施す。	破片
	576	X13Y17	縄文土器	深鉢				新崎式	多条半隆起線文、その内部に刻み目を施す。外面煤付着。	破片
	577	X11Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に半隆起線文、頸部に貝殻腹縁文を施す。裏面口縁部付近にも沈線文を施す。	破片
	578	X11Y11	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁端部をやや肥厚させ、沈線文を巡らす。頸部は縦沈線線と縄文を施す。	破片
39図	579	SX07	縄文土器	深鉢				前田式	頸部に縦位の沈線文、平行沈線文、沈線文内に短沈線もしくは列点文を施す。胴部はRLの縦走縄文。	体 2/3
	580	SX07	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文、胴部は縦走縄文を施す。	破片
	581	SX07	縄文土器	深鉢か				後期中葉	口端部に粘土帯を貼り付け、その他はRLの斜縄文施文のみ。	破片
	582	SX07	縄文土器	深鉢				串田新式	隆帯を垂下させる。	破片
	583	SX07	縄文土器	底部			11.2		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	584	SX07	縄文土器	底部			11.6		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	585	SX07	縄文土器	底部			11.6		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	586	SX07	縄文土器	底部			10.8		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内外面煤付着。	底 4/5
	587	SX07	縄文土器	底部			9.1		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。外面煤付着。	底 ほぼ完存
	588	SX07	縄文土器	底部			5.1		後期の底部。胴部周辺まで縄文を施す。	底 完存
40図	589	SX09	石器	ノッチ状石器	2.8	2.7	0.9		重量 6g チャート	
	590	SX09	石器	磨製石斧	3.3	1.7	0.5		ノミ状磨製石斧。重量 4g 蛇紋岩	完形
	591	SX09	石器	磨製石斧	13.4	6.2	3.0		重量362g 蛇紋岩	ほぼ完形
	592	SX09	石器	石錘	9.0	6.8	2.2		両欠き。焼きこげ 重量195g	完形
	593	SX09	石器	石錘	7.0	4.4	1.9		両欠き。重量104g	完形
	594	SX09	石器	石錘	5.7	5.1	1.8		両欠き。重量78g	完形
	595	SX09	石器	石錘	3.7	3.5	1.7		両欠き。重量34g	完形
	596	SX09	縄文土器	土器片錘	4.0	4.3	0.6		両面に漆を塗布	ほぼ完形
	597	SX09	縄文土器	土器片錘		4.4	1.1			1/2
	598	SX09	縄文土器	土器片錘		5.0	1.3			
	599	SX09	縄文土器	土器片錘		7.0	0.9			
	600	SX09	縄文土器	土器片錘		4.7	0.8			
	601	SX09	縄文土器	土器片錘		4.8	0.8			
	602	SX09	縄文土器	土器片錘		5.5	1.2			
	603	SX09	縄文土器	土器片錘		5.0	0.8			
	604	SX09	縄文土器	土器片錘		4.7	0.8			
	605	SX09	縄文土器	深鉢				北白川下層Ib式並行	口縁部から頸部にかけて「C」字形爪形文を施す。裏面は条痕調整。内外面煤付着。	破片
	606	SX09	縄文土器	深鉢	30.6			新保式	口唇部に粘土帯を貼り付け、口端部に刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文。	破片
	607	X14Y17	縄文土器	深鉢				新保式	口端部に半隆起線文、口縁部にはRLの斜縄文、頸部には半隆起線文を施す。	破片
	608	X14Y17	縄文土器	深鉢				新保式	口端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文を垂下させ、その間には箆描き文を施す。	破片
	609	SX09	縄文土器	深鉢	23.5			新保式	口端部をやや肥厚させ、口縁部に半隆起線文を施す。口縁部と頸部を連結させる垂下半隆起線文、頸部には、LRの斜縄文地に沈線文を施す。	口 1/8
	610	SX09	縄文土器	深鉢				新保式	口端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部には半隆起線文を施し、頸部は無文帯。	破片
	611	SX09	縄文土器	深鉢				新保式	半隆起線文内に箆描き文を施す。	破片
	612	SX09	縄文土器	深鉢	23.3			上山田・天神山式	口縁部に半隆起線文、三角刺突文、眼鏡状突起を施す。頸部に半隆起線文、胴部はRLの斜縄文を施す。	口 1/4
	613	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口端部に半隆起線文、頸部も同様の半隆起線文を施す。その間の口縁部は三角刺突を施す。	破片
	614	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	多条の半隆起線文を施し、その間に三角刺突文を施す。内外面煤付着。	破片
	615	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	横位の半隆起線文、渦状の半隆起線文、三角刺突文を施す。	破片
	616	SX09	縄文土器	底部			11.0	上山田・天神山式	隆起線文及び三角刺突文、列点文を施す。内面に煤が付着。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
40図	617	SX09	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	円状の沈線文を口縁部付近、頸部には波状沈線文を施す。その間は無文帯で、胴部はRLの縦走縄文。	破片
	618	SX09	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	蛇行沈線文を施す。	破片
	619	SX09	縄文土器	深鉢	25.2			岩峅野式	口縁部から頸部にかけて沈線文及び蛇行沈線文を施す。外面煤付着。	口 1/8
	620	SX09	縄文土器	深鉢	21.8	23.6	12.1	気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に半隆起線文を巡らす。半隆起線文には両脇に三角刺突文、胴部には縦位の多条半隆起線文及び蛇行沈線文を施す。底部底辺には簾状圧痕が残存する。外面煤付着。	完形
	621	SX09	縄文土器	深鉢か				前田式	口端部をやや肥厚させ、その直下は半隆起線文を施す。半隆起線文の下には三角刺突文。外面煤付着。	破片
	622	SX09	縄文土器	深鉢	31.3			上山田・天神山式	口縁部から頸部にかけて沈線文・列点文を施す。	破片
	623	SX09	縄文土器	深鉢	32.2			前田式	口縁部と頸部には多条の半隆起線文、口縁部文様帯と頸部文様帯を連結させる隆帯を施す。胴部は縦位の半隆起線文。	口 1/4
41図	624	SX09	縄文土器	深鉢				新保式	多条の半隆起線文、蓮華文、渦状の隆帯、隆帯上には刻み目を施す。内外面煤付着。	口 1/8
	625	SX09	縄文土器	深鉢				新保式	蓮華文、頸部に半隆起線文を施す。内面煤付着。	破片
	626	SX09	縄文土器	深鉢	(21.3)			串田新式	口縁部から頸部にかけて横位の沈線文、間に斜位の沈線文を施す。頸部は2連の沈線文の間に刺突を施す。胴部はLRの縦走縄文。内外面煤付着。	口 1/8
	627	SX09	縄文土器	浅鉢	40.2			前田式～気屋式	口縁部に沈線文、頸部に波状沈線文を施す。	破片
	628	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。外面煤付着。	破片
	629	SX09	縄文土器	深鉢	29.4			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	口 1/6
	630	SX09	縄文土器	深鉢	30.3			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	口 1/4
	631	SX09	縄文土器	深鉢	28.0			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。外面煤付着。	破片
	632	SX09	縄文土器	深鉢	23.8			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。内外面煤付着。	口 1/4
	633	SX09	縄文土器	深鉢	29.4			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	口 1/2
	634	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	破片
	635	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	破片
	636	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。	破片
	637	SX09	縄文土器	深鉢	24.7			気屋式	口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。内面煤付着。	口 1/4
	638	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口唇部に沈線文を施し、沈線文末端部に刺突をおこなう。山形口縁波頂部に沈線文及び刺突文、頸部に沈線文を施す。	破片
	639	SX09	縄文土器	深鉢				新保式	多条の半隆起線文、その間にLRの斜縄文を施す。内面煤付着。	破片
	640	SX09	縄文土器	深鉢	26.5			串田新式～気屋式	口縁部は山形口縁に沿った沈線文を巡らし、胴部はRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。	ほぼ完形
	641	SX09	縄文土器	深鉢	(41.4)			串田新式～気屋式	640と同様だが、口縁部に巡らす沈線文の数が多い。胴部に同様のRLの斜縄文を施す。	口 1/2
42図	642	SX09	縄文土器	深鉢	21.8			気屋式	口縁部にRLの斜縄文、頸部は無文帯。胴部にRLの縦走縄文を施す。内外面煤付着。	口 3/4
	643	SX09	縄文土器	深鉢	22.5			気屋式	口唇部及び口縁部にRLの斜縄文、頸部から胴部にかけてはRLの縦走縄文を施す。	口 1/6
	644	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁端部に粘土帯を貼り付け肥厚させ、刺突をおこなう。口縁部はRLの斜縄文、頸部から胴部にかけてはRLの縦走縄文を施す。	破片
	645	SX09	縄文土器	鉢	36.3			気屋式期	口縁部に沈線文を1条、胴部にRLの縦走縄文を施す。	口 1/4
	646	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	口唇部をやや肥厚させ、口縁部に2連の半隆起線文、頸部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ〕	器高〔幅〕	底径〔厚さ〕	時期	備考	残存量
42図	647	SX09	縄文土器	鉢				気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に1条の沈線文を巡らす。胴部はRLの斜縄文を施す。	破片
	648	SX09	縄文土器	深鉢か				気屋式	LRの縄文地、口縁部に1条の沈線文を巡らす。	破片
	649	SX09	縄文土器	深鉢				中期後葉以降	全体LRの斜縄文。口縁部に刻み目を施す。外面煤付着。	破片
	650	SX09	縄文土器	深鉢か				気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に1条の沈線文を巡らし、胴部はLRの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片
	651	SX09	縄文土器	深鉢				中期後葉以降	口縁端部をやや肥厚させ、全体に横位の羽状縄文を施す。	破片
	652	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	粗製。全体にLRの斜縄文を施す。	破片
	653	SX09	縄文土器	深鉢				後期	全体にRLの斜縄文を施す。	破片
	654	SX09	縄文土器	深鉢か				後期	口唇部を肥厚させ、口縁端部に刻みを施す。口縁部以下はLRの斜縄文。外面煤付着。	破片
	655	SX09	縄文土器	深鉢か				後期	口唇部を肥厚させ、口縁端部に刻みを施す。口縁部以下はLRの斜縄文。	破片
	656	SX09	縄文土器	深鉢か				後期	粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。	破片
	657	SX09	縄文土器	深鉢か				後期	粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。口縁部無文帯。	破片
	658	SX09	縄文土器	深鉢か				後期	粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。口縁部無文帯。	破片
	659	SX09	縄文土器	深鉢				北白川下層IIa式	口縁部に「C」字形爪形文、胴部にRLの斜縄文を施す。外面煤付着。	破片
	660	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部は無文帯で、頸部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。	破片
	661	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	全体にRLの斜縄文を施す。	破片
	662	SX09	縄文土器	深鉢か				中期中葉以降	口唇部をやや肥厚させ、全体にLRの斜縄文を施す。	破片
	663	SX09	縄文土器	深鉢	10.7			中期中葉以降	施文なし。全体的に煤が付着している。	口 1/4
	664	SX09	縄文土器	底部			6.0		施文なし。内外面煤付着。	底 1/8
	665	SX09	縄文土器	深鉢				上山田・天神山式	全体にLRの斜縄文を施す。内外面煤付着。	破片
	666	SX09	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部はLRの斜縄文、頸部は無文帯、胴部は口縁部と同様LRの斜縄文を施す。	破片
	667	SX09	縄文土器	深鉢	31.8			串田新式	口縁部と頸部に平行沈線文、その間に菱形沈線文を施す。外面煤付着。	口 1/3
	668	SX09	縄文土器	台付浅鉢				串田新式	施文なし。	体下半 1/3
43図	669	SX09	縄文土器	底部			(14.0)	中期前葉	全面、二枚貝による条痕調整。底部底辺に網代圧痕が残存する。外面煤付着。	底～体下半 1/3
	670	SX09	縄文土器	底部			8.1	後期前葉	底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 ほぼ完存
	671	SX09	縄文土器	底部			8.0	後期前葉	底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	672	SX09	縄文土器	底部			7.3	後期前葉	底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	673	SX09	縄文土器	底部			10.8	後期前葉	底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施す。	底 2/3
	674	SX09	縄文土器	底部			9.5	後期前葉	底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。	底 完存
	675	SX09	縄文土器	底部			13.3	中期	胴部は施文なし。底部底辺に葉脈状圧痕が残存する。内面煤付着。	底 1/2
	676	SX09	縄文土器	底部			14.0	中期	底辺周辺までRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。	底 1/3
	677	SX09	縄文土器	底部			10.3	新保式	底辺まで縄文地に半隆起線文もしくは、半隆起線文に刻みを施す。網代圧痕が残存する。	底 1/4
	678	SX09	縄文土器	底部			8.2	新保式	底辺まで縄文地に半隆起線文もしくは、半隆起線文に刻みを施す。	破片
	679	SX09	縄文土器	鉢	46.2			新崎式	口唇部をやや肥厚させる。その他は施文なし。	口 1/6
	680	SX09	縄文土器	底部			8.0	後期	胴部は施文なし、底部底辺に網代圧痕が残存する。	底 1/2
	681	SX09	縄文土器	深鉢				串田新式	摩滅のため不明瞭だが、半隆起線文上に刻みを施す。	破片
	682	SX09	縄文土器	深鉢	(18.0)			後期前葉	口縁部を大きく屈曲させ、内面にせり出しを成形する。	口 1/5
	683	SX09	縄文土器	鉢	22.6			後期前葉	施文なし。	口 1/3
	684	SX09	縄文土器	鉢	34.0			後期前葉	施文なし。	破片
	685	SX09	縄文土器	鉢				気屋式	渦状もしくは平行沈線文を施し、平行沈線文の末端には刺突を施す。	体上半 1/8
	686	SX09	縄文土器	鉢				前田式	鉢形土器の把手部。	破片
	687	SX10	縄文土器	深鉢	24.6			前田式～気屋式	口縁端部を肥厚させ、口縁部から頸部にかけて平行沈線文、口縁部と頸部の平行沈線文を連結させる蛇行沈線文を施す。内外面煤付着。	口 1/4
44図	688	X14Y33	木製品	長弓状木製品	139.8	3.3	3.4			
	689	X14Y32	木製品	板状木製品	19.9	12.3	1.7			

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径〔長さ	器高 幅	底径 厚さ〕	時期	備考	残存量
44図	690	X14Y14	木製品	刳り抜き板状木製品	24.3	10.3	2.6		農耕具もしくは起耕具として石川県八日市地方遺跡にて類例あり。	
	691	X13Y14	木製品	棒状木製品	51.0	2.4	2.0			
	692	X10Y16	木製品	板状木製品	25.8	2.3	1.3			
	693	X13Y16	木製品	ウキ状木製品	6.6	2.5	2.7			
	694	X11Y13	木製品	建築部材?	11.0	2.7	2.3			
	695	X13Y17	木製品	板状木製品	24.5	3.7	1.8			
45図	696	X14Y18	木製品	短弓状木製品	24.8	1.4	1.5		イヌガヤ。	完形
	697	X13Y17	木製品	短弓状木製品	12.5	1.1	1.1		イヌガヤ。	
	698	X10·11Y12·13	木製品	男根状木製品	125.1	15.5	15.5		クヌギ。	完形
46図	699	X14Y15	木製品	掘棒?	95.0	4.2	2.4		コナラ。	ほぼ完形
	700	X11Y12	木製品	掘棒?	89.5	8.7	5.3			
	701	X14Y18	木製品	掘棒?	84.5	6.0	4.8			
	702	X13Y17	木製品	掘棒?	68.2	4.8	3.6			
	703	X13Y14	木製品	板状木製品	27.0	11.8	3.8			
	704	X15Y18	木製品	建築部材?	39.0	6.2	3.0			
	705	X13Y17	木製品	建築部材?	23.5	16.5	7.0			
	706	X13Y18	木製品	棒状木製品	44.6	2.7	2.7			
47図	707	X13Y15	木製品	棒状木製品	57.8	4.4	4.3			
	708	X13Y15	木製品	棒状木製品	69.3	7.8	4.0			
	709	X12Y11	木製品	棒状木製品	52.0	3.4	1.7			
	710	X12Y18	木製品	棒状木製品	24.6	4.6	1.8			
	711	X13Y18	木製品	棒状木製品	147.7	8.5	9.4			
	712	SX09	木製品	棒状木製品	26.2	5.3	4.8			
	713	SX08	縄文土器	深鉢	24.1			気屋式	施文なし。	破片
	714	SX08	縄文土器	深鉢	25.8				口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文を3条、その下3連の刺突文を施す。胴部はLRの縦走縄文。	口 1/4
	715	SX08	石器	石錘	8.7	5.2	1.3		両打欠石錘。重量 85g	完形
48図	716	X12Y18	木製品	建築部材?	175.0	18.9	15.9		オニグルミ。	
	717	X12Y17	木製品	建築部材?	70.9	12.3	12.3		トネリコ属。	

口：口縁部　底：底部　体：体部